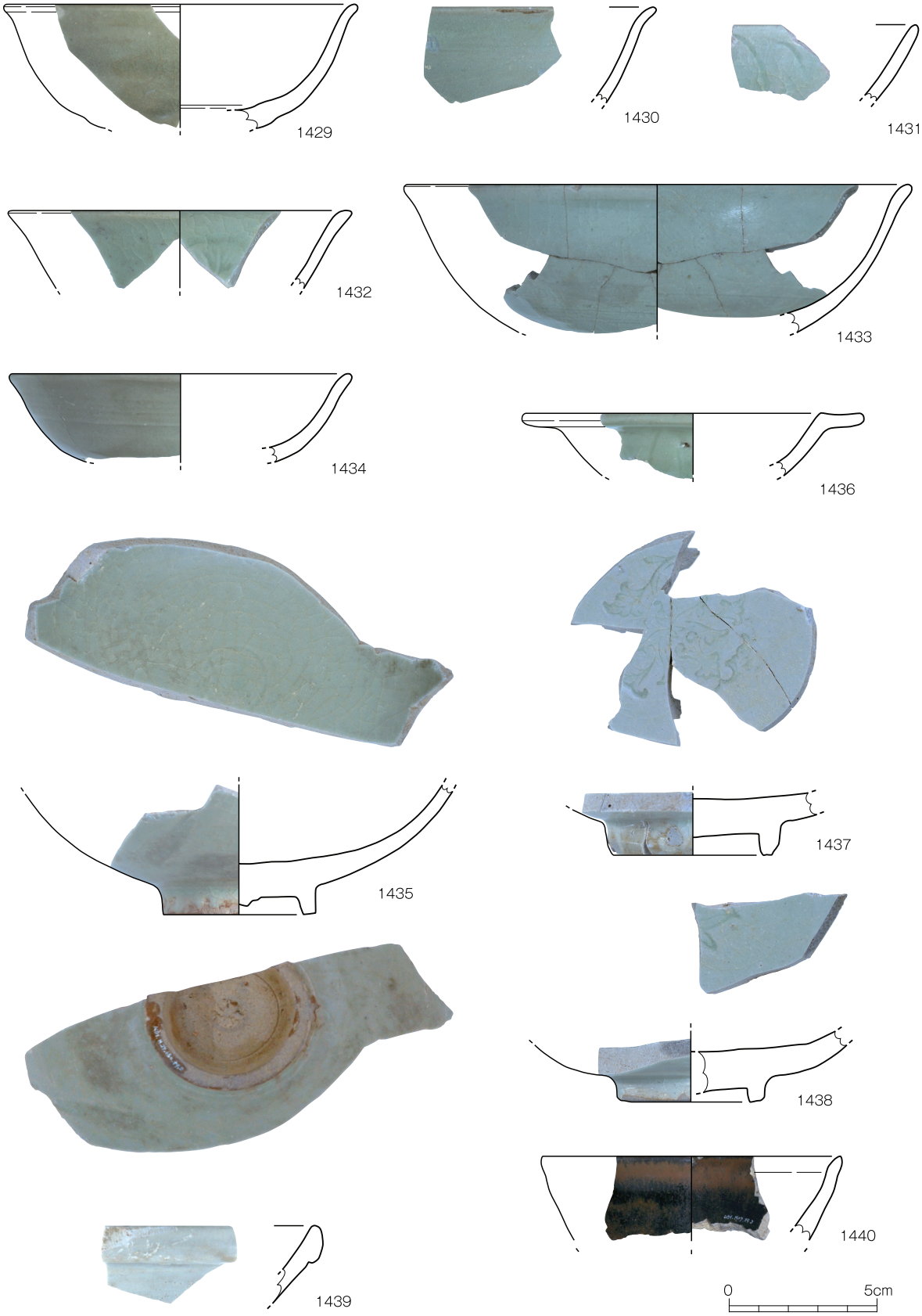


第249図　不明遺構出土遺物（2）

第２節　遺物

出土した遺物には土師器・須恵器・須恵質陶器・瓦質土器・土師質土器・土製品・滑石製石鍋・青磁・白磁・青花・陶器・天目・宋銭がある。

土師器（第250図）

器種には坏と皿がある。

坏（1441～1454）はいずれも糸切り底のものである。内弯するものと，外へまっすぐ開きながら伸びるものとがある。1441は口縁直径が14cm，高さが3.7cm，底部直径が9.2cmの内弯する大型の坏で，口縁端は丸みをもっておわる。底に数条の棒状押圧痕がみられる。1446と1448は底からまっすぐ外へ開きながら伸びる器形をしている。

1446は口縁端が丸みをおびて厚く，作りも雑で，1448は細くて口縁端が尖がっている。口縁直径は1446が11cm，1448が12cmで，底部直径は共に9.5cmほどであるが，高さは1446が3.1cmと高いのに対し，1448は2.1cmと低い。1450・1453・1454は外へ強く広がってまっすぐ伸びる器形をし，口縁直径が11cm～12.8cm，底部直径が７cm～８cmで，高さは2.2cm～3.2cmある。底部は，1442のように丸みをもって立ち上がるもの，1444や1445のように段をもって外へ開くもの，1447のように底から外開きで立ち上がるものとがある。概して軟質だが，1452は硬質に焼けている。

皿（1455～1461）は，いずれも口縁直径が7.5cm～９cmの小皿であるが，1455や1456のように高さが１cm足らずの低いものと，1458のように２cmを越す高いものとがある。器形は，1455のように丸みをもって外へまっすぐ開くもの，1456・1457・1460・1461のように丸みをもってやや内弯ぎみに立ち上がるもの，1459のようにやや外反ぎみだが，底からまっすぐ外へ開いて伸びるものとがある。

1458はやや内弯ぎみだが，胴部途中でやや内側へ屈曲して立ち上がっている。底部から体部への変わり部分に段をもっているために，削り出し高台状となっている。底は丸みをもって立ち上がるもの，段をもって立ち上がるもの，まっすぐ立ち上がるものとがある。

糸切り離しはほとんどが一方に片寄るものだが，1442・1443などはそのあとナデを施し，1446はやや粗く切っている。1452はヘラ引き様に引いており，1461は糸切り離しが外面体部にまで及んでいる。

1443・1444・1448・1457は内側に油痕跡がみられ，灯明皿用に使われたものと思われる。1448は外面にも一部に油の痕跡がみられる。

須恵器（第251図）

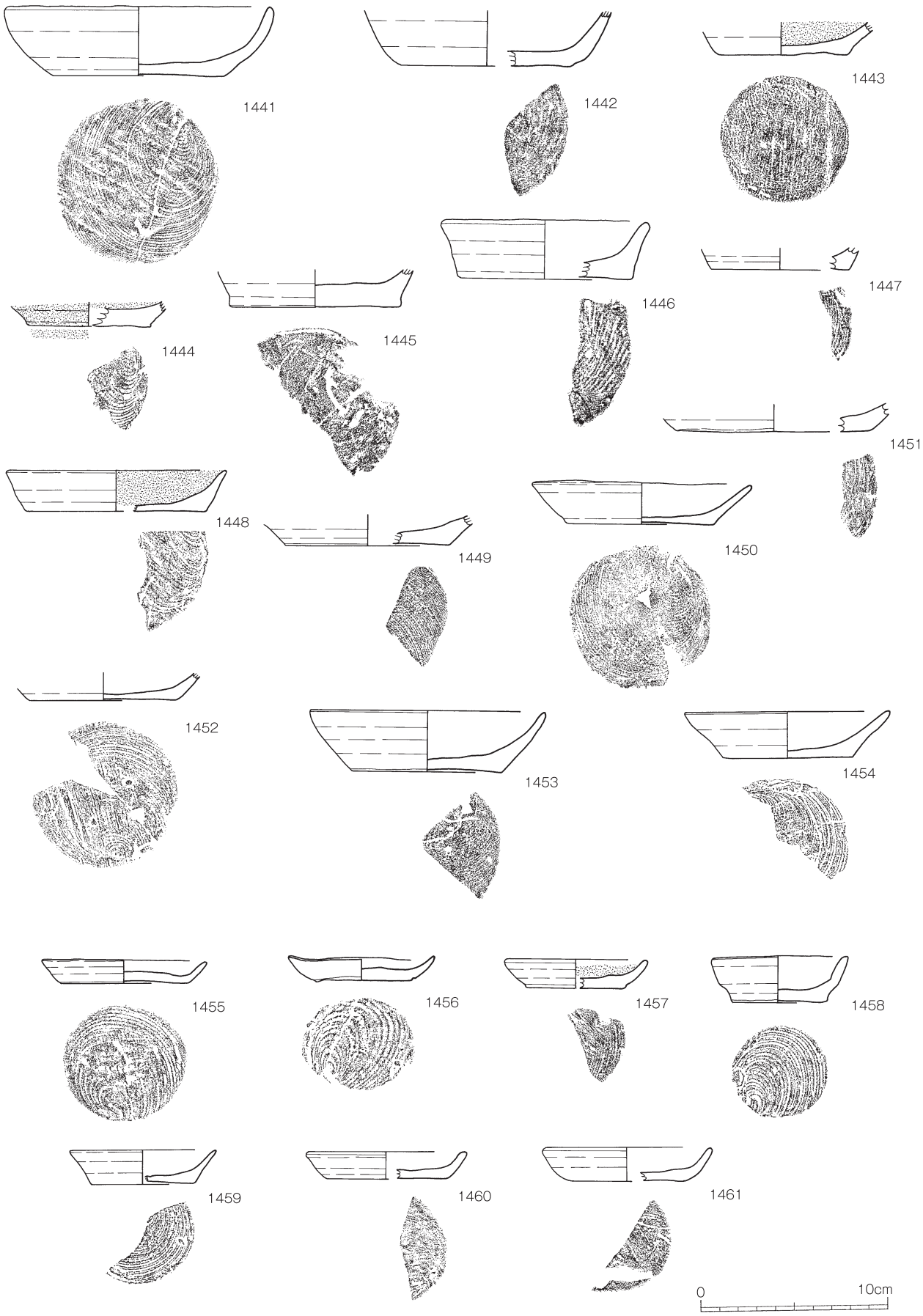
同一個体と思われる甕の破片が２点ある。口縁部は外へ強く反るもので，端部は矩形を呈している。断面の内側は赤褐色を呈している。1463は肩部で，外面が正格子タタキで，内面には同心円当て具痕がみられる。８mm近くの礫もある粗い土を用い，粒子が外へ出ている。

須恵質陶器（第251図・第252図・第254図）

器種には甕と擂鉢，壷がある。

1464は甕の胴部で，外面はこまかい正格子タタキ痕がみられ，内面はヘラナデで仕上げている。

擂鉢は平底で，まっすぐ開きながら伸びる器形をし，かき目はいずれも幅が広く，下から上へかき上げている。口縁部は矩形を呈するが，1474のようにややくぼむもの，1466や1468・1471の



第250図　出土遺物（土師器）

ように丸みをおびたものもある。

1465・1472は注ぎ口である。底から上へまっすぐ伸びているが，1476はやや丸みをおびている。1466は口縁直径が33cm，高さが10cm，底部直径が14.5cmある。外面はハケナデのあとヘラナデ仕上げであるが，内面は横あるいは斜方向のハケナデ仕上げである。

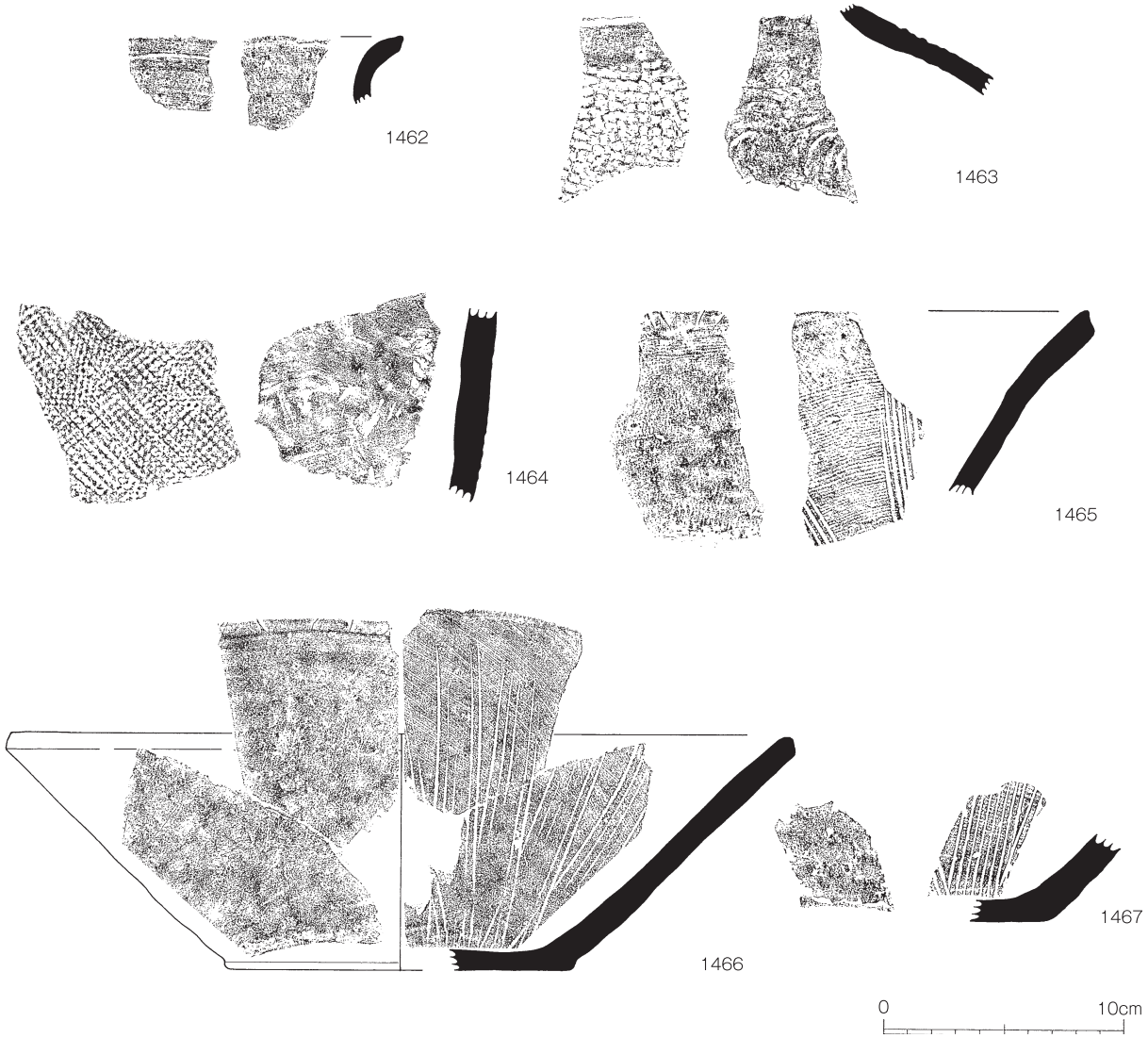
1493は口縁部が直径14cmある直口壷で，肩が張るが，そこから底へ向かってまっすぐおりている。口縁端は丸みをおびている。内外とも横方向のヘラナデで仕上げており，いくらか軟質に焼けている。白灰色を呈しているが，外面は茶色がかり，部分的に黒みがある。

瓦質土器（第253図・第254図）

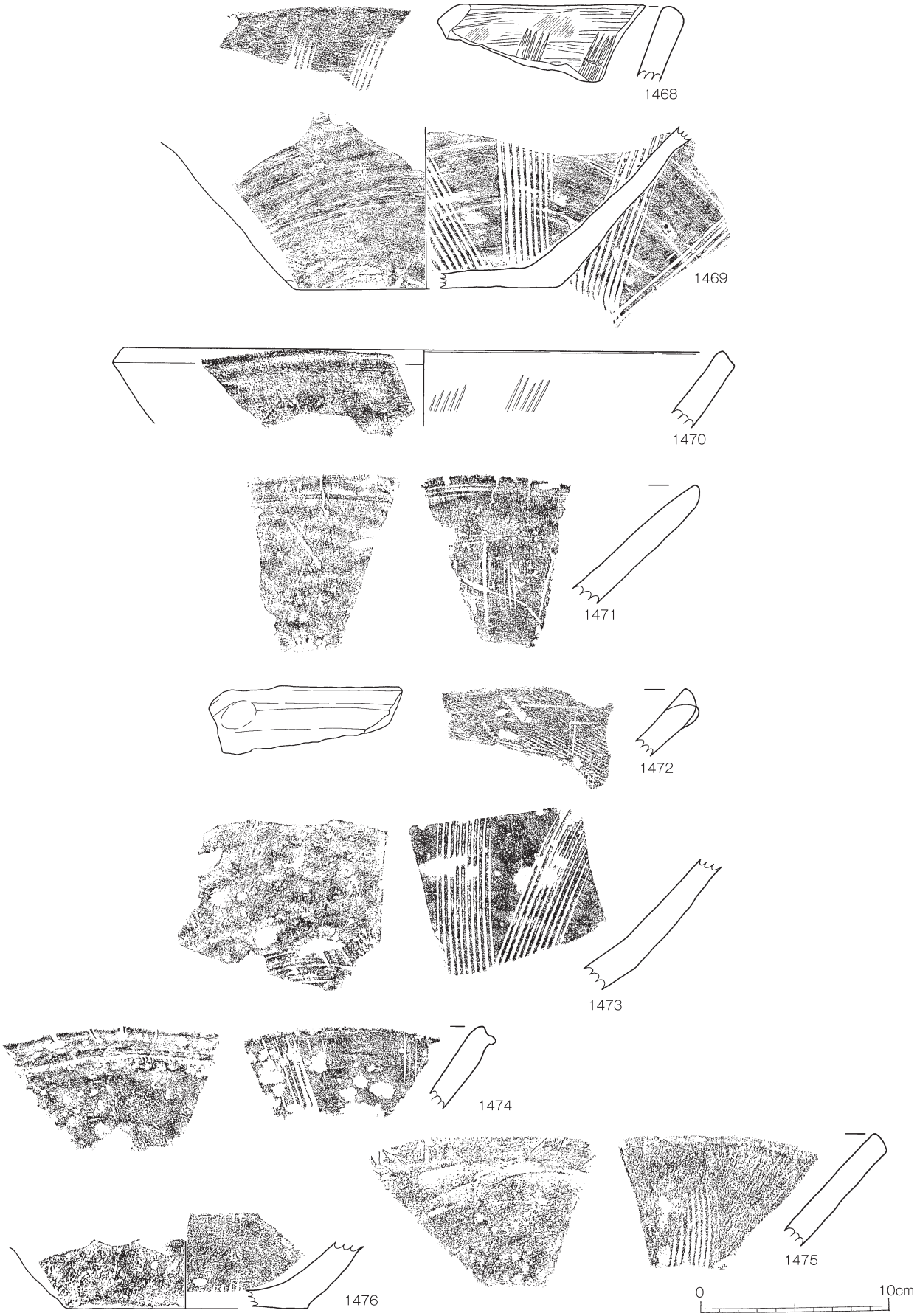
器種には茶釜・花舎・直口壷などがある。

茶釜（1477～1480）は，胴部をつばが巡るものである。胴部は丸みをもっており，1477の最大直径は28.5cmある。つばは断面形が長方形状のものと，台形状のものとがあり，水平になるものと，上を向くものとがある。つばの下にはススが付着している。

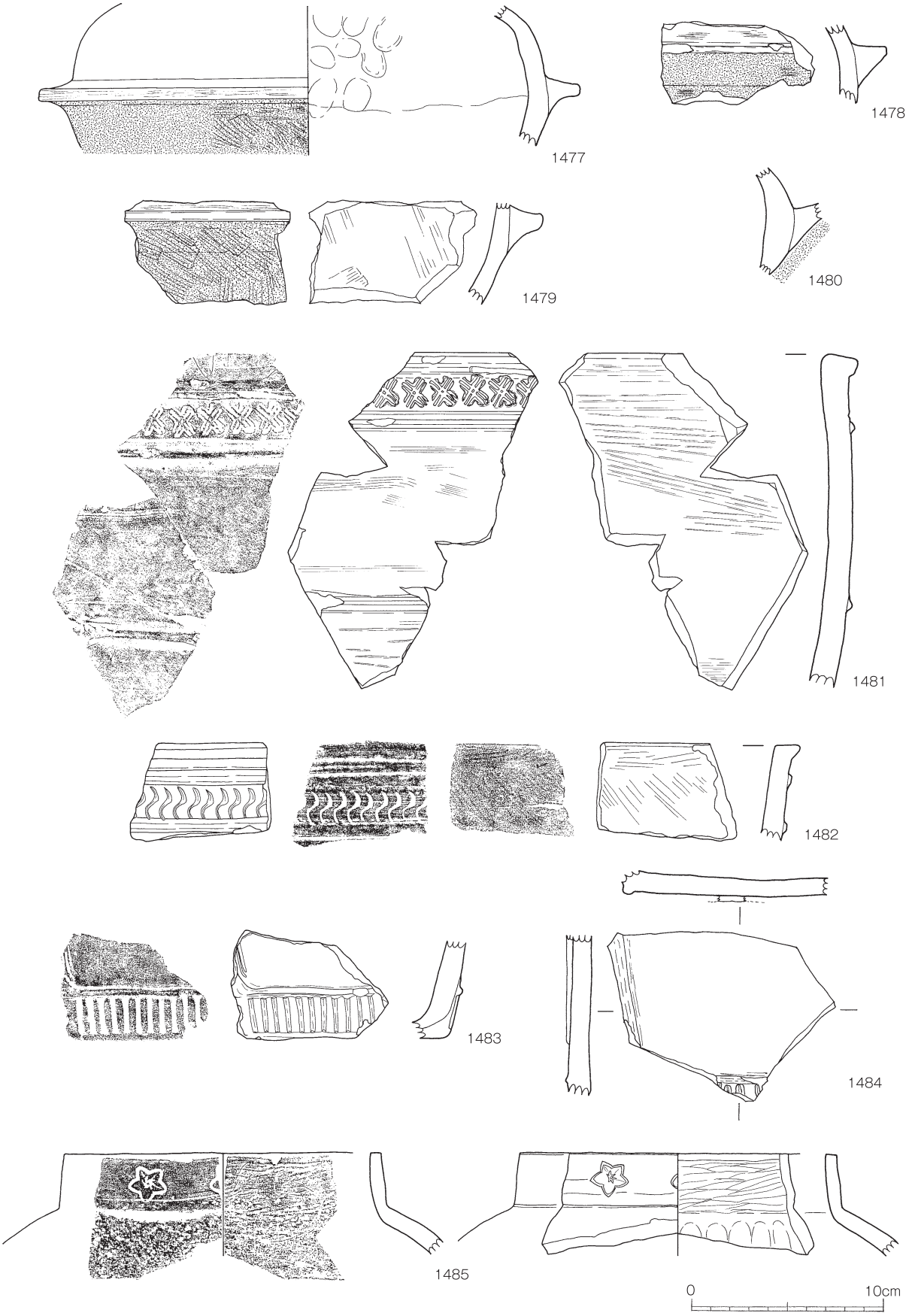
火舎（1481～1484）は口縁部が逆Ｌ字状に肥厚し，胴部に突帯がある。1481は口縁部外面に断



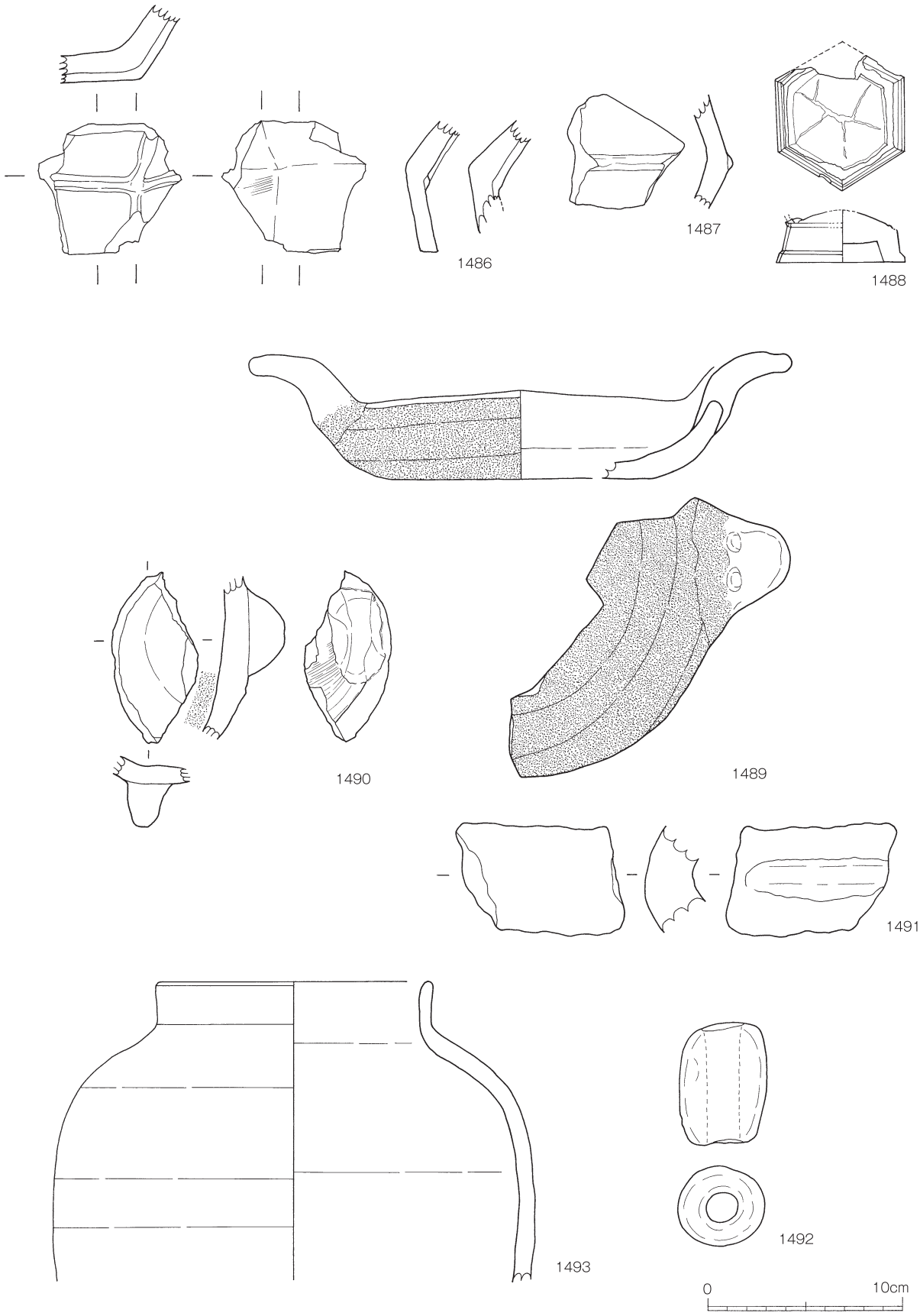
第251図　出土遺物（須恵器・擂鉢等）



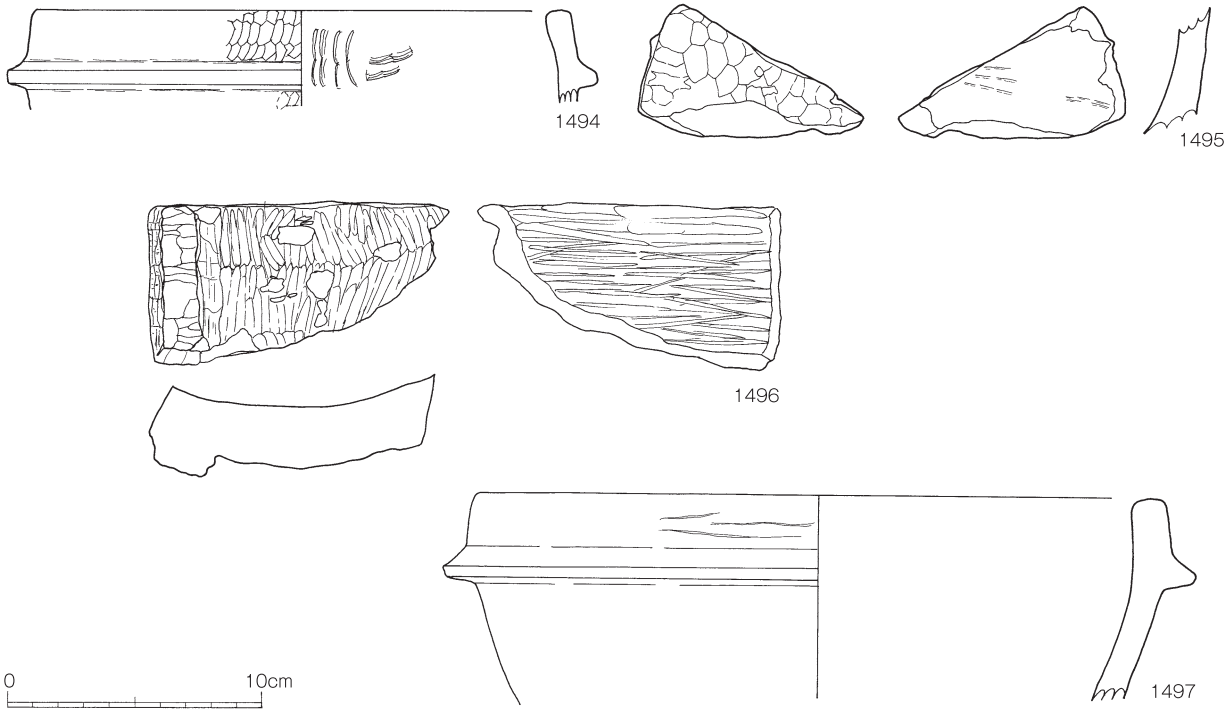
第252図　出土遺物（擂鉢）



第253図　出土遺物（瓦質土器）



第254図　出土遺物（瓦質・土師質土器等）



第255図　出土遺物（石鍋）

面矩形の突帯が貼り付けられ，胴部に二条の小さい三角突帯が貼り付けられる。口縁下に×印のスタンプが連続して横方向に押される。内外ともていねいなヘラナデで仕上げている。1482は口縁端が外に三角状に突出し，その下に幅をおいて二条の小さい突帯が巡っている。この突帯の間に逆Ｓ字状のスタンプが連続して横方向に押されている。1483は平底で，底近くに小さい三角突帯が横方向に貼り付けられ，突帯と底の間に縦方向のＩ字状スタンプが押されている。またこの三角突帯と交叉して，縦方向の突帯もみられる。1484も1483と同一個体の破片と思われる。

直口壷（1485）は直径が16.8cmのやや内傾する口縁をもつ壷で，頸部から外へ強く開いて肩部へ至る。口縁外面に花文のスタンプがある。

1486・1487は同一個体で，口縁部が多角形となる。口縁はやや内傾して立ち上がる。角と頸部に丸みのある突帯が貼り付けられている。1487はやや丸みをおびており，横方向の貼付突帯がある。外面は光沢をおびている。

1488は水簸したこまかい白色粘土を用い，焼きのいい六角形を呈する脚台である。内底部はドーム状となり，畳付部の立ち上がりは，矩形を呈しやや外へ広がる。脚台の内部，底部，畳付部ともていねいにナデている。底からはやや外へ広がって立ち上がり，脚台との境には小さい突帯が巡っている。外面や底には黒色釉がかかっているが，見込みにも部分的に釉がかかっている。

脚台外面や内底部には赤茶褐色を呈するものが付着しており，脚台外面は文様のようにもみえるが，はっきりしない。立ち上がり部分は厚さが３㎜ほどしかない。内底部にはヒビがはいっている。香炉の可能性があるが，はっきりしない。

土師質土器（第254図）

1489は両方に把手のある浅い鍋である。把手はあとで貼り付けてあり，把手外面には２か所に

第256図　出土遺物（青磁１）

強く押した痕跡がある。底にはススが付着し，内底中央部にはこげの跡が付いている。1490は低いこぶが台に貼り付けられた鉢である。底は糸切り離しにより平らとなり，三か所にこぶが貼り付けられているものと思われる。

土製品（第254図）

1491は粗い土を用いたふいごの羽口である。茶褐色を呈しているが，外面の一部は火を受けて，やや黒色化しているものである。

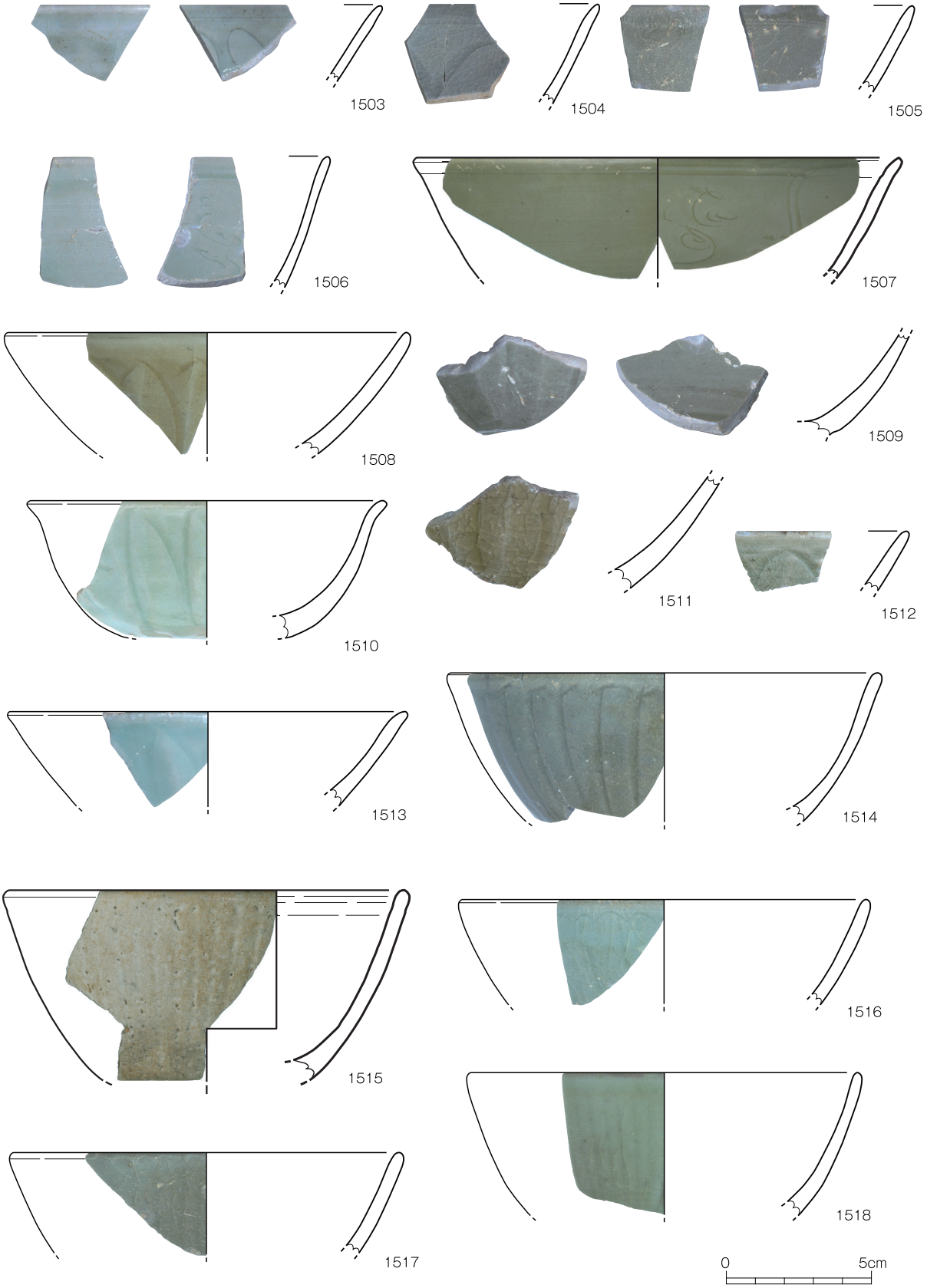
1492は円筒形の土錘で，長さ6.5cm，直径4.5cm，孔径1.5cmある。時期については，疑問が残るものである。

滑石製石鍋（第255図）

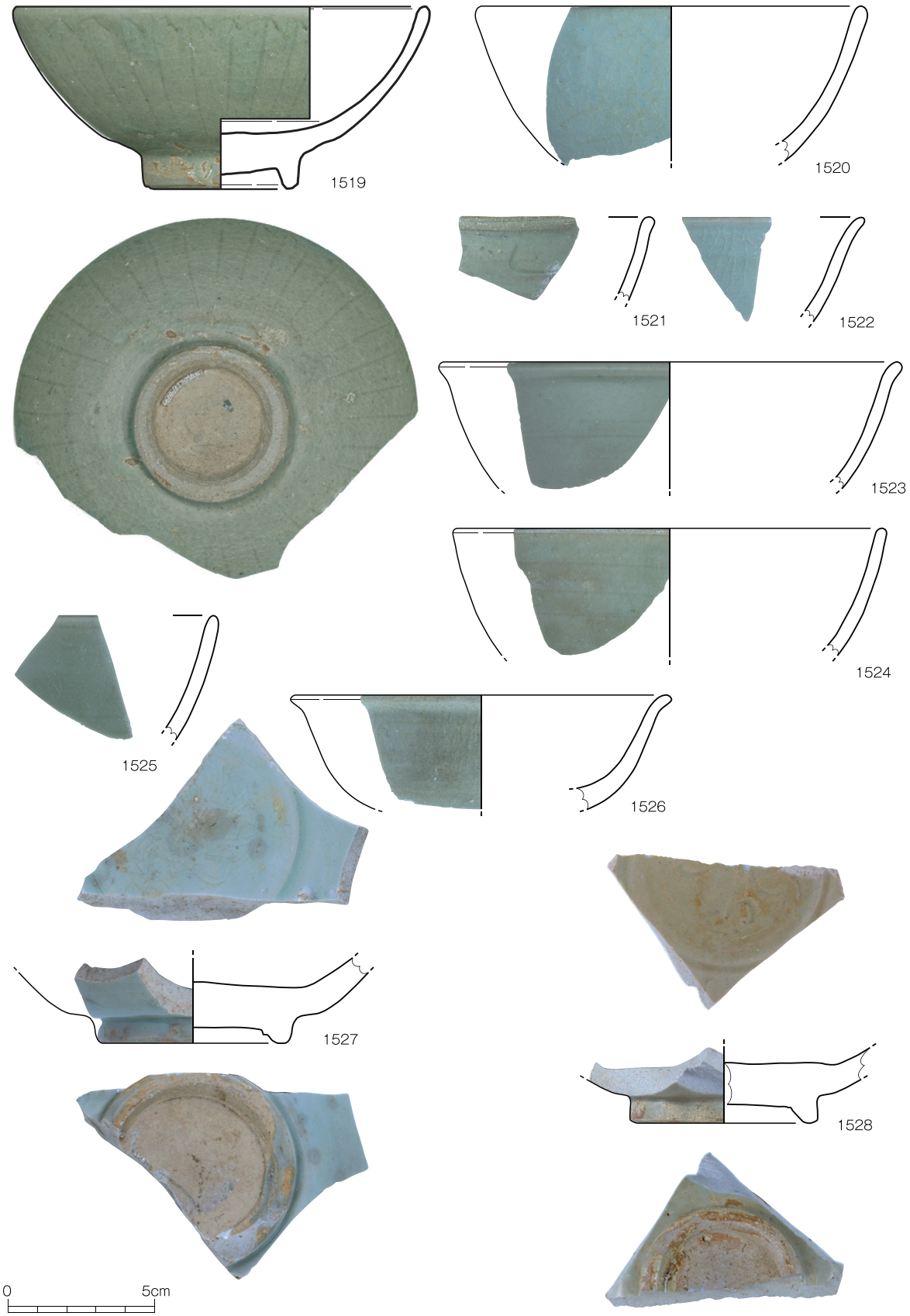
つば付きのものと，縦耳付きのものとがある。どの滑石製石鍋も製作時の加工のための工具痕を残している。

1494と1497はつば付きのものだが，1494は口縁直径が21cmと小さく，強く内傾するのに対して，1497は口縁直径が27cmで，ゆるく内傾している。

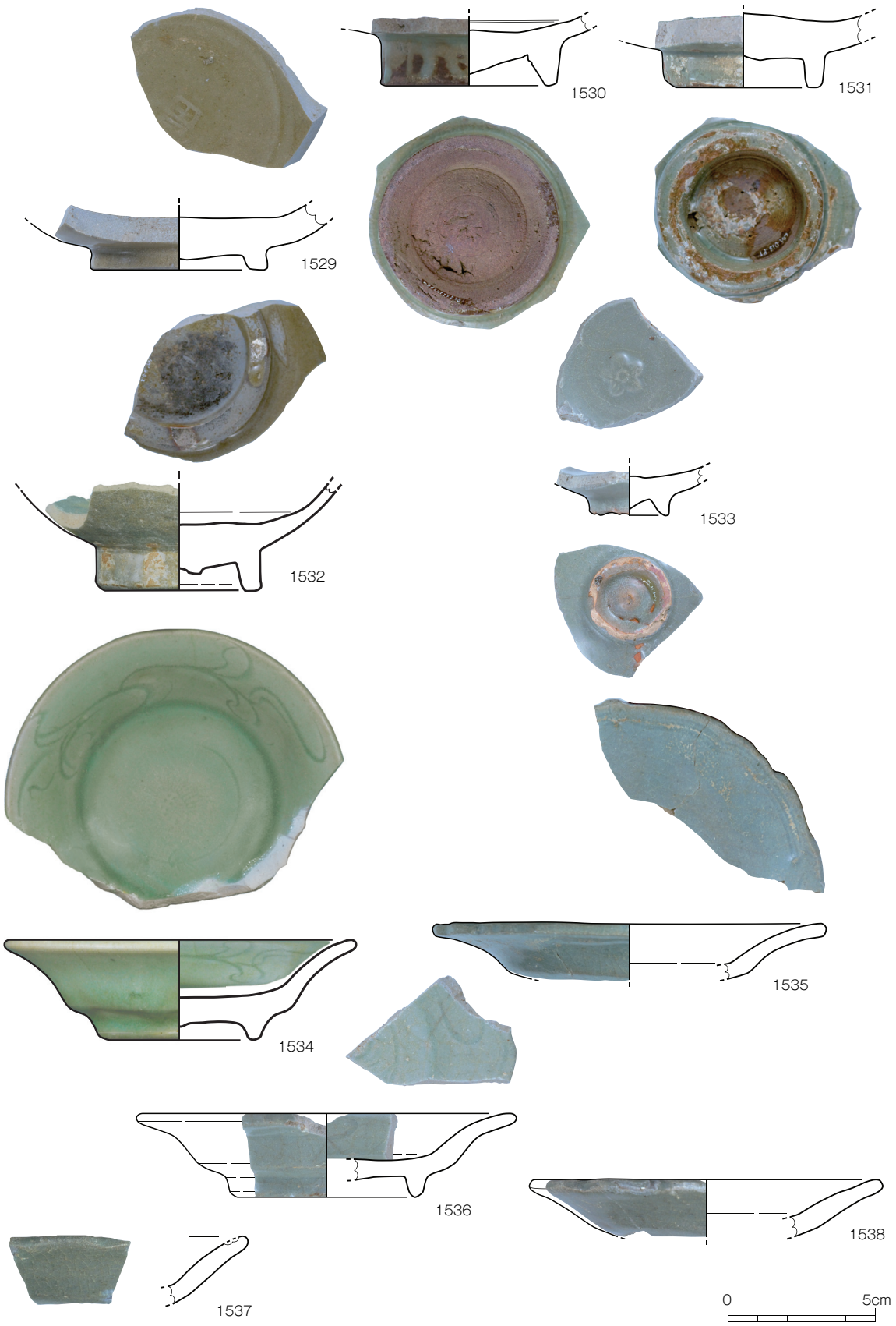
1496は口縁部に長さ６cmの縦耳が付くもので，外面は縦方向，内面は横方向に削っている。つ



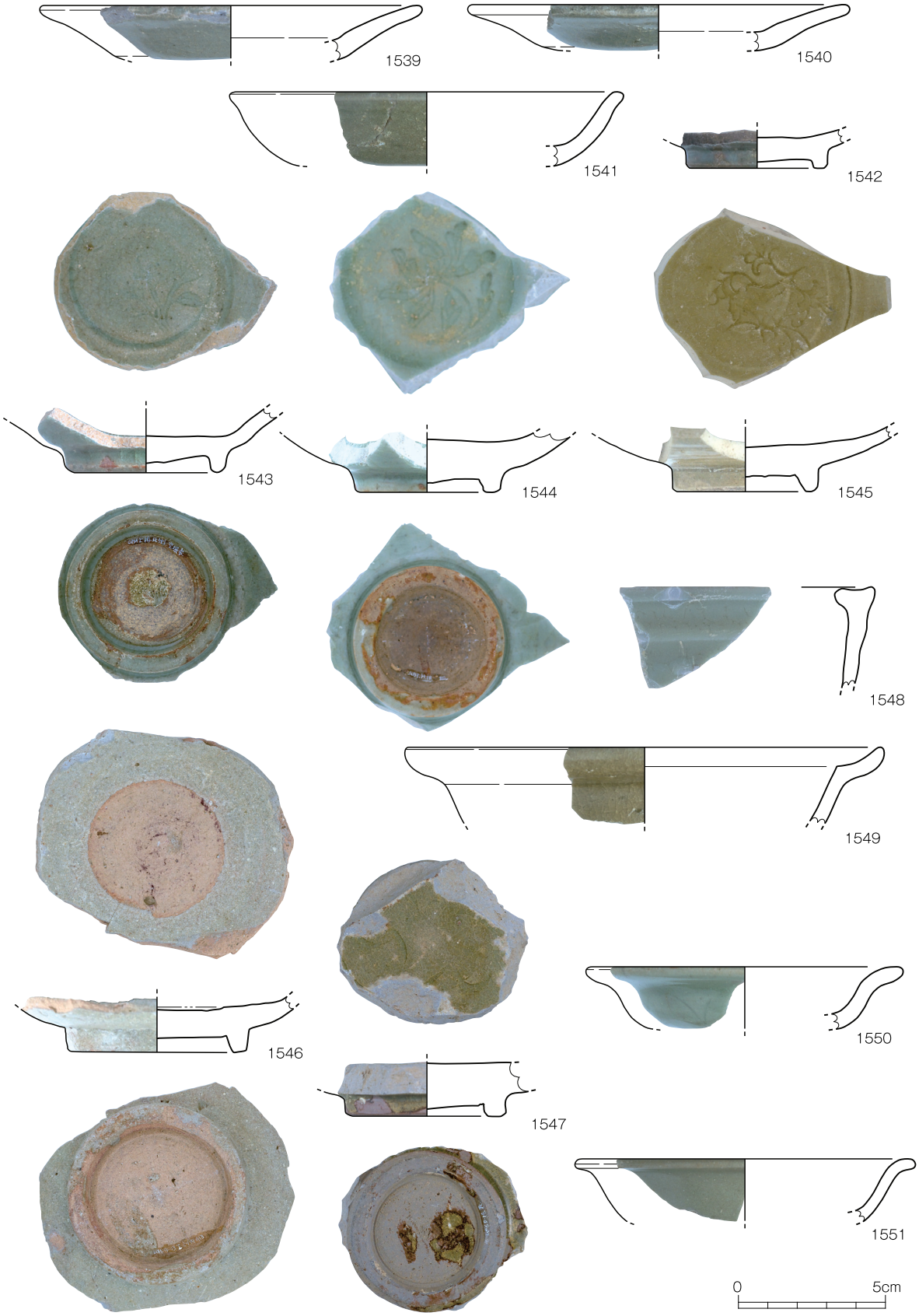
第257図　出土遺物（青磁２）



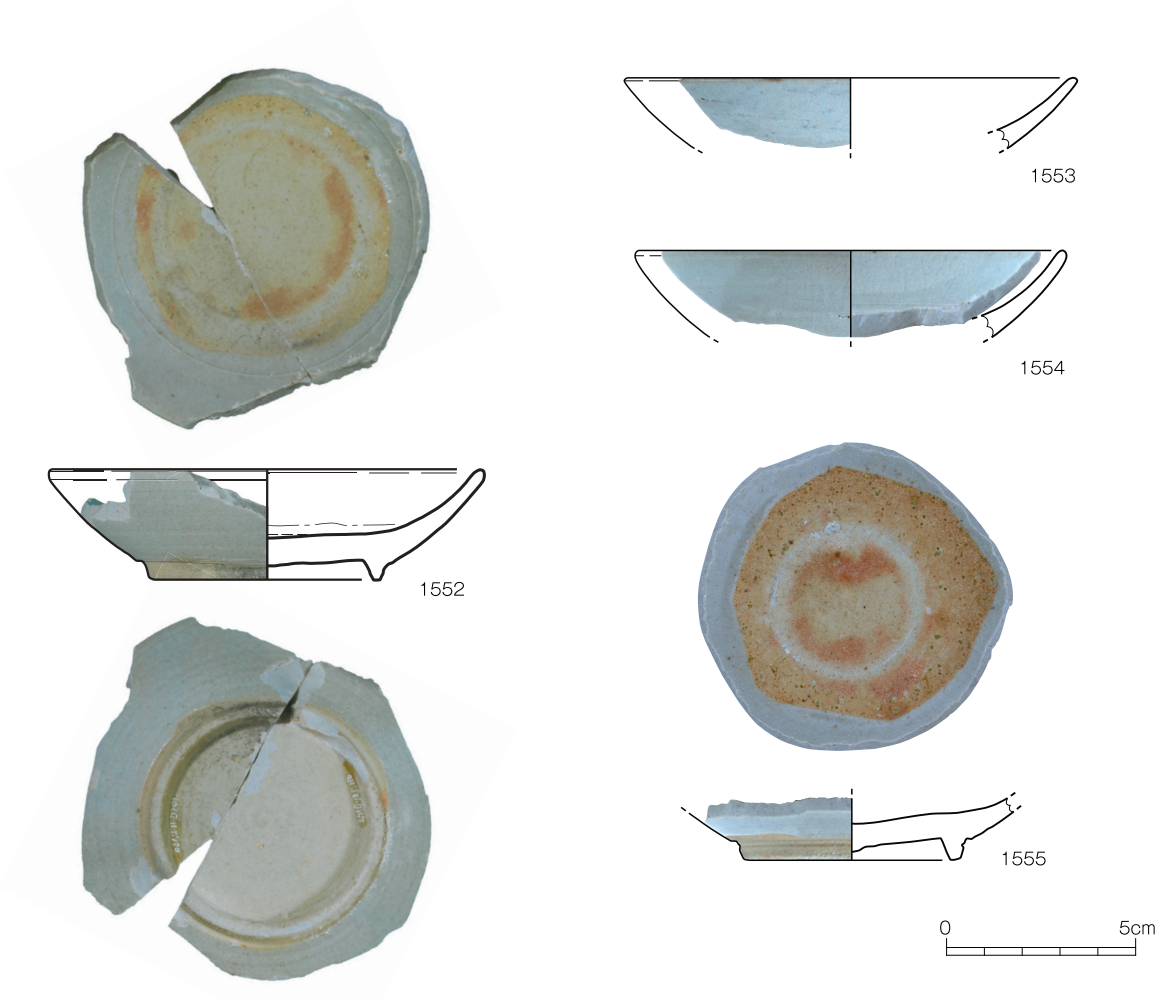
第258図　出土遺物（青磁３）



第259図　出土遺物（青磁４）



第260図　出土遺物（青磁５）



第261図　出土遺物（青磁６）

ば付きのものに比べて分厚い作りで，図の左側は縦に切ったあと横に粗くすっており，破損後，二次的に加工して再利用しようとした痕跡がみられる。

つば付きのものと，耳付きのものとは石材が異なるようであり，使用によるススの付着は全てに観察される。

青磁（第256図～第261図）

高麗青磁・同安窯系青磁・龍泉窯系青磁がある。

1498は緑灰色の釉がかかった高麗系青磁碗である。口縁直径18.5cm，高さ６cm，高台直径5.3cmのもので，断面形が矩形の低い高台が付く。外面の中央付近に二条の凹線がみられる。内面は口縁付近に三条の凹線があり，底部近くには二条の凹線があって，その上に羯磨文が巡っている。見込みには，如意頭文など，それぞれに白色粘土を埋めて象嵌を施している。高台内には砂目がみられる。

1499～1502は同安窯系青磁皿で，底部はややあげ底となり，外面の釉がかき取られている。内底部に櫛描きによる鋸歯状文がみられる。

1503～1555は龍泉窯系青磁で，器種に碗・皿・盤などがあるが，それぞれの製作時期が長期にわたるため，形態・文様とも多様である。

1503～1507は外面が無文で，内面に雲文･蓮花文などの片彫り文のある碗である。口縁に向かっ

て広がりながらまっすぐ伸びる器形をし，1507は口縁直径が16.5ｃｍある。比較的に，龍泉窯系初期のものであろう。

1508～1519は外面が蓮弁文の碗である。1508・1509・1511・1513は鎬蓮弁文，1510・1512は幅の狭い鎬蓮弁文である。

1508・1513が外へまっすぐ伸びるのに対して，1510は口縁端近くで外反する。1514～1519は線描き蓮弁文である。口縁部はやや内弯する器形をし，口縁直径が13cm～15cmである。縦線とその上に波状文を描く組み合わせだが，縦線のあとに雑に鋸歯状・波状文を描き，剣頭が蓮弁の単位を意識していない。1515は，焼成温度が低かったためであろうか，本来の青磁の深緑色ではなく，乳白色に近く，胎土も明茶褐色である。1519は口縁直径が14cm，高さが6.2cm，高台直径が5.2cmある。畳付部は茶褐色を呈し，露胎である。貫入が目立つ。

1520～1526は無文の碗である。1520・1524・1525は内弯する器形で，口縁直径は1520が13cm，1524が14cmある。1521～1523，1526は口縁が外反する器形で，口縁直径は1523が15cm，1526が12cmある。

1527～1532は碗の高台近くの破片である。底部は概して厚く，外へ丸みをもって立ち上がっている。1527は，高台から腰部へ至る部分に平坦面があり，見込みの特徴等から1503～1507などに付く底部と思われる。1530と1532の体部はやや薄い。高台も概してどっしりしているが，1527のように丸みをもったもの，1528･1530のように台形様のもの，1529のように矩形で低いもの，1531･1532のように矩形で高いものがある。高台直径は５cm～６cmで，高台貼り付け部はていねいに段をもつように切り，底部はヘラで切っている。1532の見込みは円形の櫛歯文が巡り，中央に浅いスタンプがみられる。

1533は小碗の高台部で，直径は2.6cmある。高台端は先端が尖がった三角形状を呈し，内底部に花文がある。

1534～1543は皿である。平らな底から長く外反して口縁へ至り，高台の付く器形をしているが，1541は丸みをもった器形で，口縁が短く外反している。1534は口縁直径が11.8cm，高さが3.4cm，高台直径が５cmある。胴部内面に唐草文がある。見込みには蓮花文が描かれ，内外とも厚く釉がかかっている。底だけが露台だが，ここには重ねに用いた窯道具の痕跡がみられる。1535～1540は稜花皿で，口縁直径は12cm前後である。1536は口縁直径が12.4cm，高さが2.8cm，高台直径が６cmあり，内面には唐草文がある。

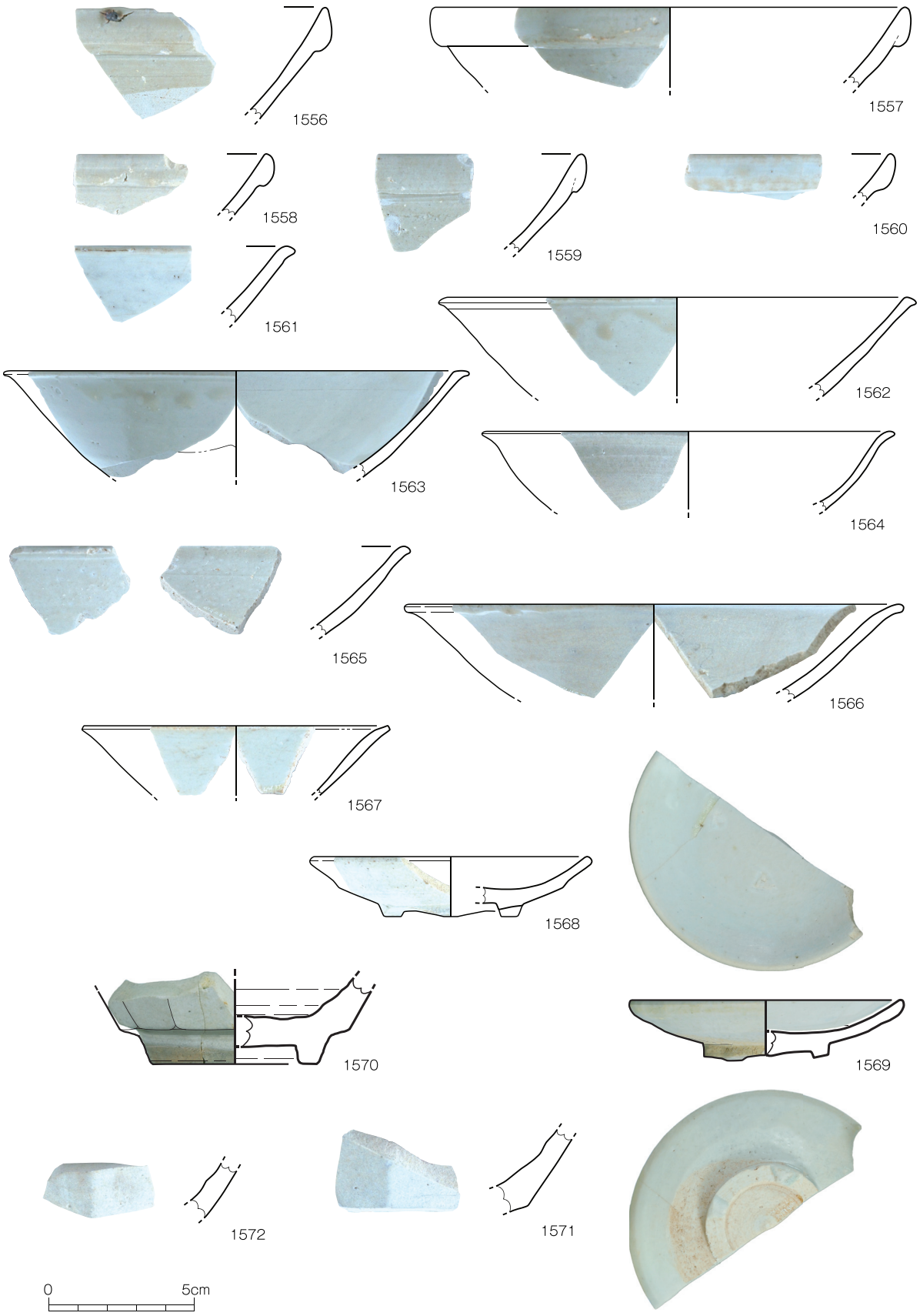
1544～1547は見込みに花文のある碗の高台部分である。

1548は口縁端が内外に張り出すＴ字状を呈するが，特に内側へ強く張り出す香炉である。

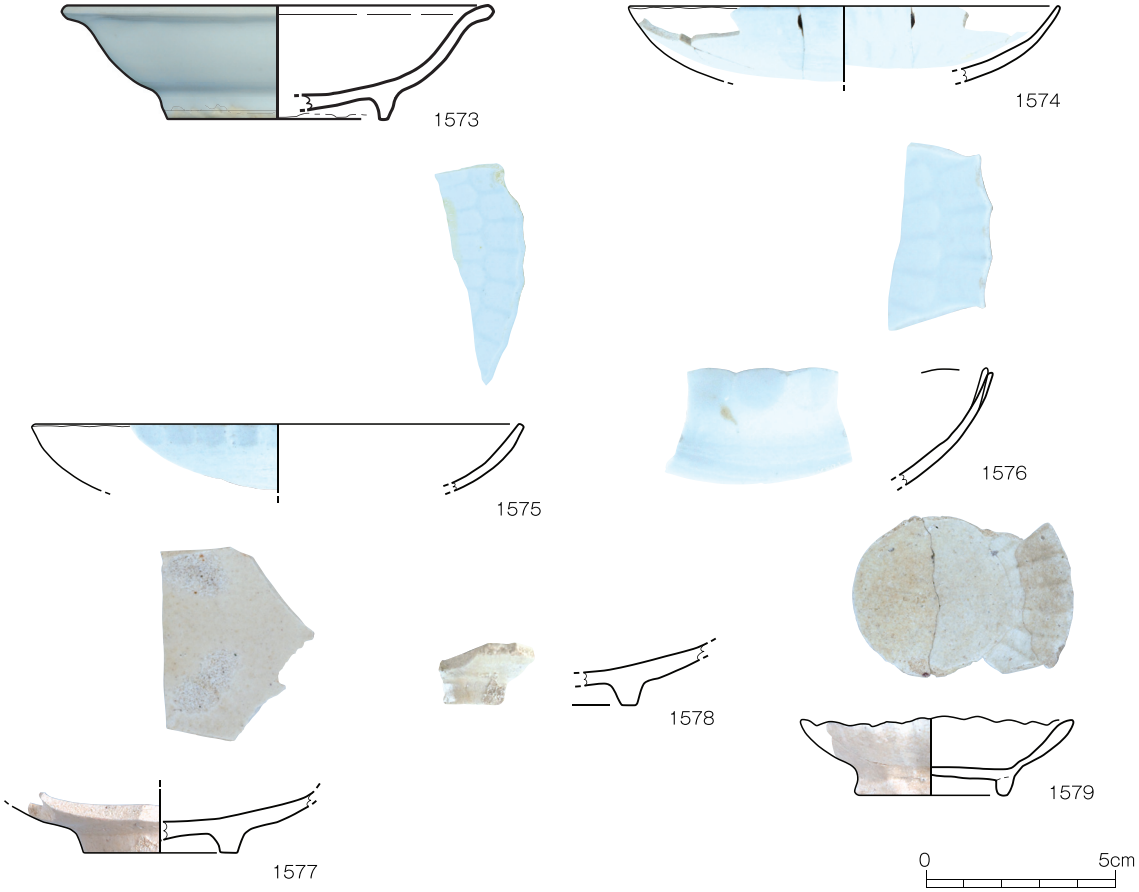
1549は口縁部を「く」の字状に折り曲げ，さらに端を上へゆるやかに引きあげた盤である。

1550・1551は口縁部が強く外反する皿で，内外とも無文である。口縁直径は10cm余りである。

1552～1555は口縁部がゆるやかに内弯する皿であり，断面が矩形の小さな高台が付く。口縁直径は11cmほどで，高台外面は筋状に切っている。1552は口縁直径11.6cm，高さ３cm，高台直径６cmである。灰色がかった釉がかかり，高台内面・見込み部分は露胎となっている。ただし，1552・1555は，明灰色であり，胎土も他の青磁とやや異なることなど，白磁の可能性もある。



第262図　出土遺物（白磁１）



第263図　出土遺物（白磁２）

白磁（第262図・第263図）

碗と皿の器種があり，それぞれに器形の違いがある。

1556～1560は幅の広い玉縁口縁となる碗である。内面あるいは，外面に釉垂れのあるものが多い傾向にある。

1556の外面の釉は上部のみで，体部下半は無釉となっている。1557は口縁直径が15.6cmある。

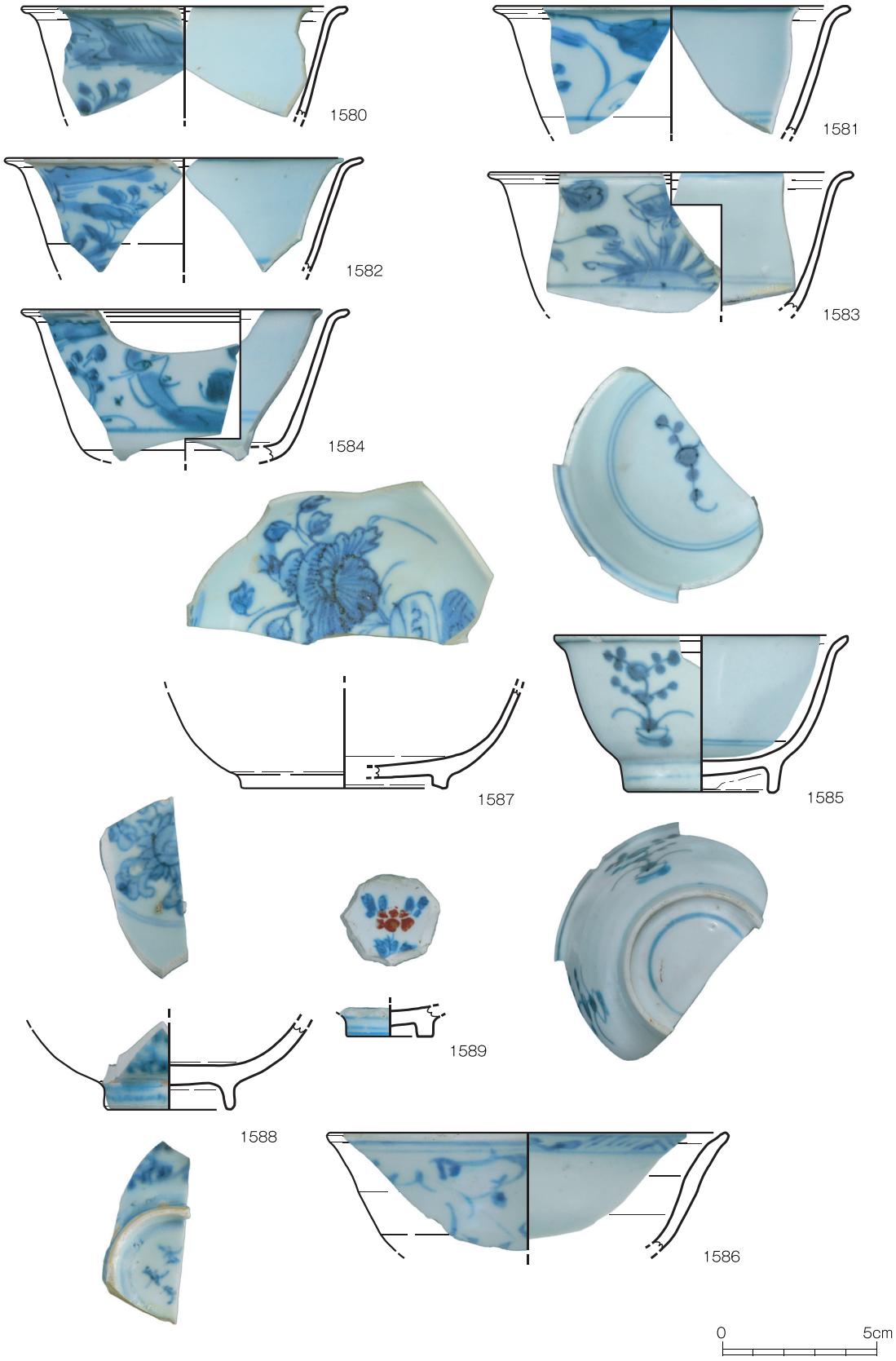
1561～1563は端反り口縁の碗で，口縁直径はともに16cm足らずである。1563の外面下部は無釉となっている。釉は内外ともきれいにかかっているが，外面の一部に貫入がみられる。

1564～1566は口縁が外反する碗で，1564が丸みをおびた体部から口縁へ外反して立ち上がるのに対して，1565と1566は割とまっすぐ口縁へ向かい外反している。1566の内面には細い唐草文がみられる。

1567は口縁端が断面矩形となる口はげの坏である。

1568～1578は釉が灰白色あるいは青色味をおびる小碗・皿である。1568～1572は多角となる皿・小碗である。1568・1569は高台が多角となる皿である。1568は口縁直径が9.2cm，高さが2.2cmの皿で，内外とも釉がかかっている。見込みの４か所には重ね焼き痕が残る。1569は口縁直径9.4cm，高さ２cmの皿で，外面の体部下半から高台部分は無釉である。1570～1572はこの種の小碗では分厚い作りのもので，同一個体である。高台より内側は露胎である。

1573は口縁部が外反する坏で，口縁直径が11cm，高さが３cm，高台直径が６cmある。



第264図　出土遺物（青花１）

1590

1591

1592

0　5cm

第265図　出土遺物（青花２）

1574～1576は口縁が内弯する菊花坏である。口縁直径は12.6cmあり，内面は二段以上に，外面は一段にヘラ押圧がみられる。1574・1575は同一個体の可能性がある。

1577・1578は断面が矩形を呈する高台である。内面に４か所の目痕がある。

1579は口縁直径が７cm，高さが２cm，高台直径が４cmの菊花皿である。断面が矩形の高台が付く。高台の作りは粘土紐の貼り付けで，高台の内外は露胎である。

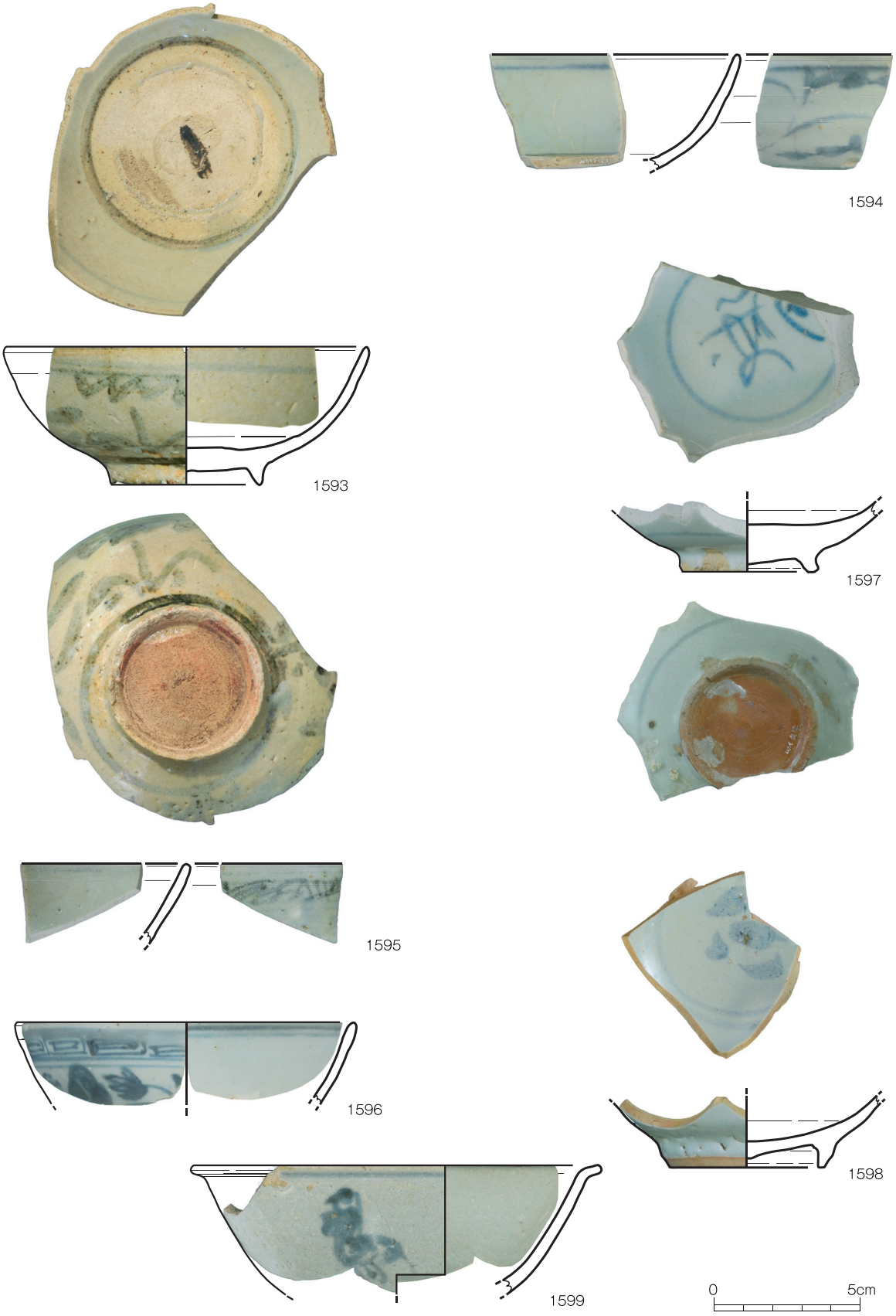
青花（第264図～第267図）

碗・小碗・盤・皿があり，器形・文様など多様である。

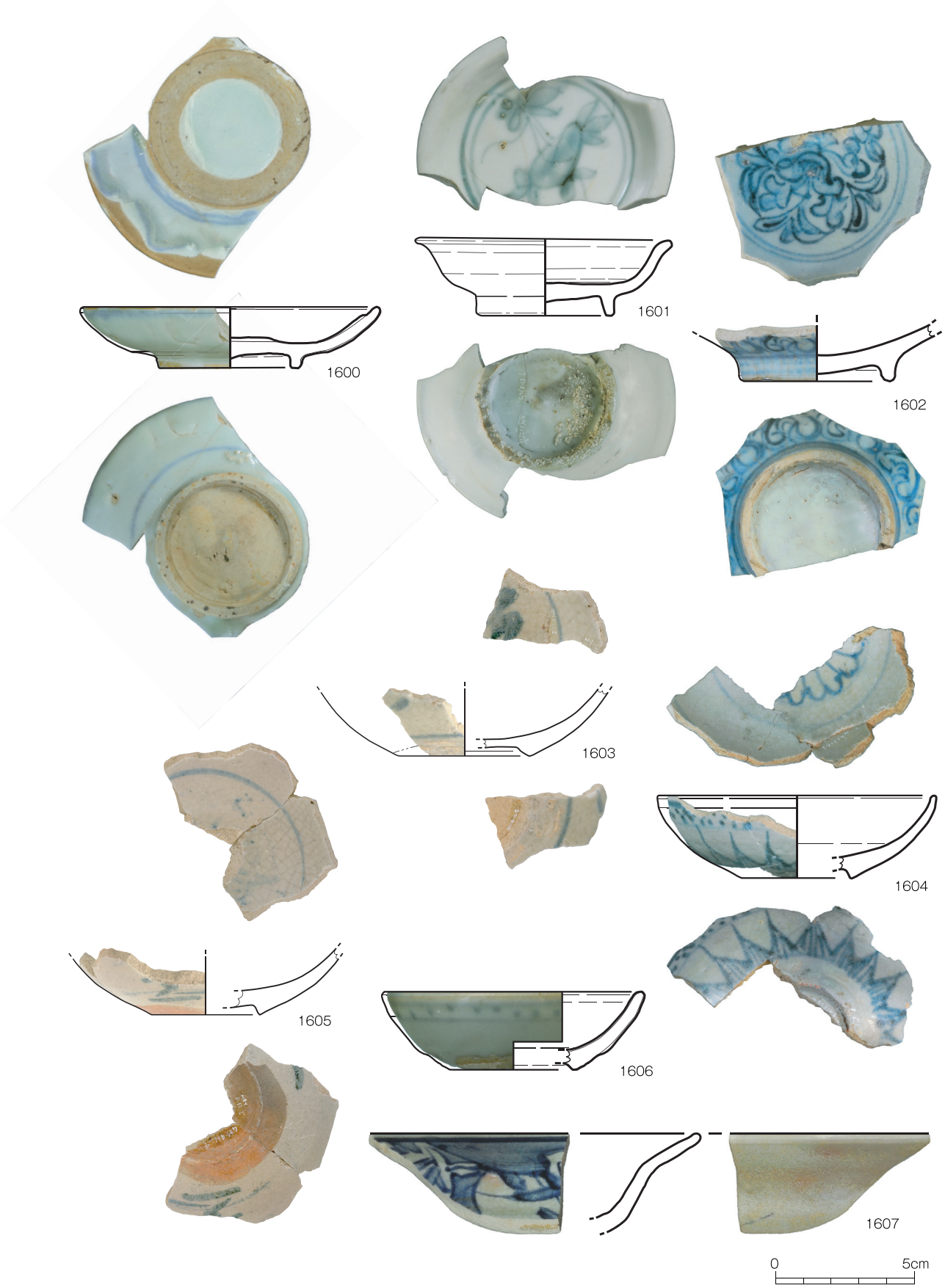
碗には端反り状に外反するもの，内弯するものとがある。

1580～1584は端反り状に外反する深い碗で，口縁直径は11cm前後である。外面胴部には牡丹唐草・唐草・風景などが，口縁部や腰部には界線が描かれている。内面は口縁部に二条，腰部に二条の沈線がみられる。

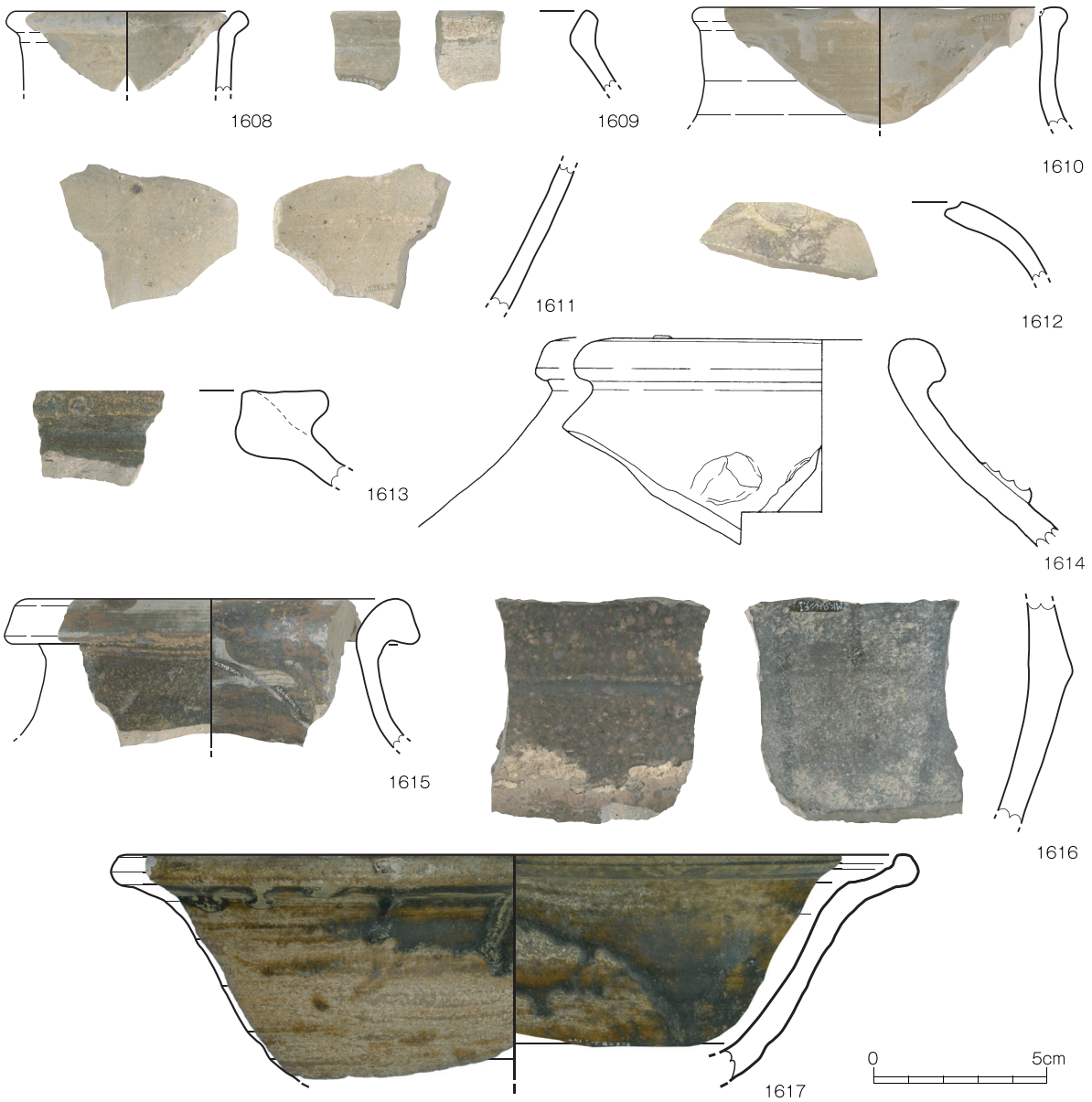
1585～1588は丸みをおびた胴部から口縁部へ外反しながら伸びる碗で，外面の口縁部には界線，胴部には唐草・草花など，腰部には界線が，見込みには界線が巡り，草花・牡丹などが描か



第266図　出土遺物（青花３）



第267図　出土遺物（青花４）



第268図　出土遺物（陶器１）

れる。1586の内面口縁部には火襷文が巡っている。1587の高台から底部にかけては無釉である。1588の高台内には永久長春の字款が書かれている。

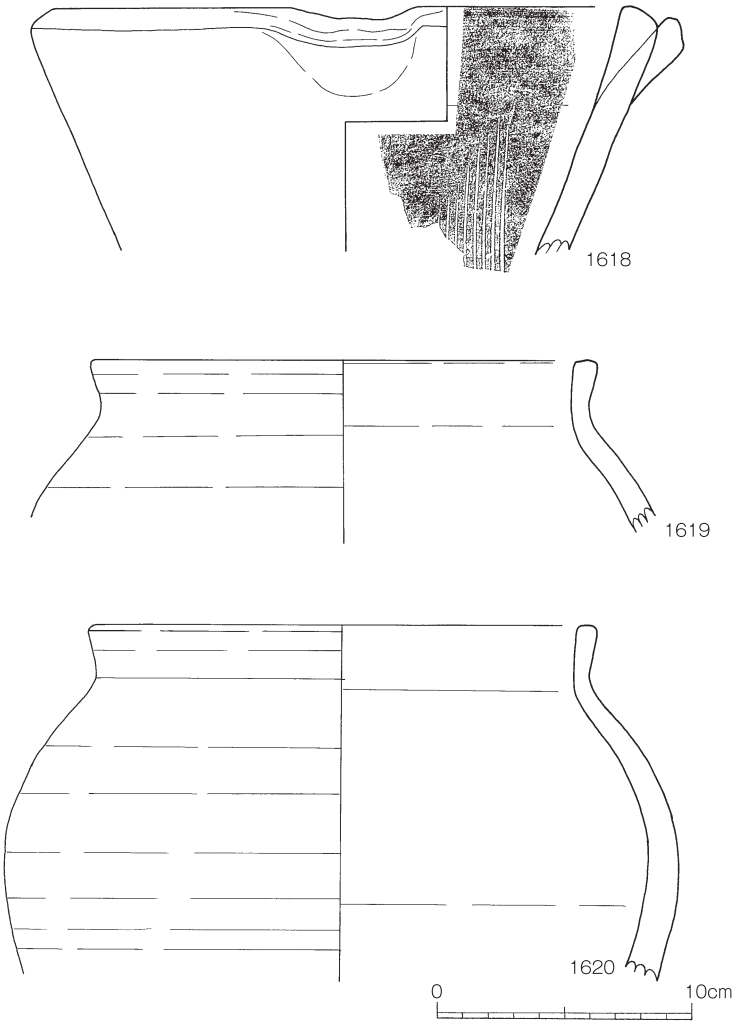
1589は矩形のどっしりした高台の付く小碗で，外面には界線，見込みに赤色を呈した花弁と青色の葉が描かれている。

1590は直径が22cmある盤である。丸みをおびた胴部から口縁部が「く」の字状に屈曲して外へ広がる。外面は口縁に界線が，胴部に唐草が描かれ，内面は口縁に界線が，胴部に牡丹唐草が，腰部に界線が描かれている。1607も同様の形状をしており，内面の口縁から胴部にかけて太い界線と風景画・花文らしきものが描かれている。

1590は白っぽいが，1607はやや黄みがかっている。1591・1603～1606は口縁がかるく内弯し，碁笥底となる皿である。1591は口縁直径が9.5cm，高さが３cm,底部直径が３cmあり，外面は口縁に波濤文帯，胴部に芭蕉葉文，腰部に界線が，内面は口縁部に界線が，胴部や見込みにも文様・界線が描かれている。1604の外面は胴部の芭蕉葉文と腰部の界線は1591と同じだが，口縁部は界

線に挟まれた連続した丸文である。見込みには界線と蓮弁文がみられる。これも口縁直径10cm，高さ３cm，底部直径４cmと，1591に近い。1606の外面は口縁部に界線に挟まれた連続丸文がある。この類は他の破片も同じような文様が描かれる。1591が青白色を呈するのに対して，そのほかは黄色っぽく，底部は1604が総釉で，他は無釉である。

1592は口縁直径が14cm，高さが2.8cm，高台直径が7.5cmの皿である。外面は口縁部と腰部に界線が巡り，胴部は縦線で４つに区切り，その中に丸を３つ結合した文様がある。内面に唐草文が，見込みには八角形の画線に囲まれた牡丹唐草文がみられる。



第269図　出土遺物（陶器２）

1593～1598は内弯する口縁の碗である。1593は口縁直径が12.5cm，高さが4.7cm，高台直径が５cmあり，外面は口縁部と腰部に太線の界線があり，その間に太い草花文がある。内面は口縁に界線があり，身込みは重ね焼きにより釉がとれ，界線と縦筋が描かれ，高台端はとがっている。1594は碗の小片で見込み部は，無釉である。1595は，外面口縁に唐草文状の曲線が描かれているものである。1596の外面は口縁部に雷文帯が巡り，胴部に牡丹唐草が描かれている。内面は口縁に界線がみられる。

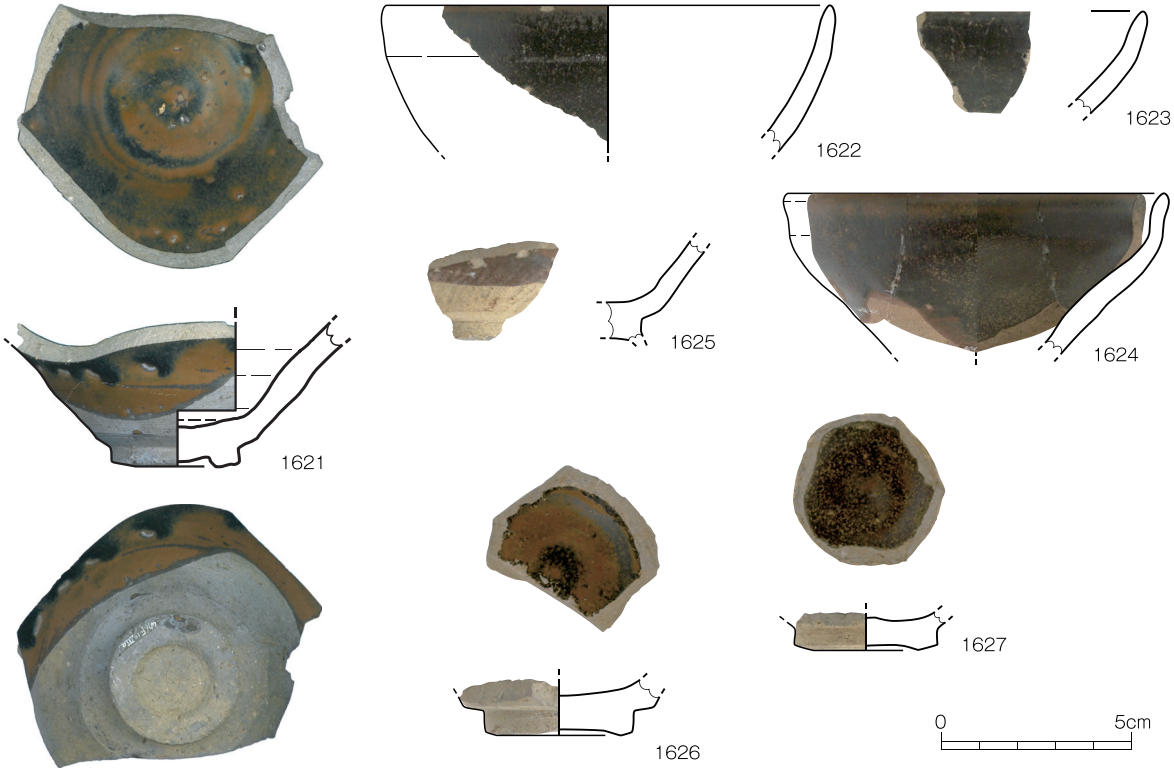
1600は口縁が内弯する皿で，外面・内面とも口縁と腰部に界線があるが，内面は釉が垂れている。1601は外反する小皿で，見込みに花文と界線が描かれている。1602は，内外面に草花文が描かれる皿であるが，碗の可能性もある。1603～1606は碁笥底の皿である。1603～1605は草花文・芭蕉文などの文様が描かれている。1593～1607までは，漳州窯系である。

三彩（第268図）

緑・黄・茶の三色からなる無頸壷である。口縁部に外向きの二重蓮弁文が描かれ，内面は無釉の水差しで，熊本県の浜の館などからの出土例があるものである。

陶器（第268図・第269図）

1608・1609は口縁端近くで強く外反する口縁直径6.5cmの小型壷である。1610は口縁直径10cmの直口壷で，口縁端はやや肥厚する。1611は胴部である。灰色がかった釉がかかっている。13世紀代の四耳壷・壷・水注などの破片であると思われる。



第270図　出土遺物（天目茶碗）

1613は口縁端が上下，特に下に肥厚する肩の張る黒釉壷である。玉縁状口縁の外側に帯を貼り付けている。

1614は口縁直径が10.5cmあり，肩部に横耳痕跡がある呂宋壷である。口縁端は玉縁状にふくらみ，肩部が外に張る。口縁から外面にかけて黒釉がかかっているが，口唇部から内面は無釉である。1615も似ているが，頸部がやや長く，内面の頸部まで釉がかかっている。

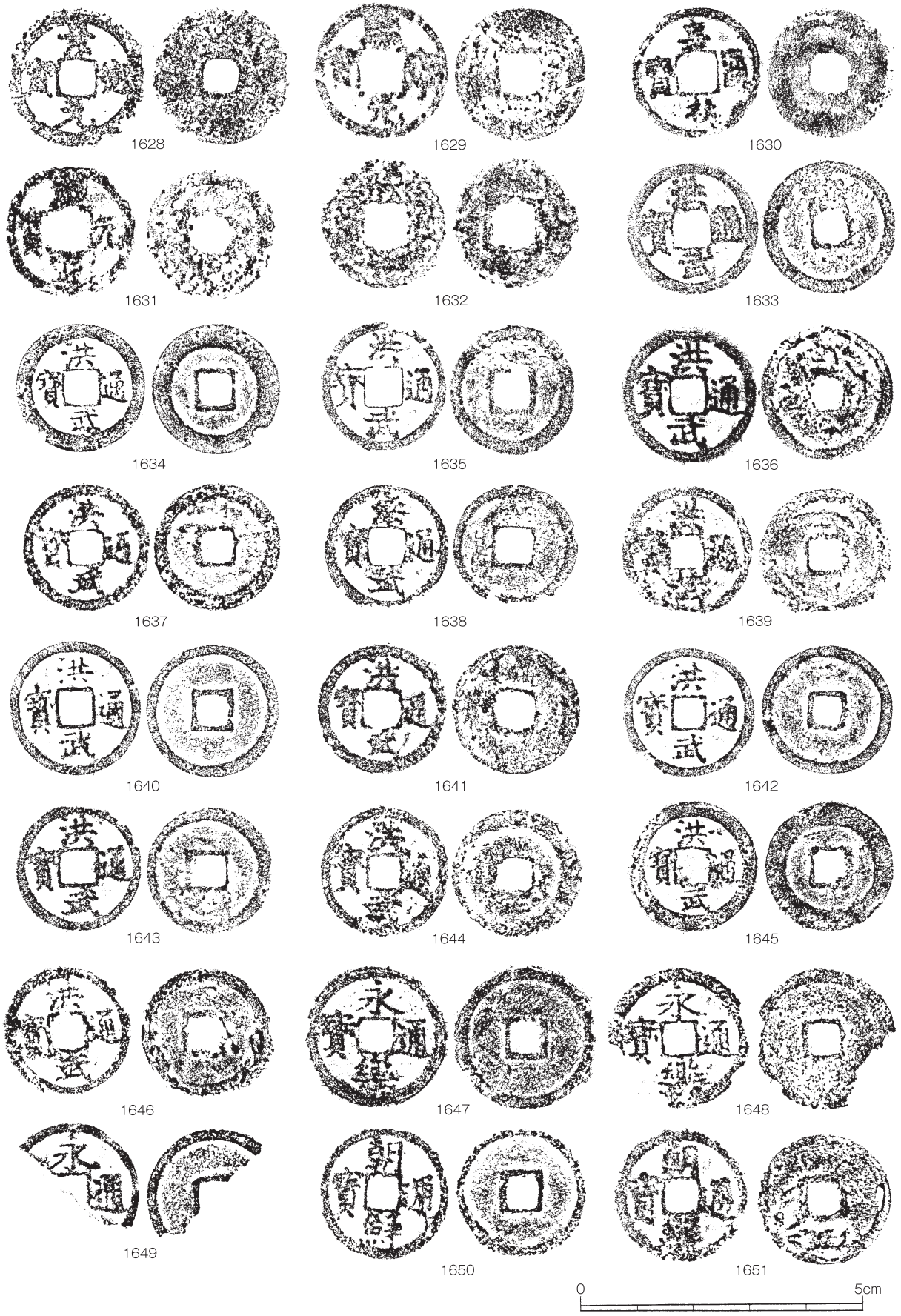
1616は肩が張り，ここで稜をもつ甕の破片だが，肩部（第268図では下）に重ね焼き痕跡がみられる。外面には黒釉がかかっているが，内面は無釉である。

1617は丸みをもって立ち上がり，口縁部でゆるやかに外反し，端部近くで直に立ち上がる口縁直径23cmの黄色っぽい飴釉鉢である。口縁内部は直に立ち上がり，頸部内面も稜をもって屈曲している。内外とも総釉で，外面は釉が垂れている。

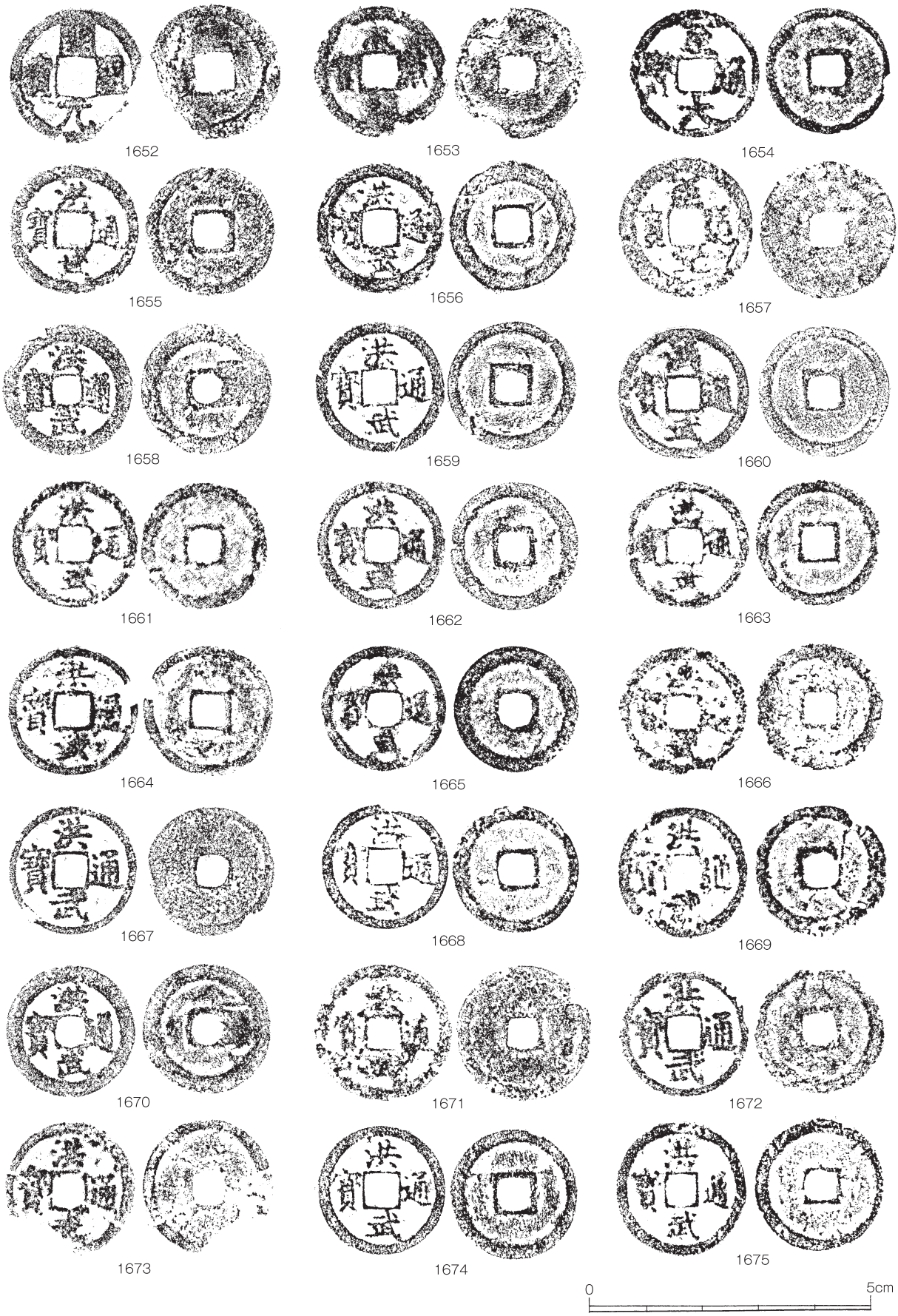
1618は口縁部へまっすぐ伸び，端が外へ下がる擂鉢である。内面かき目は幅が広い。注ぎ口を有している。 1619・1620は広口の直口壷である。口縁直径はいずれも19.8cmある。1620は，灰色であり，軟質あるいは須恵質に近いものである。

天目（第270図）

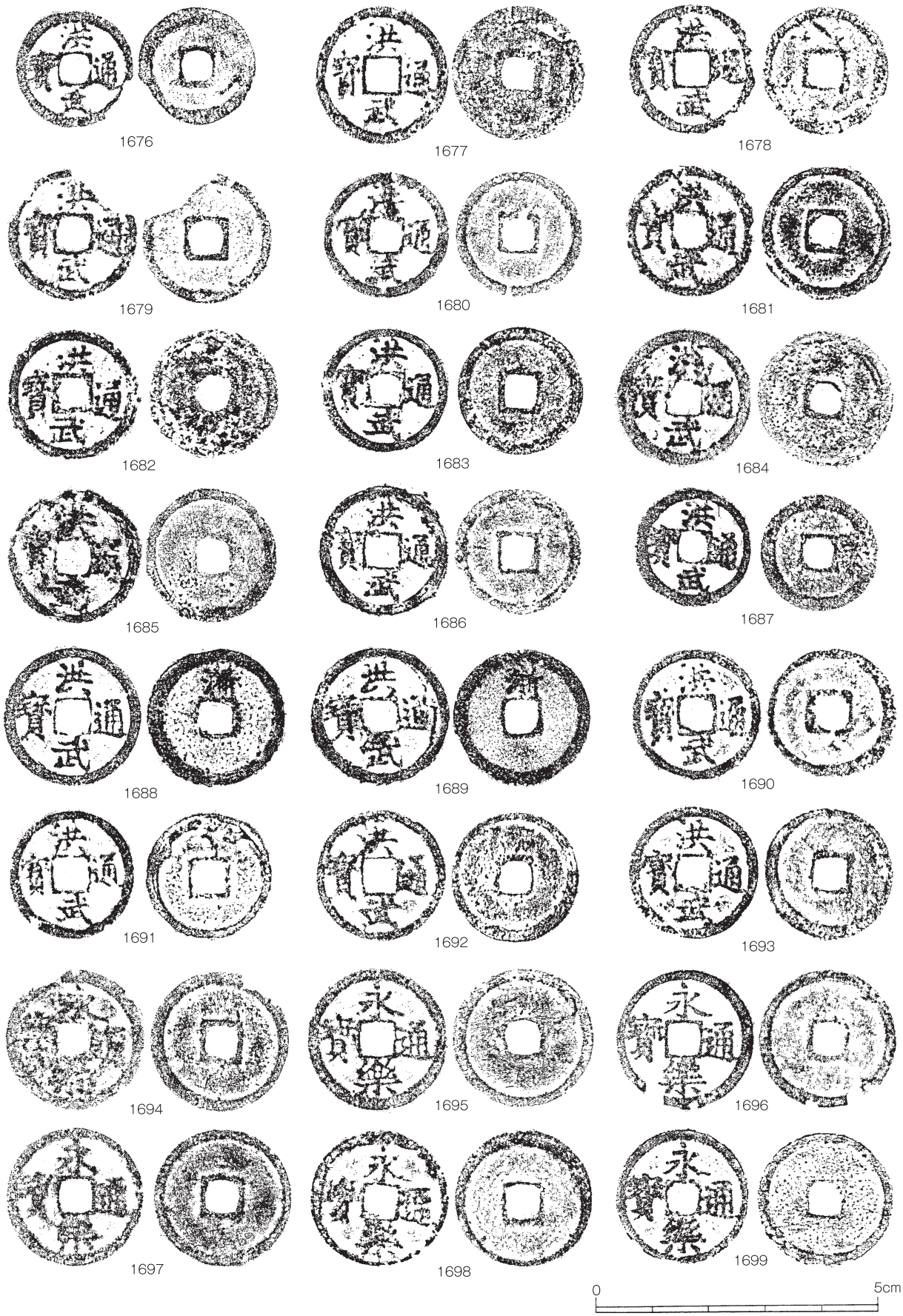
いずれも茶碗だが，底部から外へ広がり，口縁近くで屈曲し直に立ち上がるもの（1621・1624）と内弯するもの（1622・1623）とがある。底は幅が広く低い高台が付くもの（1621・1625）と，あげ底状となるもの（1626・1627）とがある。腰部と高台の境はしっかりした曲点をもっており，腰部から底にかけては露胎となっている。1621は，釉掛けも厚く釉の断面にガラス質の光沢もあり，中国産の可能性がある。他は美濃を中心とする国内産である。



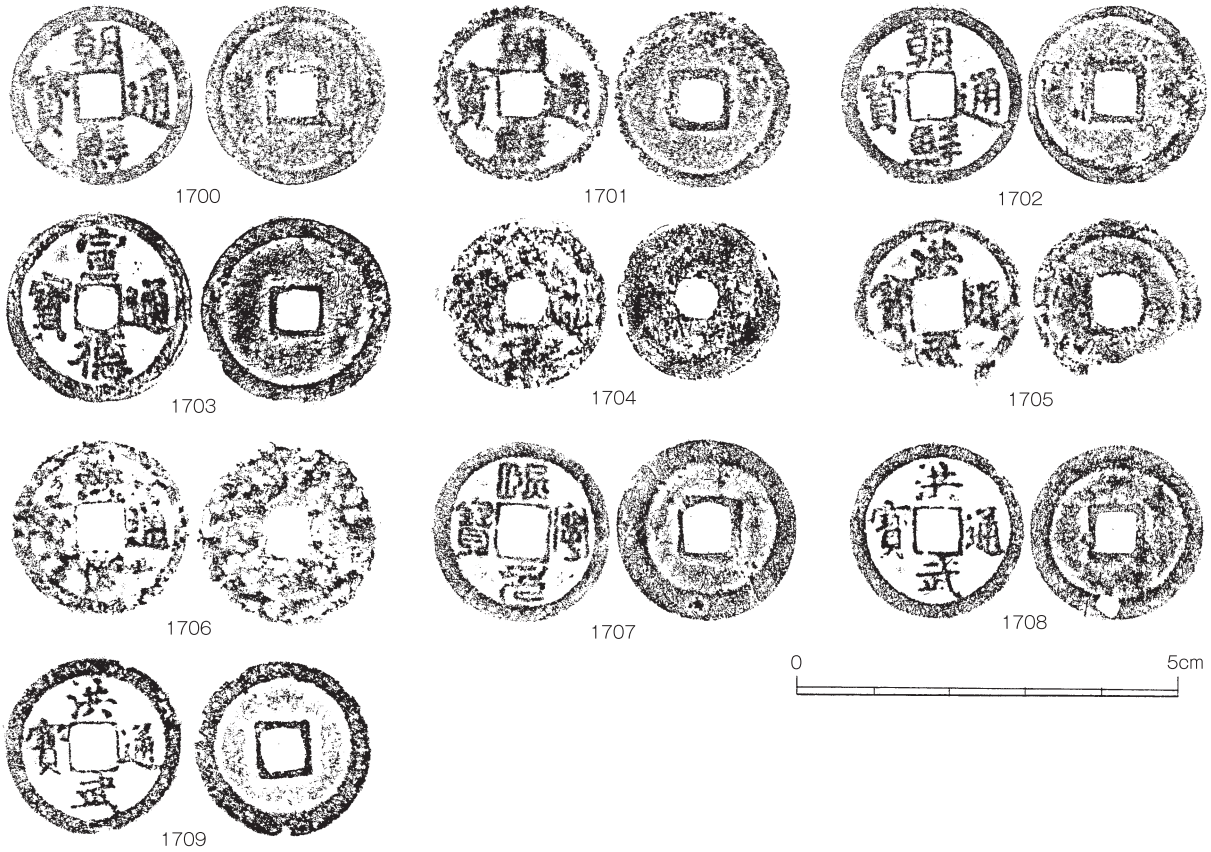
第271図　出土遺物（銭貨１）



第272図　出土遺物（銭貨２）



第273図　出土遺物（銭貨３）



第274図　出土遺物（銭貨４）

銭貨（第271図～第274図）

古代のものも含まれているが，古代土坑４及び中世墓等の一括遺構の銭貨を除く，82枚の拓影を掲載した。

出土区は，Ｈ－27が2枚，Ｊ－17が3枚，Ｇ－14が19枚，Ｇ－13が53枚と，Ｇ－13が，圧倒的に多い。銭貨の種類別では，開元通寶が１枚，景佑元寶が１枚，嘉寧元寶１枚，熙寧元寶１枚，元符通寶１枚，慶元通寶１枚，至大通寶１枚，洪武通寶57枚，永楽通寶９枚，朝鮮通寶５枚，宣徳通寶１枚，不明３枚である。

初鋳年代を見ると，古代以前が５枚であり，残りは全て中世である。中でも，洪武通寶が圧倒的に多く，Ｇ－13区に出土も集中している。ただし，ほとんどがＩ層の出土であるために，詳細は不明である。出土区の周辺で，銭貨に関する何らかの営みがあったことであろうとしか言えない。

第Ⅸ章　近世の調査

近世の遺構は，第275図のように，Ｈ－18区いわゆる曲輪２の南端部から掘立柱建物跡とＤ－13区を中心とする曲輪３より一段低い部分から，薩摩焼を中心とする陶磁器類と建物跡には復元できなかったが，数軒程度の柱穴群が検出された。

第１節　遺構

・掘立柱建物跡（第276図・第277図）

掘立柱建物跡は，桁行方向がほぼ東西で1間×４間の規模のものである。桁行間は平均で8.8m，梁間柱間は平均で3.74m，桁行間は平均で2.02mである。柱穴は平均で長径が75㎝，短径が67.3㎝，深さは75.9㎝である。柱穴の平面プランはほぼ円形である。

この建物の特徴は，根石を持つことと，柱の高さ調整のために，根石の下に粘土質の土を敷いてあることである。柱穴９以外の柱穴では，柱穴に根石が置かれており，その石質のほとんどが安山岩であった。

根石の下には，柱の調整のために敷かれた埋土は柱穴１，３，５，６，10では，根石の下と上で埋土の土色に違いが確認できた。土色・土質は，茶褐色の粘質土もしくは砂礫であった。他の柱穴でも柱痕や根石の状況から考えると根石の下には２㎝～45㎝の埋土があった。

また，柱穴５，６，10を除き柱痕が確認できた。長径は18㎝～35㎝で，平均で23.86㎝ある。柱穴５，８は切り合いが確認できる。柱を複数回建て直したものと思われる。

この建物の検出面は標高51.3m～51.0mであり，その高さが一定なことから，人為的に水平に造成された地面に建てられたものと考えられる。

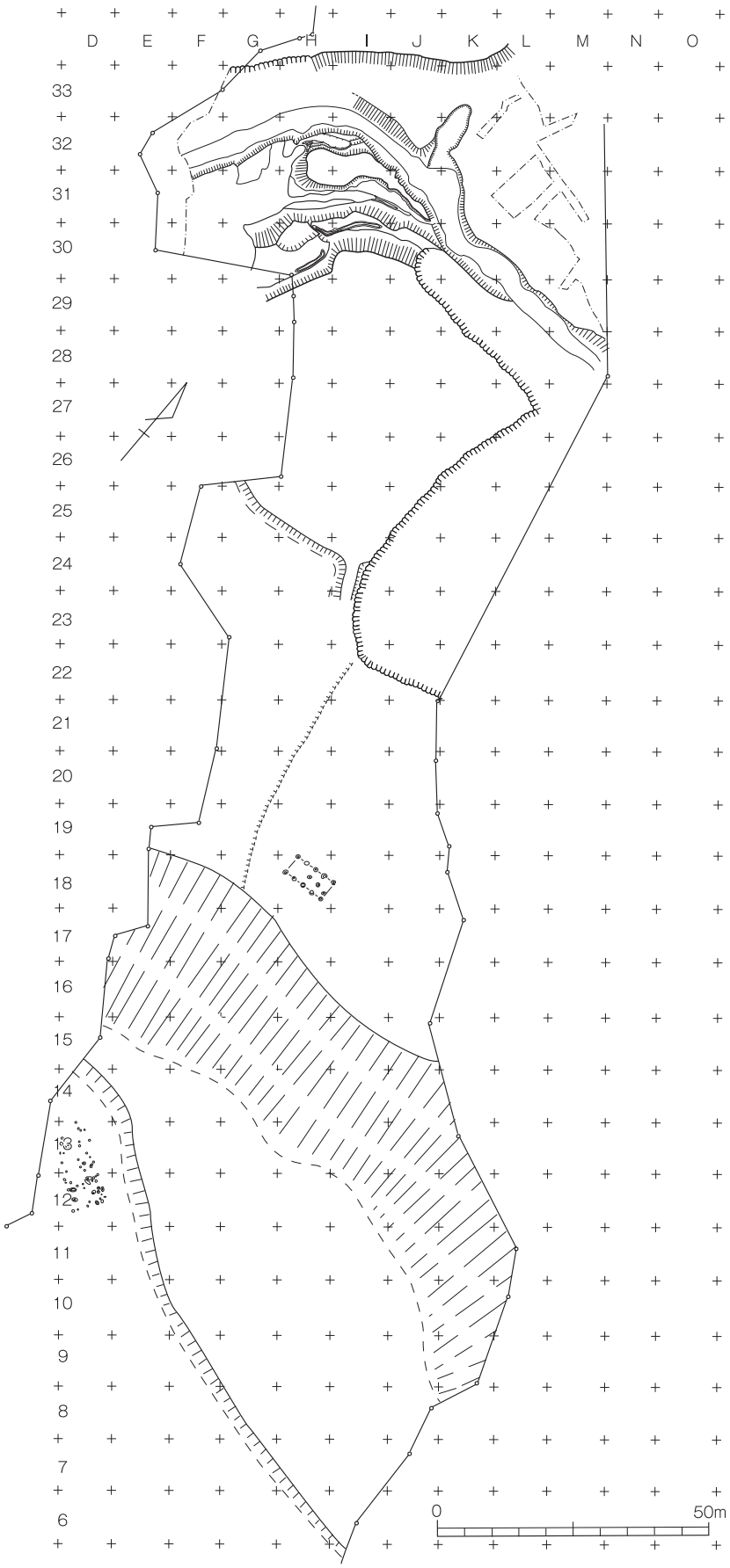
建物の規模としては，約８m×４mとかなり大規模なものであったと考えられる。

なお周辺には，柱穴が多数確認できたが，第276図の10基の柱穴以外で建造物を特定できないが，同等に径が大きく，深い柱穴が柱穴４と９，柱穴５と８，柱穴６と７の間に，柱穴７～２に向かって桁間を斜方向に柱穴が，梁間上に３基確認できた。おそらく，掘立柱建物跡が建っていた期間や前後に，この周辺に方位，大きさ，場所が異なった建造物が存在したものと考えられる。

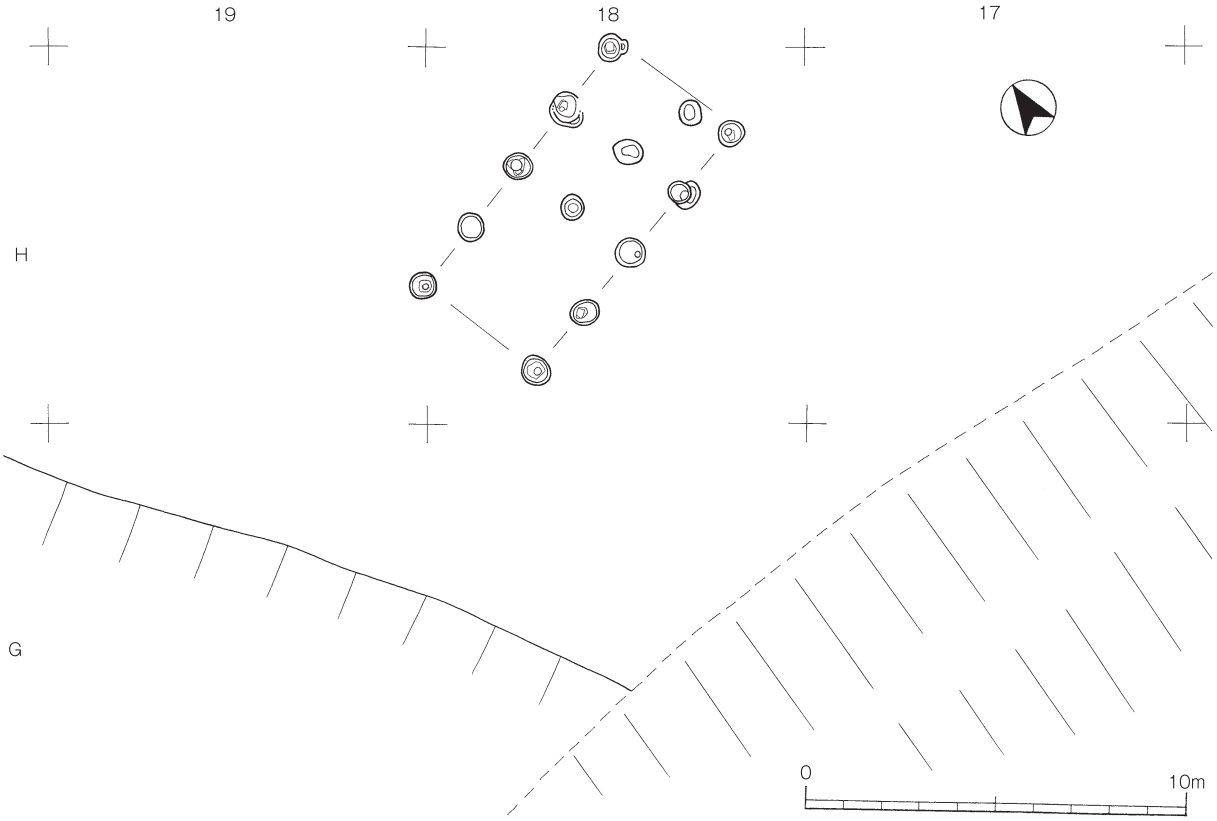
江戸１号掘立柱建物跡柱穴計測表・柱穴芯間計測表

柱穴番号	柱穴　（単位：㎝）		
	長径	短径	深さ（細深）
1	75	68	70
2	73	69	70
3	76	65	74
4	76	68	80
5	98	85	90
6	66	62	60
7	68	64	80
8	65	58	88
9	78	71	85
10	75	63	62
平均	75.0	67.3	75.9

柱穴番号	梁間柱間（m）	柱穴番号	桁間柱間	桁行間
Ｐ１～２	3.75	Ｐ２～３	2.00	8.00
Ｐ３～10	3.60	Ｐ３～４	2.00	
Ｐ４～９	3.75	Ｐ４～５	2.00	
Ｐ５～８	3.75	Ｐ５～６	2.00	
Ｐ６～７	3.85	Ｐ７～８	2.05	8.15
		Ｐ８～９	2.10	
		Ｐ９～10	2.00	
		Ｐ１～10	2.00	
平均	3.74		2.02	8.08



第275図　近世遺構配置図



第276図　掘立柱建物跡位置図

柱穴内からの遺物の出土は若干で，中世末から近世にかけてと思われる青花の小片が数点出土したのみであった。また，この建物の周辺からは，近世の遺物の出土はみられなかった。

・柱穴群（第278図・第279図）

本城の縄張の南端と思われる緩やかな傾斜面を水平に削って造成したと思われる部分で，江戸期の柱穴群と多量の薩摩焼や肥前系の陶磁器が出土した。

遺構の検出面は造成面，つまりシラス面である。包含層は曲輪から流れ込んだⅡ層～Ⅶ層とシラスの混土（純粋の包含層と言えるかどうかは問題であるが，便宜上，包含層と呼ぶこととする。）であり，遺構の埋土もほぼ同じような状況であった。また，上方の曲輪から流れ込んだと思われる古代や中世の遺物も表土や包含層に混じっていた。これら，古い時代のものについては，各時代の遺物の項で扱っている。

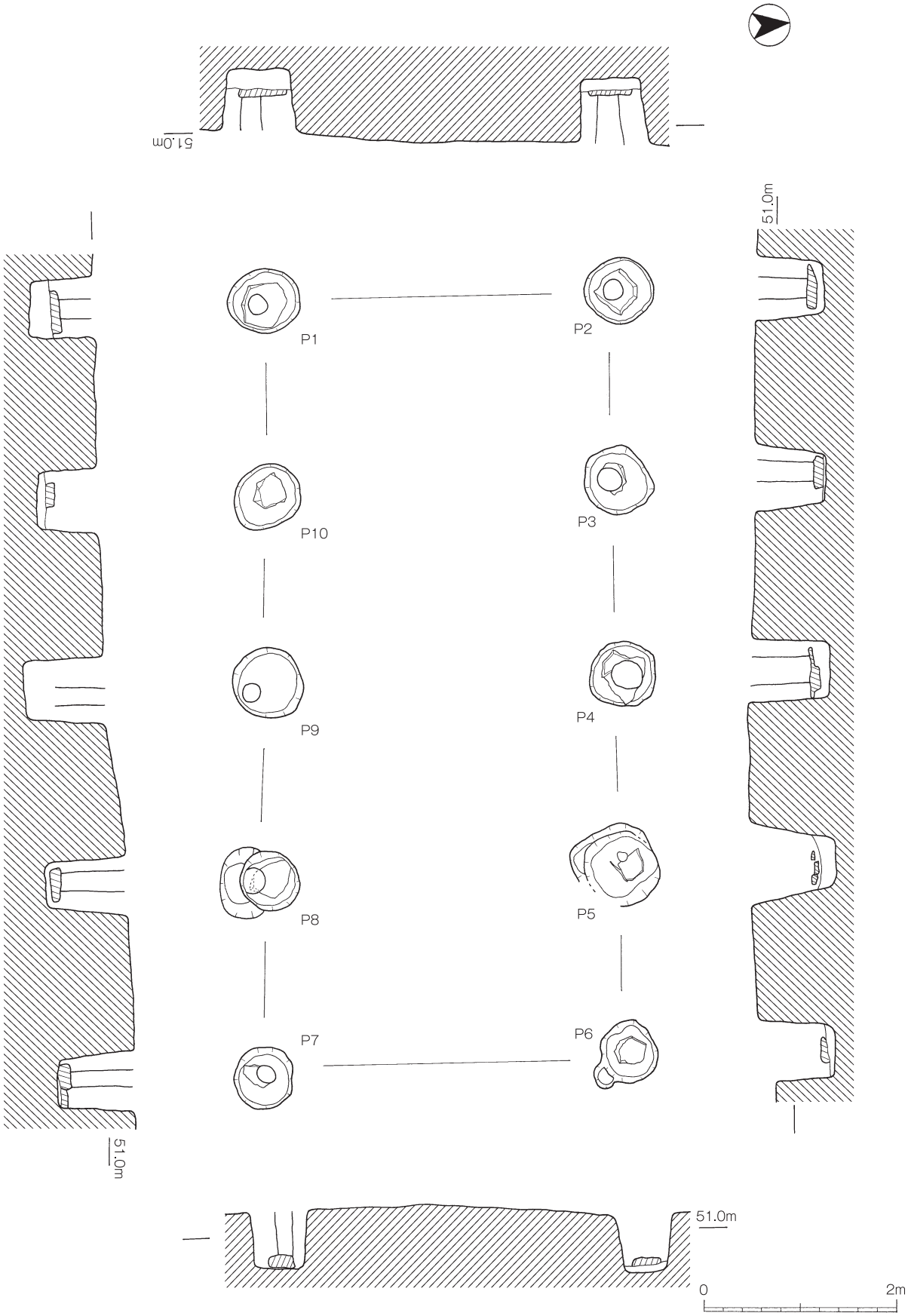
柱穴は，大小合わせて約60個程度である。その分布及び形状には，例外はあるもののいくつかの傾向がみられるようである。

①基本的に直径約30cm～60cmの柱穴の平面プランの基本パターンは円形であり，掘方も垂直である。

②約60cm以上の規模の柱穴は，平面プランが楕円形のものが多い。また，その断面については，ハイヒール型，つまり，二段構造のものが多い。

③小さな柱穴には，根石はない。掘方は垂直である。

④ハイヒール型のものは，根石がないものが多い。



第277図　掘立柱建物跡

⑤　ハイヒール型でＰ５，Ｐ８には根石があるが，Ｐ５のみがヒール部に根石が位置している。

⑥　根石に用いられている石は，安山岩が多く，円形の柱穴の場合は，板石が多いようである。

⑦　調査区の北側の柱穴は，ほとんどが円形で直径が約30cm～60cm程度のものが多く，根石は全くない。

⑧　それに反し，調査区南側には，平面プランが楕円形で根石を持つものやハイヒール型のものが多い。

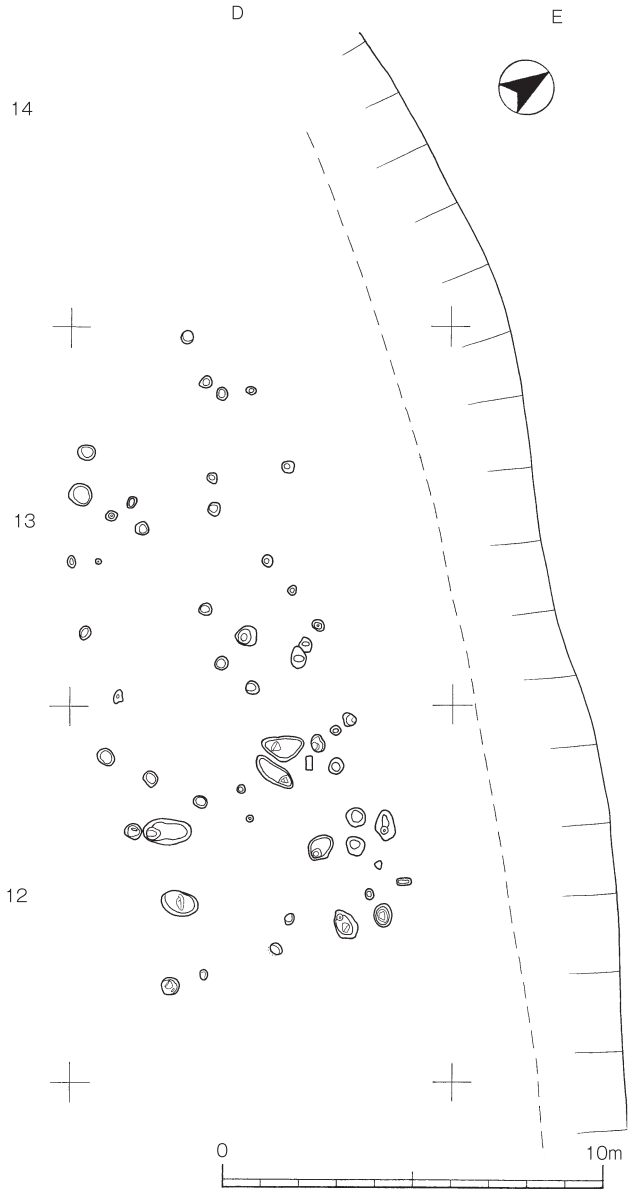
⑨　掘りなおしたり，建て替えたような柱穴はほとんどない。

⑩　遺物の出土は，Ｄ－13が中心である。

などの特徴があるようである。

柱穴の形状その他については，以上のような傾向が見られるが，建物として復元はできなかったが，東西に長く柱穴が分布している。つまり，南側に向いた建物があったことが想像できる。

具体的な建物の構造や資料不足ではあるために断言はできないが，①～⑩を総合すると，東側の楕円形や根石のある柱穴部分が母屋であり，西側の円形の柱穴群の部分は，母屋に付属する建物であったのではなかろうか。生活用の雑器がこの部分に多いことからすると，最も考えられるのが，普段における生活場，すなわち，台所と農作業におけるその内業にかかわる場であったとの想定ができる。



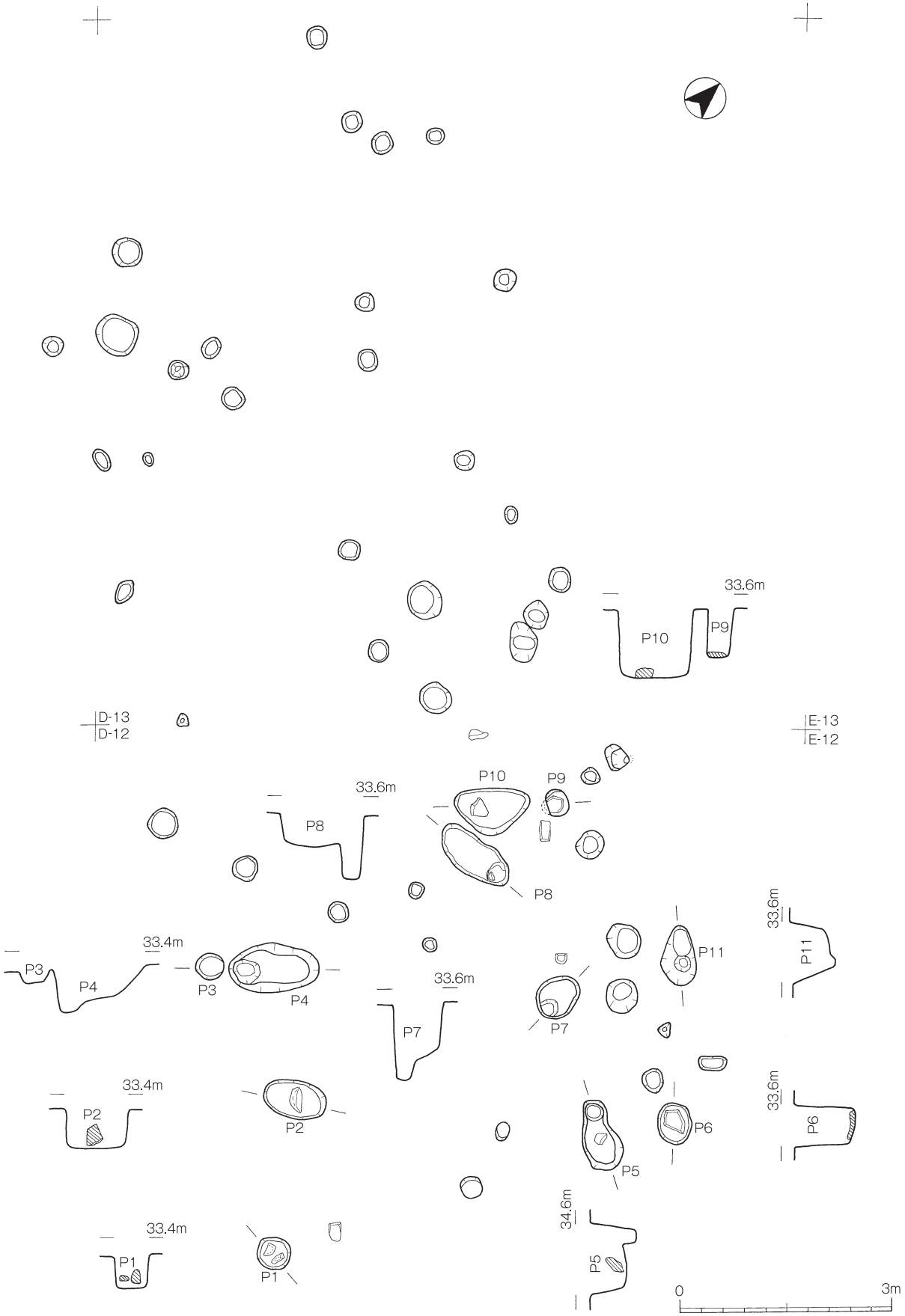
第278図　柱穴群位置図

第２節　遺物（第280図～第289図）

・磁器（第280図・第281図　1710～1720）

1710～1714は肥前系の染付碗である。

1710は外面に幅の狭い一重網目文が描かれた丸碗で，高台が高く削り出される。釉はぎされた畳付には，白色砂粒が付着する。1711は薄手の丸碗で，花文と思われる文様が描かれる。1712はやや深みのある碗で，器壁・高台ともに薄手である。見込みには二重圏線が廻り，外面は扇文が描かれる。1713は外面に丸文が描かれた丸碗で，波佐見焼である。胎土は灰色を帯びた色調で，


33.6m
P10
P9
D-13
D-12
E-13
E-12
33.6m
P10
P9
P8
P8
33.6m
P11
P11
33.4m
P3
P4
P3
P4
33.6m
P7
P7
33.4m
P2
P2
P6
P6
P5
34.6m
P5
33.4m
P1
P1
0
3m

第279図　柱穴群

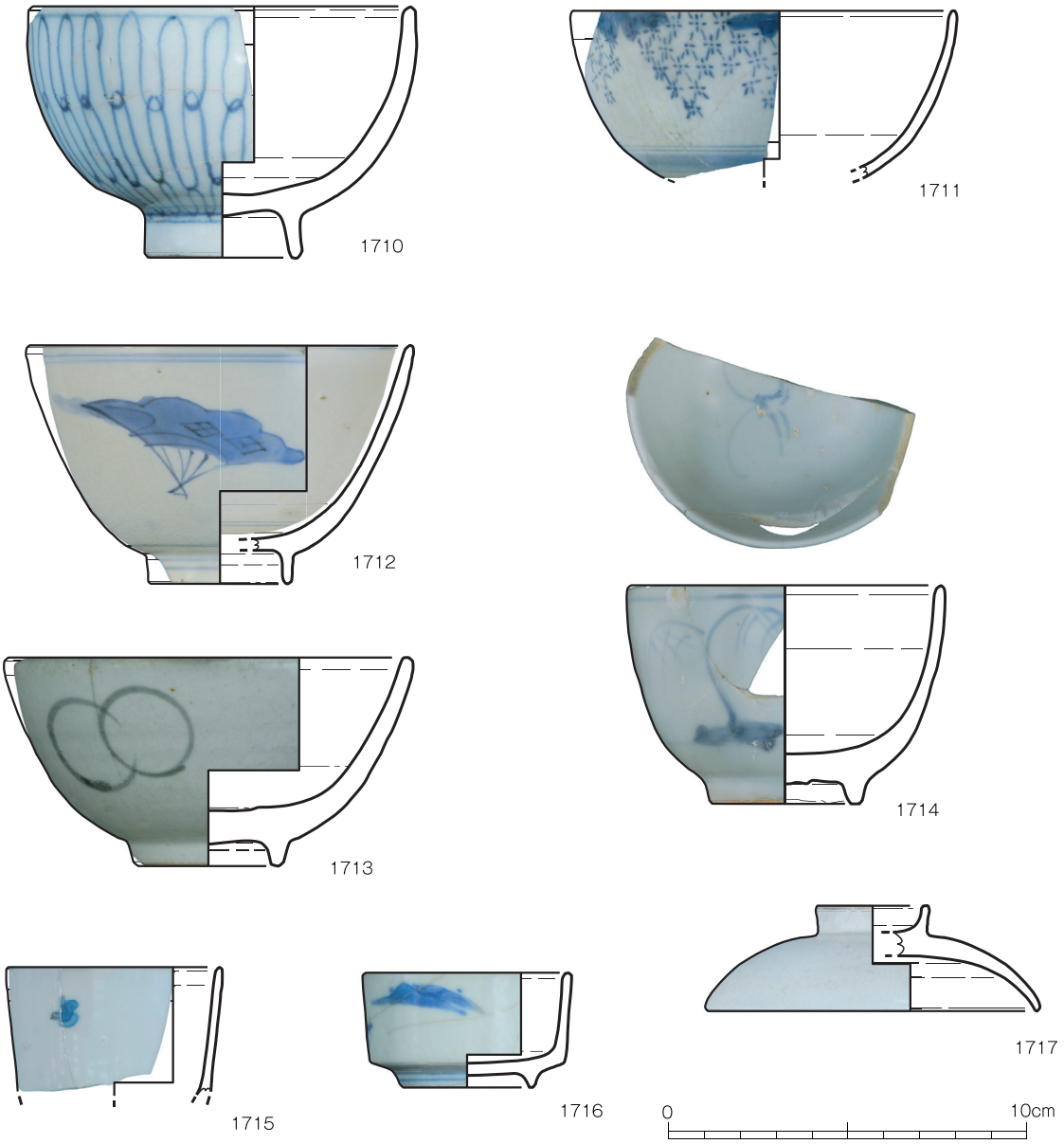
見込みは幅広の蛇ノ目釉剥ぎが施される。1714は外面に草来文が描かれた深小丸碗で，波佐見焼である。見込みにも文様が描かれるが，詳細は不明である。胎土は灰色を帯び，釉はやや青みがかる。高台内および畳付には白色砂粒が付着する。

1715・1716は小坏である。1715は口唇部に鉄銹を塗った口紅装飾が施され，外面には鳥文が描かれる。1716は低い筒形を呈するもので，山水文が描かれる。

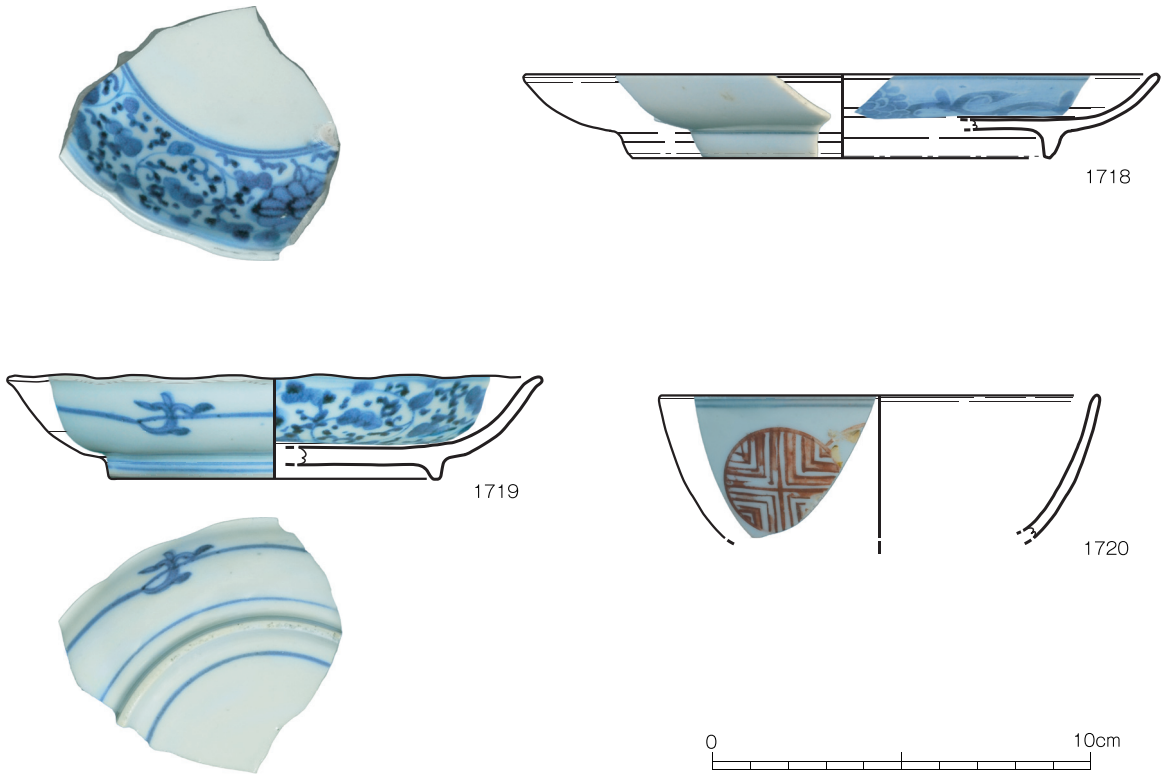
1717は白磁の蓋である。口唇部および，つまみ外と頂部の境には口紅装飾が施される。

1718・1719は染付皿である。1718は内面に唐草文が，1719は内面に牡丹唐草文，裏文様に唐草文が描かれた皿で，1719の口縁部は輪花となる。

1720は色絵の丸碗である。器壁が薄く，外面に丸文が描かれる。



第280図　磁器（1）



第281図　磁器（2）

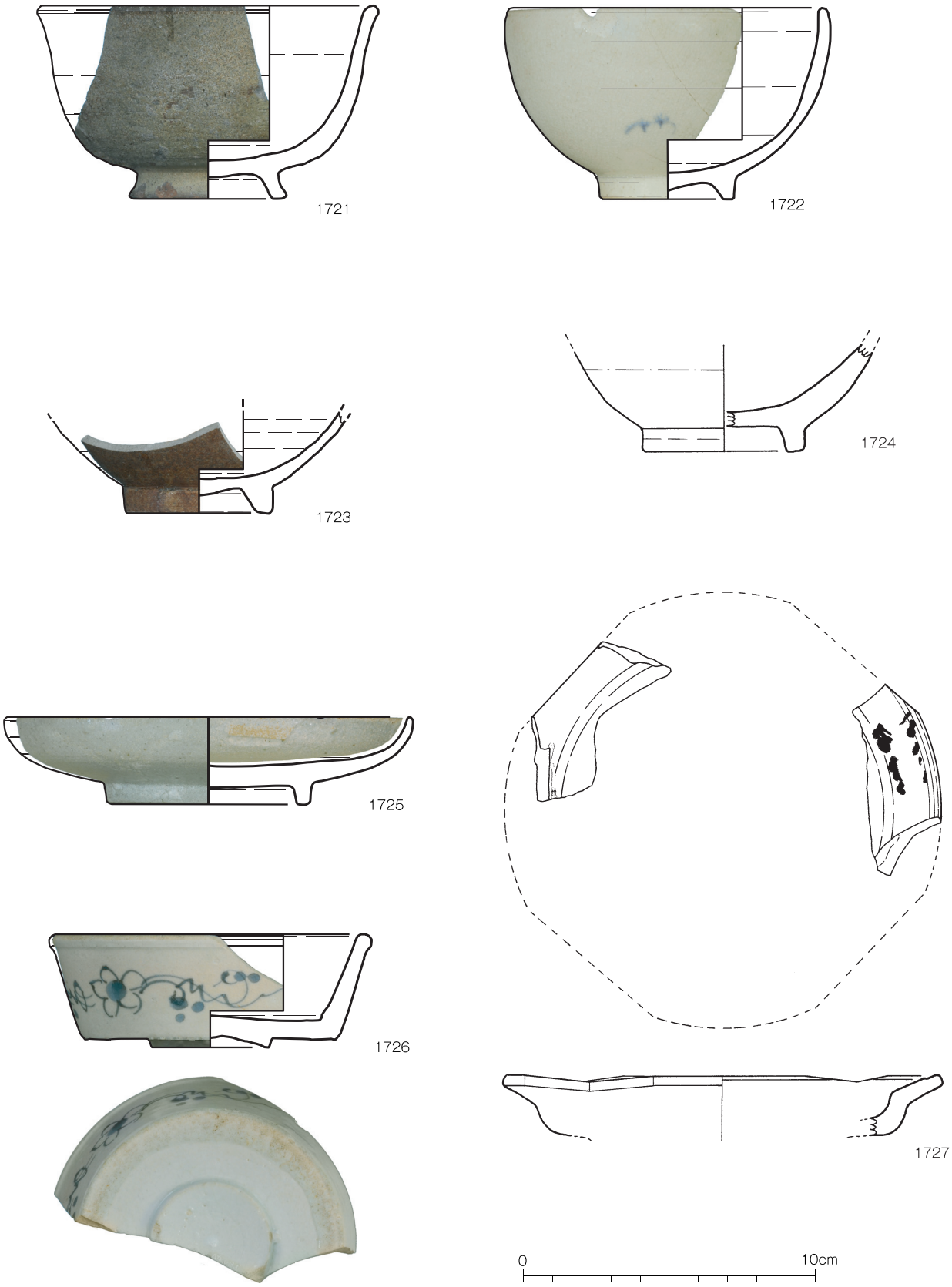
・**陶器**（第282図～第289図）

1721～1757は薩摩焼である。

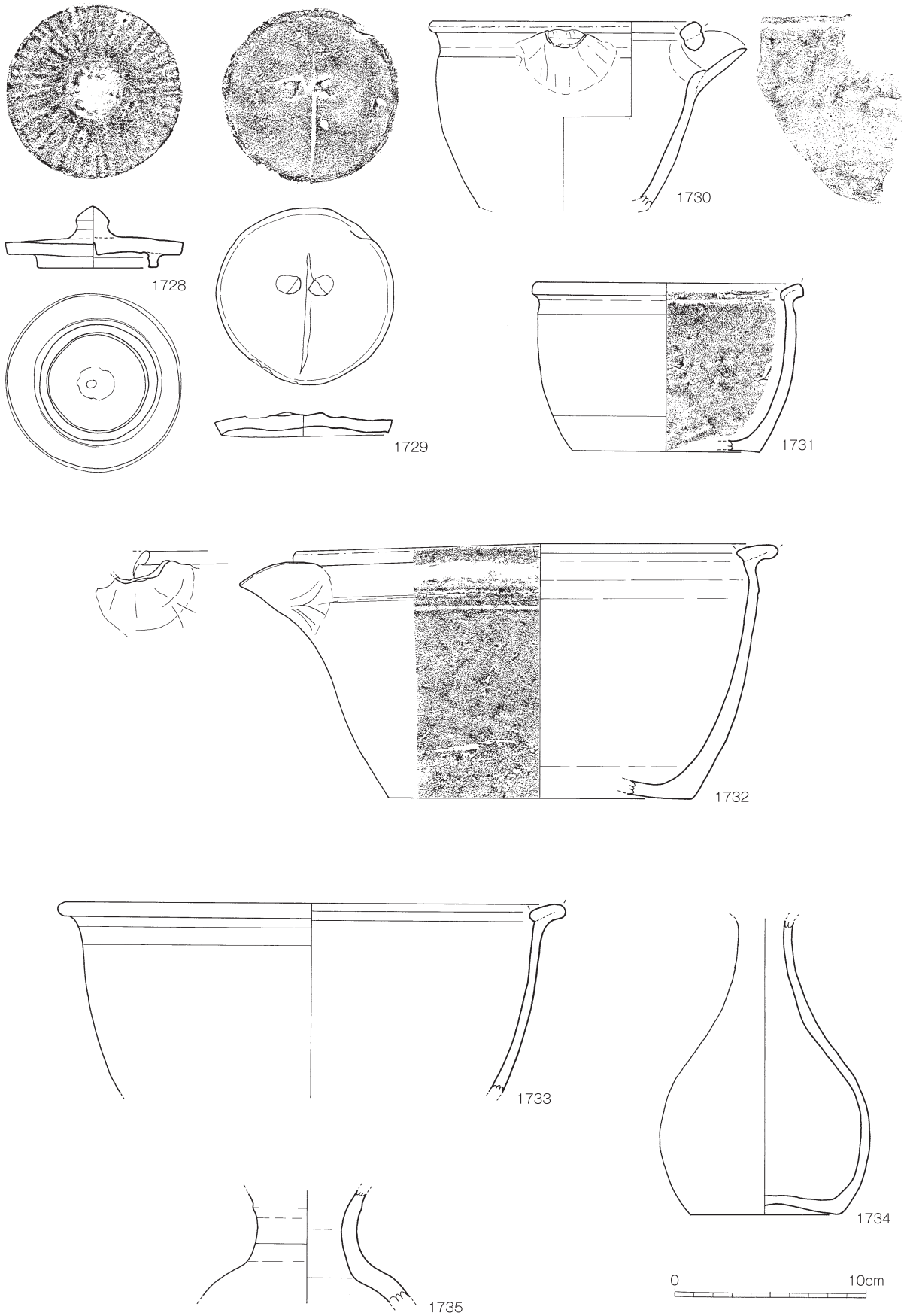
1721は腰部が張り，口縁部がわずかに外反する形状の碗である。高台は付け高台でバチ状を呈する。釉は，灰緑色の灰釉が口唇部を除き施釉される。1722は一般に「白薩摩」と呼ばれる白色陶胎の碗である。黄色味を帯びた灰白色の胎土に透明釉が畳付を除きかけられる。外面には呉須で笹文がえがかれるが，欠損部が多いため全体の図柄の詳細は不明である。高台の形状は兜巾高台である。1723は黄白色の胎土に褐色の飴釉が，畳付を除きかかる碗である。見込みには胎土目の痕跡が４か所残る。1724は黒褐色の褐釉が，腰部から高台内面を除いてかかる碗である。1725は皿である。灰色の胎土に，わずかに黄緑色がかった透明釉がかかるもので，畳付は無釉である。

1726は「白薩摩」と呼ばれる白色陶胎の皿としたが，器種，産地ともに異なる可能性も考えられる。外面には呉須により花文が描かれる。底部はゆるやかな上げ底で，中心は兜巾状につくられる。強く屈曲した腰部の下面には，幅１cm程度の釉はぎが環状に施される。1727は白色陶胎の白薩摩の皿である。体部の形状は腰部で強く屈曲し，口縁部で折れ縁となる。上面からの形状は，円形につくられた口縁部の４か所を直線的に切り取り，隅丸方形に仕上げる。図上復元のため詳細は不明であるが，折れ縁の口縁部には数か所鉄絵が描かれるものと思われる。

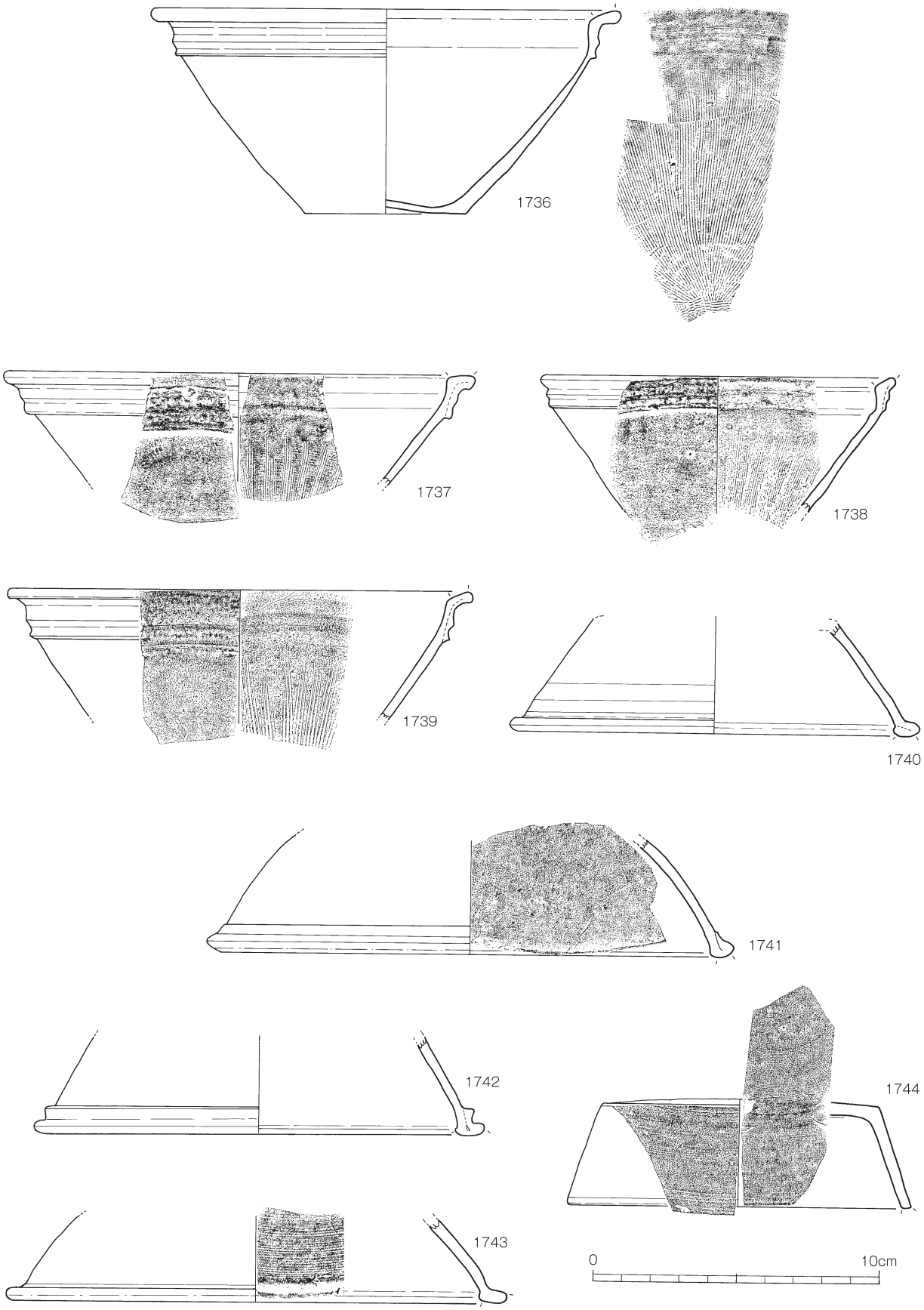
1728・1729は上面からの形状が円形をした無釉の蓋である。水注等の蓋として使用されたものと思われる。ロクロ上で工具を使用して粘土を平らにし，先端が鋭利な工具で円形に切り取るため，端部はシャープなつくりとなっている。1728は上面に，工具で粘土を平らにした際のタタキ



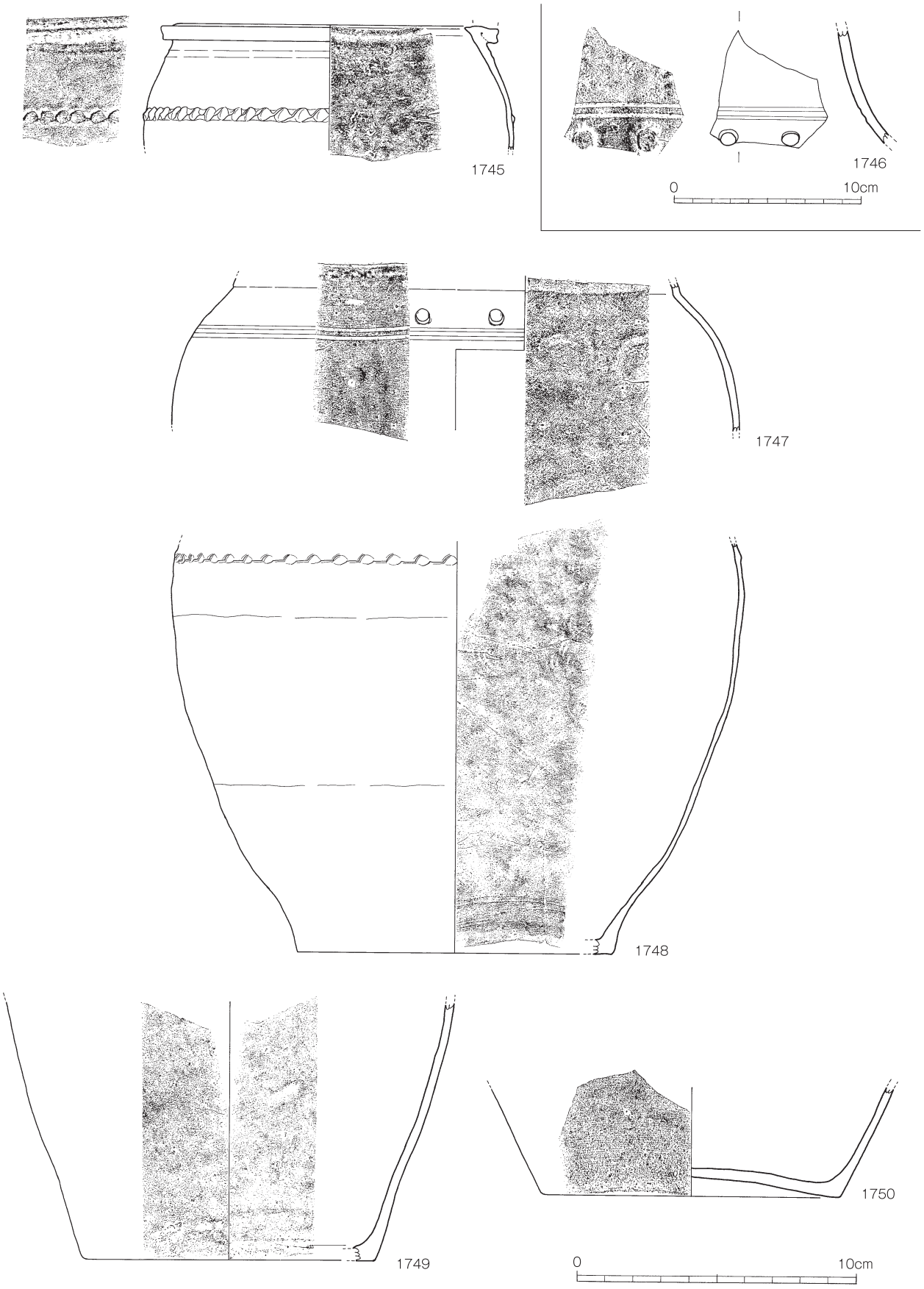
第282図　陶器（1）



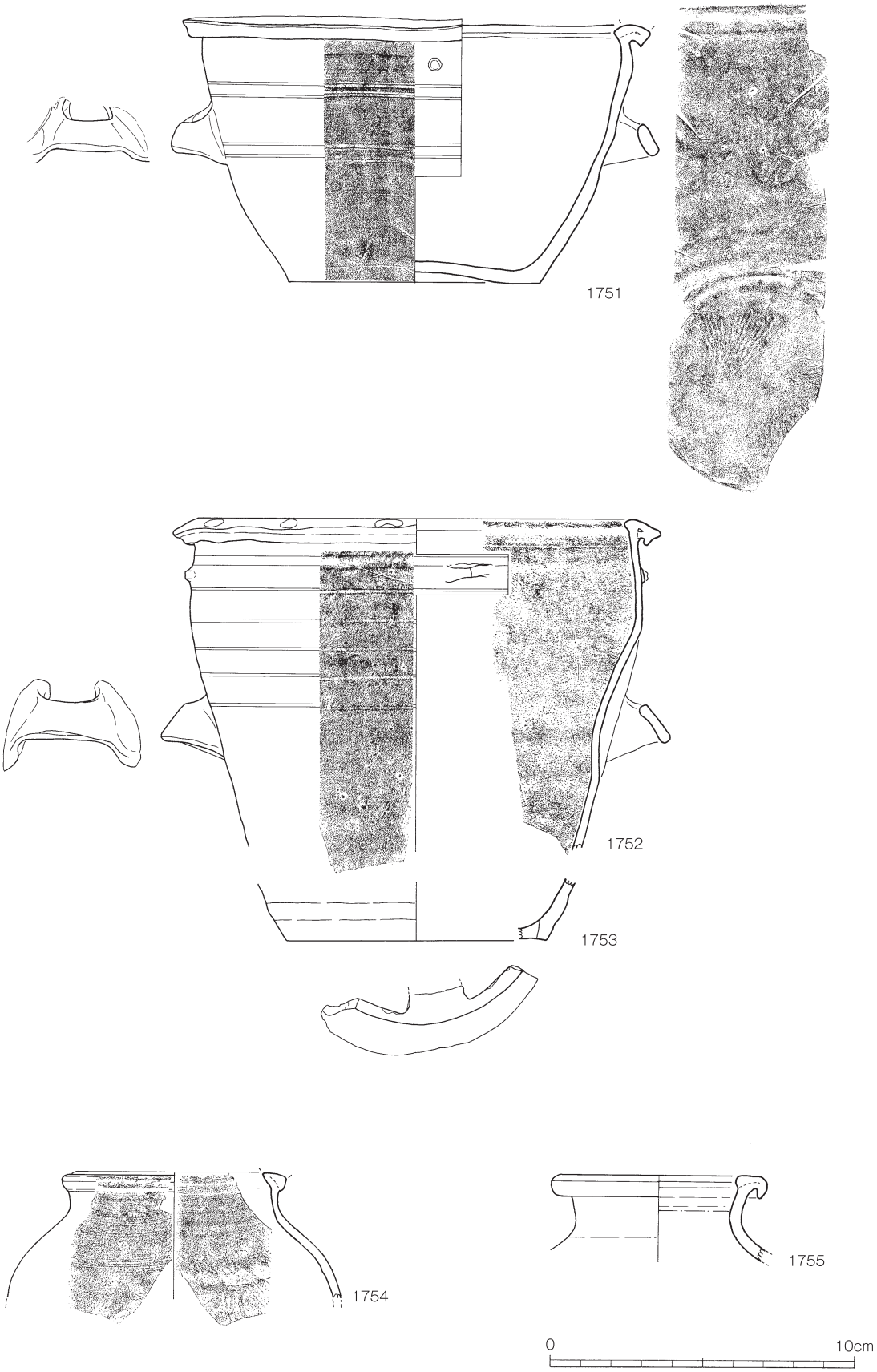
第283図　陶器（2）



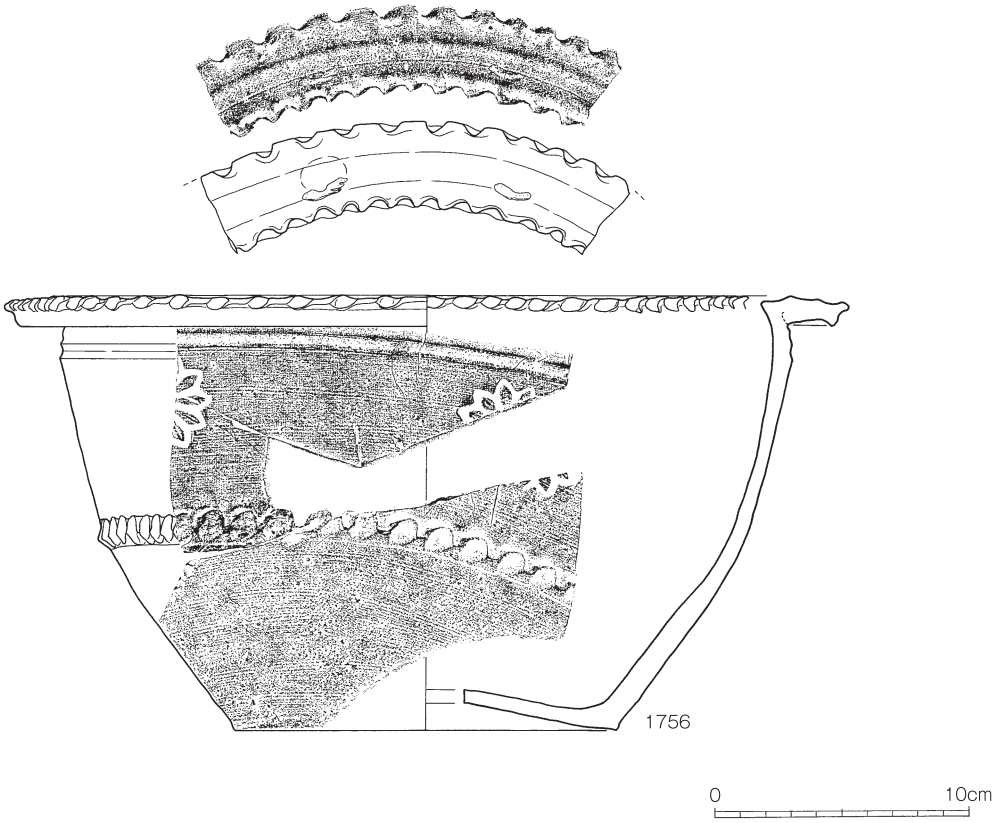
第284図　陶器（3）



第285図　陶器（4）



第286図　陶器（5）



第287図　陶器（6）

目が放射状に残り，中央には宝珠状のつまみが付く。また下面には粘土紐を輪状に貼り付ける。1729はつまみ部が欠損しているが，アーチ状のつまみが付くものと思われる。

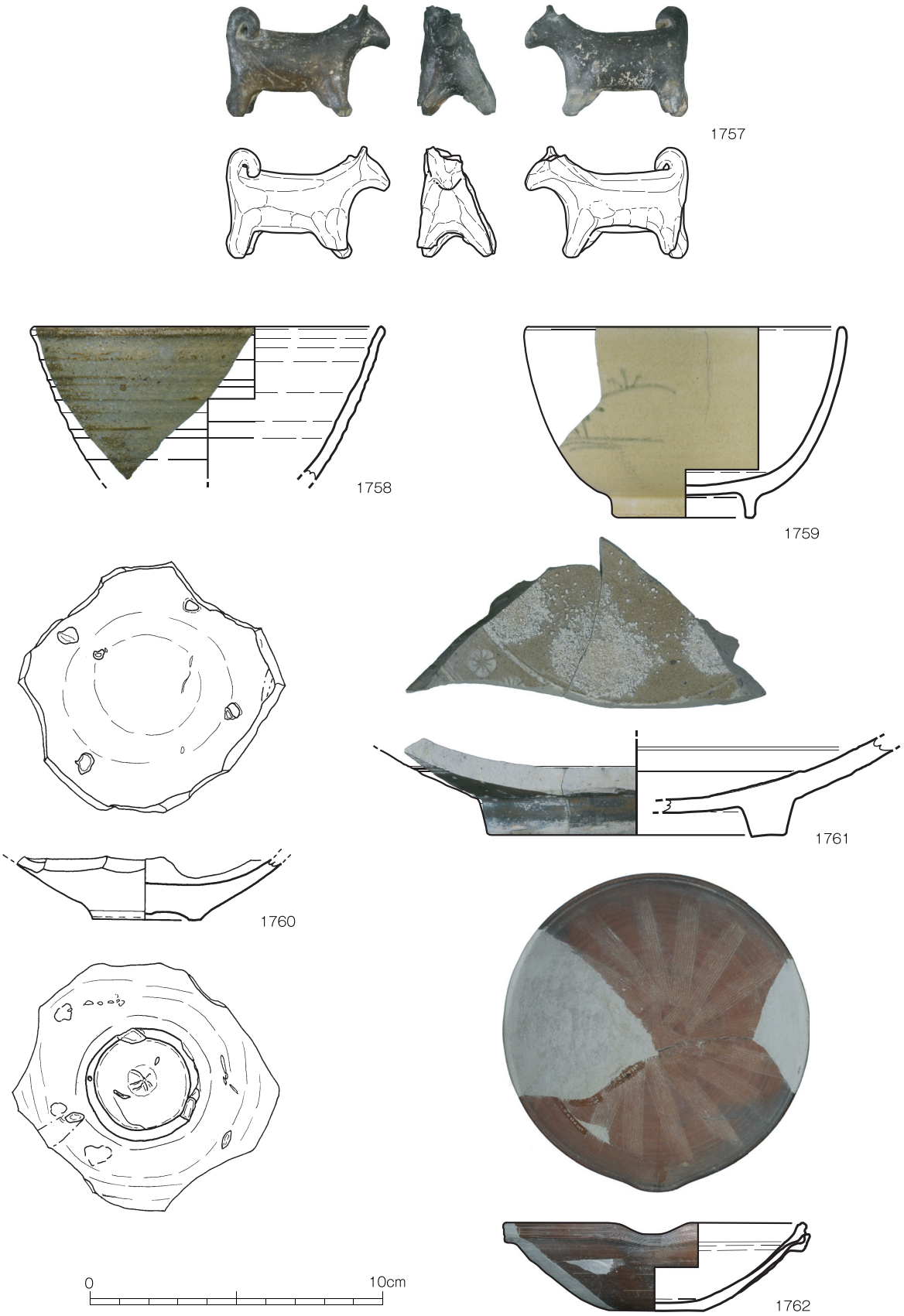
1730～1733は片口である。口縁部は内側に折り返して丸くつくられる。1731・1733は片口部が欠損しており，1730・1732の片口部は注ぎ口を口縁部下位に貼り付け，ヘラ等の工具でなでつけて胴部に密着させる。さらに内側から切り込みを入れ，上部は外側に折り返し，下部は注ぎ口になでつける。1730・1741は内面にタタキ成形時のあて具の痕跡が同心円状に残る。

1734・1735は徳利である。1734は同一個体である頸部と胴部から底部の陶片を図上復元したものである。小形の徳利で，頸部は細長く鶴首状につくられる。1735は徳利の頸部である。器壁は厚く，釉も無釉である。

1736～1739は擂鉢である。体部は，底部から口縁部にかけて「逆ハ」の字形に開く形状を呈し，口縁部は外側に折り返して肥厚させ，２条の突帯をつくる。擂り目は細くシャープで，口縁部下位に紆余白を残す。1739を除き口唇部には貝目が残る。

1740～1744は浅鉢形の形状を呈する蓋である。甕等の蓋として使用されたものと思われる。口唇部の釉は拭い取られており，1744を除き貝目が残る。1740・1743は，口縁部を内側に折り返してつくり，1741・1742は外側に折り返して肥厚させてつくる。1744は洗面器状の形状を呈する蓋である。口唇部は折り返さず，平坦におさめる。釉は口唇部を除き施釉される。

1745～1748は甕である。1745は肩部が膨らみ，縄状の突帯を有するものである。口縁部は外側に折り返し，さらに内側に折り返して，先端は胴部に接するようにしておさめる。口唇部は外側



第288図　陶器（7）

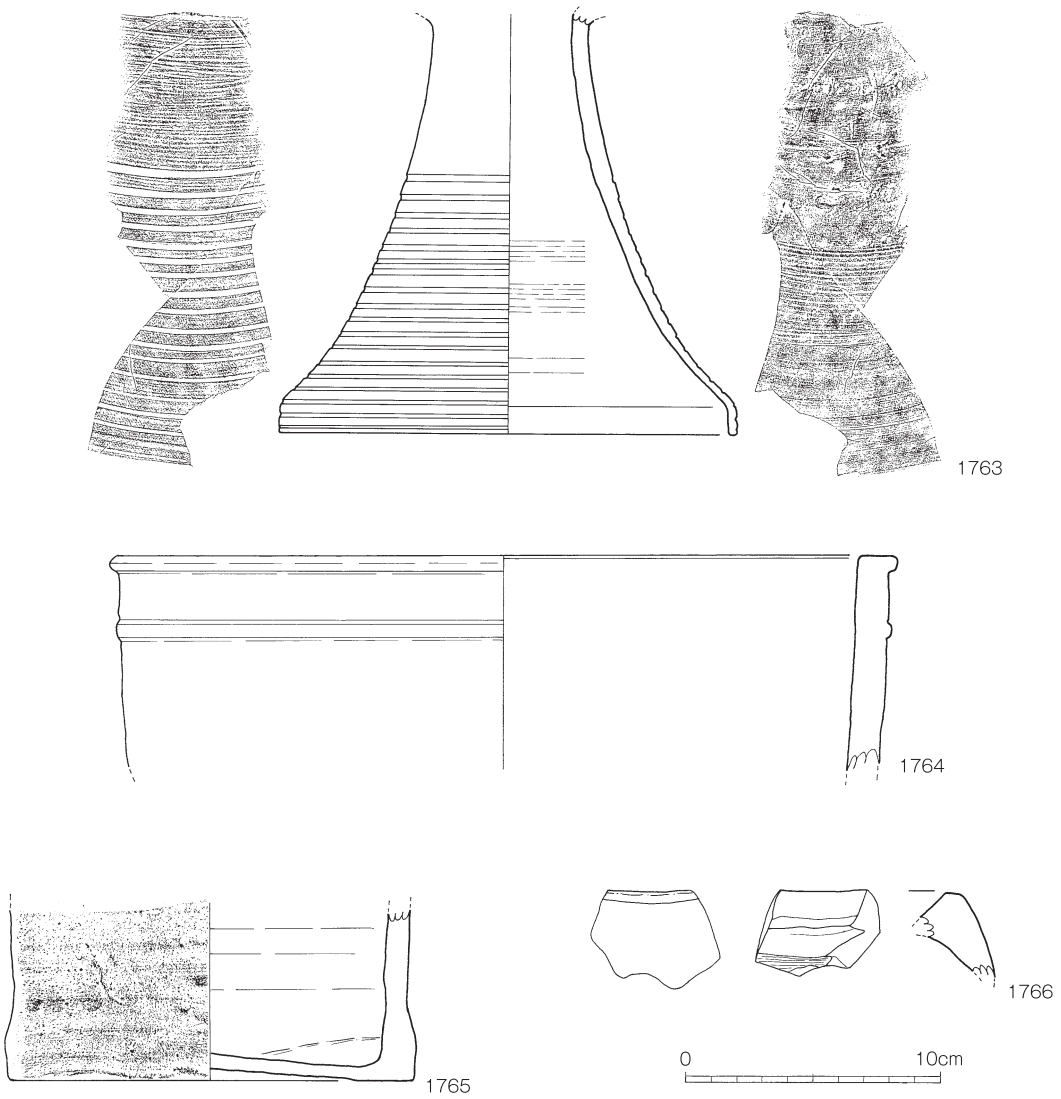
が溝縁状につくられる。1746・1747は肩部に，円形でボタン状の突起が２か所付くものである。金属器等の留め具等を模造したと思われる。1748は肩部に縄状の突帯が廻る。

1749・1750は甕または壷の底部である。外底面には貝目が残る。

1751は把手付甕である。鉢形の形状で，胴部中位に下側が広いアーチ状の把手が２か所付く。口縁部は外側に「コ」の字状に折り返しておさめる。また外面口縁部下位には丸いボタン状の突起が付き，胴部には４条の沈線が廻る。内面にはタタキ成形時のあて具痕が同心円状に残り，内底面には放射状に残る。

1752・1753は甑である。接合はできなかったが同一個体になるものと思われたため，図上復元をおこなった。バケツ形の形状で，口縁部下位に山状の突起が付き，胴部には沈線が５条廻る。底部は数か所切り抜いて，穴をあけるものと思われる。内面にはタタキ成形時のあて具痕が同心円状に残る。口唇部には貝目が残る。

1754・1755は壷である。どちらも口唇部には貝目が残る。1754は口縁部を外側に折り断面三角形につくる。外面肩部から頸部には，ヘラ状工具による横方向の筋状の調整が施される。1755は



第289図　陶器（8）

口縁部を外側に折り，さらに内側に折り返しておさめ，端部を下方に垂れる形状につくる。

1756は植木鉢である。釉はかけられず，焼き締めである。底部中央には直径３㎝の円形の穴が穿たれる。口唇部の両端には波状の装飾を施し，外面は胴部全体にヘラ状工具によるナデ調整を施した後，口縁部下位に花文をスタンプし，胴部中位に縄状の突帯を廻らす。また，内面は同心円状のタタキ成形の痕跡が残る箇所も見られるが，ナデ調整によりナデ消されている。

1757は動物形土製品である。犬を形取ったものと思われ，全面に褐色の鉄釉が欠けられる。

1758～1761は肥前系陶器である。1758は碗である。口縁部の先端がわずかに外反し，胴部にはロクロ成形による筋状の痕跡が残る。1759は黄白色の胎土に透明釉が畳付を除きかけられた碗である。外面には呉須で文様が描かれる。1760は皿である。腰部から高台内面は無釉で，高台内面の中央は兜巾となる。また，見込みと腰部には胎土目が観察される。1761は白土象嵌で文様を施した三島手の大皿もしくは盤である。畳付と高台内面は無釉である。見込みには砂目が観察される。

1762～1766は産地不明の陶器である。1762は備前焼の小形擂鉢である。小鳥の餌擂鉢と思われる。

1763は高坏の脚部と思われるものである。緻密な胎土で，外面には17条の沈線が廻る。内面にはヘラ状工具による丁寧な調整痕が見られる。産地は不明である。1764は瓦質の火鉢である。1765はサヤ鉢であるが，内面に煤が付着していることから，他の用途に転用していたものと思われる。1766は甕もしくは壷と思われるものである。口縁部は内弯し，蓋受け部を有する。釉は黒色の鉄釉が，蓋受け部を除きかかる。産地不明である。

第Ｘ章　科学分析

＜放射性炭素年代測定結果　その１＞

放射性炭素年代測定結果報告書
（AMS測定）
向栫城跡

㈱加速器分析研究所

（１）遺跡の位置

向栫城跡は，鹿児島県日置市東市来町伊作田に所在する。

（２）測定の意義

土器が使用された年代と炭化材の年代を明らかにする。

（３）測定対象試料

測定対象試料は，Ⅳ層から出土した土器付着炭化物No.1（1：IAAA-62917）とNo.2（2：IAAA-62918），炭化材No.9（3：IAAA-62919），合計３点である。

（４）化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い，根・土等の表面的な不純物を取り除く。

２）AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理，アルカリ処理，酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈し，90℃で乾燥する。希釈の際には，遠心分離機を使用する。

３）試料を酸化銅１gと共に石英管に詰め，真空下で封じ切り，500℃で30分，850℃で２時間加熱する。

４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し，真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し，グラファイトを作製する。

６）グラファイトを内径１mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，加速器に装着し測定する。

（5）測定方法

測定機器は，3MVタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。134個の試料が装填できる。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また，加速器により^{13}C/^{12}Cの測定も同時に行う。

（6）算出方法

1）年代値の算出には，Libbyの半減期5568年を使用した。

2）BP年代値は，過去において大気中の炭素14濃度が一定であったと仮定して測定された，1950年を基準年として遡る放射性炭素年代である。

3）付記した誤差は，次のように算出した。
複数回の測定値について，χ^2検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い，みなせない場合には標準誤差を用いる。

4）δ^{13}Cの値は，通常は質量分析計を用いて測定するが，AMS測定の場合に同時に測定されるδ^{13}Cの値を用いることもある。

δ^{13}C補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は，いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \qquad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \qquad (2)$$

ここで，　$^{14}A_S$：試料炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$または$(^{14}C/^{13}C)_S$

$^{14}A_R$：標準現代炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$または$(^{14}C/^{13}C)_R$

δ^{13}C は，質量分析計を用いて試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し，PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として，それからのずれを計算した。但し，加速器により測定中に同時に^{13}C/^{12}Cを測定し，標準試料の測定値との比較から算出したδ^{13}Cを用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また，Δ^{14}Cは，試料炭素が$\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの^{14}C濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（1）式の^{14}C濃度を，δ^{13}Cの測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))^2$$ （$^{14}A_S$として$^{14}C/^{12}C$を使用するとき）

または

$$= {}^{14}A_S \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))$$ （$^{14}A_S$として$^{14}C/^{13}C$を使用するとき）

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \quad (‰)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については，海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭

酸ガス中の濃度と異なるため，同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合，同位体補正をしないδ^{14}Cに相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{14}C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として，pMC（percent Modern　Carbon）がよく使われており，Δ^{14}Cとの関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000 \quad (‰)$$

$$pMC = \Delta^{14}C / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより，このΔ^{14}CあるいはpMCにより，放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}C/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (pMC/100)$$

5）^{14}C年代値と誤差は，1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

6）較正暦年代の計算では，IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い，OxCalv3.10較正プログラム（Bronk Ransey1995　Bronk Ransey 2001　Bronk Ramsey，van der Plicht and Weninger2001）を使用した。

（7）測定結果

Ⅳ層から出土した土器付着炭化物No.1とNo.2の^{14}C年代は，それぞれ9480±50yrBP（1：IAAA-62917），4490±40yrBP（2：IAAA-62918），炭化材No.9の^{14}C年代は450±30yrBP（3：IAAA-62919）である。暦年較正年代（1σ）は，土器付着炭化物No.1が9120～9080BC（7.4%）・9050～9020BC（5.3%）・8840～8700BC（52.6%）・8670～8650BC（3.0%）であり，縄文時代早期初頭に相当する。土器付着炭化物No.2は3340～3210BC（42.8%）・3190～3150BC（12.6%）・3140～3090BC（12.9%）であり，縄文時代中期前葉に相当する。炭化材No.9は1425～1465AD（68.2%）であり，室町時代前半に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く，妥当な年代と考えられる。

参考文献

Stuiver M. and Polash H. A. (1977) Discussion:Reporting of 14C data. *Radiocarbon*, 19 : 355-363

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon*, 37 (2) 425-430

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43 (2A) 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. (2001) 'Wiggle Matching' radiocarbon dates , *Radiocarbon*, 43 (2A) 381-389

Reimer, P. J. et al. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP. *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62917	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：1	Libby Age (yrBP)　：9,480±50 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-25.74±0.81 Δ^{14}C（‰）＝-692.9±1.9 pMC（%）＝30.71±0.19
#1686-1	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-693.3±1.9 pMC（%）＝30.67±0.19 Age (yrBP)　：9,500±50
IAAA-62918	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：2	Libby Age (yrBP)　：4,490±40 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-28.97±0.69 Δ^{14}C（‰）＝-427.9±2.9 pMC（%）＝57.21±0.29
#1686-2	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-432.6±2.7 pMC（%）＝56.74±0.27 Age (yrBP)　：4,550±40
IAAA-62919	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：木炭 試料名（番号）：3	Libby Age (yrBP)　：450±30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-26.73±0.69 Δ^{14}C（‰）＝-54.0±3.9 pMC（%）＝94.60±0.39
#1686-3	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-57.3±3.6 pMC（%）＝94.27±0.36 Age (yrBP)　：470±30

参考資料：暦年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age（yrBP）
IAAA-62917	1	9483　±　50
IAAA-62918	2	4486　±　40
IAAA-62919	3	445　±　33

ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下１桁を丸めない値です。

＜放射性炭素年代測定結果　その２＞

放射性炭素年代測定結果報告書
（AMS測定）
向栫城跡

㈱加速器分析研究所

（１）遺跡の位置

向栫城跡は，鹿児島県日置市東市来町字伊作田（北緯31°39′，東経130°20′）に所在する。

（２）測定の目的

遺構と土器の年代を明らかにする。

（３）測定対象試料

I-18区の竪穴遺構の床に近い埋土から出土した木炭（10：IAAA-70711），I-25区のⅢ層から出土した土器に付着した炭化物（11：IAAA-70712），合計２点である。

（４）化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い，根・土等の表面的な不純物を取り除く。

２）AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理，アルカリ処理，酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では１Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～１Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈し，90℃で乾燥する。希釈の際には，遠心分離機を使用する。

３）試料を酸化銅１gと共に石英管に詰め，真空下で封じ切り，500℃で30分，850℃で2時間加熱する。

４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し，真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し，グラファイトを作製する。

６）グラファイトを内径１mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，加速器に装着し測定する。

（５）測定方法

測定機器は，3MVタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。134個の試料が装填できる。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュ

ウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また，加速器により$^{13}C/^{12}C$の測定も同時に行う。

（6）算出方法

1）年代値の算出には，Libbyの半減期5568年を使用した。

2）BP年代値は，過去において大気中の^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定された，1950年を基準年として遡る^{14}C年代である。

3）付記した誤差は，次のように算出した。
複数回の測定値について，χ^2検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い，みなせない場合には標準誤差を用いる。

4）$\delta^{13}C$の値は，通常は質量分析計を用いて測定するが，AMS測定の場合に同時に測定される$\delta^{13}C$の値を用いることもある。
$\delta^{13}C$補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は，いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \qquad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \qquad (2)$$

ここで，　$^{14}A_S$：試料炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$または$(^{14}C/^{13}C)_S$
$^{14}A_R$：標準現代炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$または$(^{14}C/^{13}C)_R$

$\delta^{13}C$は，質量分析計を用いて試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し，PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として，それからのずれを計算した。但し，加速器により測定中に同時に$^{13}C/^{12}C$を測定し，標準試料の測定値との比較から算出した$\delta^{13}C$を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また，$\Delta^{14}C$は，試料炭素が$\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの^{14}C濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（1）式の^{14}C濃度を，$\delta^{13}C$の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))^2 \quad (^{14}A_S\text{として}^{14}C/^{12}C\text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}A_S \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000)) \quad (^{14}A_S\text{として}^{14}C/^{13}C\text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \ (‰)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については，海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため，同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合，同位体補正をしない$\delta^{14}C$に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のも

のと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{14}C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として，pMC （percent Modern Carbon）がよく使われており，Δ^{14}Cとの関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000 \ (‰)$$

$$pMC = \Delta^{14}C/10 + 100 \ (\%)$$

国際的な取り決めにより，このΔ^{14}CあるいはpMCにより，放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}C/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(pMC/100)$$

５）^{14}C年代値と誤差は，1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

６）較正暦年代の計算では，IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い，OxCalv3.10較正プログラム（Bronk Ransey1995　Bronk Ransey 2001　Bronk Ramsey，van der Plicht and Weninger2001）を使用した。

（７）測定結果

I-18区の竪穴遺構から出土した木炭（10：IAAA-70711）の^{14}C年代が640±30yrBP，I-25区のⅢ層から出土した土器に付着した炭化物（11：IAAA-70712）の^{14}C年代が4570±40yrBPである。暦年較正年代（1σ＝68.2%）は，10が1290～1315AD（27.9%）・1350～1390AD（40.3%）であり鎌倉時代後半，11が3490～3470BC（3.5%）・3370～3330BC（33.3%）・3220～3180BC（16.5%）・3160～3120BC（14.9%）であり縄文時代中期初頭に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く，妥当な年代と考えられる。

参考文献

Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Discussion : Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 (2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-70711	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町字伊作田向栫城跡 試　料　形　態：木炭 試料名（番号）：10	Libby Age (yrBP)　：　640 ± 30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-27.78 ± 0.95 Δ^{14}C（‰）＝ -76.8 ± 3.7 pMC（%）＝ 92.32 ± 0.37
#1827-1	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝ -82.0 ± 3.2 pMC（%）＝ 91.80 ± 0.32 Age (yrBP)　：　690 ± 30
IAAA-70712	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町字伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：11	Libby Age (yrBP)　：　4,570 ± 40 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-24.24 ± 0.97 Δ^{14}C（‰）＝-433.8 ± 2.6 pMC（%）＝ 56.62 ± 0.26
#1827-2	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-433.0 ± 2.3 pMC（%）＝ 56.70 ± 0.23 Age (yrBP)　：　4,560 ± 30

参考資料：暦年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age（yrBP）
IAAA-70711	10	641　±　32
IAAA-70712	11	4569　±　36

ここに記載するLibby　Age（年代値）と誤差は下１桁を丸めない値です。

＜放射性炭素年代測定結果　その３＞

放射性炭素年代測定結果報告書
（AMS測定）
向栫城跡

㈱加速器分析研究所

（１）遺跡の位置

向栫城跡は，鹿児島県日置市東市来町伊作田に所在する。

（２）測定の意義

土器が使用された年代と炭化材の年代を明らかにする。

（３）測定対象試料

測定対象試料は，Ⅶ層から出土した土器付着炭化物（1：IAAA-62920），H-18区から出土した土器No.48付近の炭化物（2：IAAA-62921），６号炉出土の炭化物（３：IAAA-62922），７号炉出土の炭化物（４：IAAA-62923），７号炉床面出土の炭化物（５：IAAA-62924），８号炉出土の炭化物（６：IAAA-62925），11号炉出土の炭化物（７：IAAA-62926），合計７点である。

（４）化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い，根・土等の表面的な不純物を取り除く。

２）AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理，アルカリ処理，酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈し，90℃で乾燥する。希釈の際には，遠心分離機を使用する。

３）試料を酸化銅１gと共に石英管に詰め，真空下で封じ切り，500℃で30分，850℃で２時間加熱する。

４）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し，真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

５）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し，グラファイトを作製する。

６）グラファイトを内径１mmのカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，加速器に装着し測定する。

（５）測定方法

測定機器は，3MVタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。134個の試料が装填できる。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また，加速器により^{13}C/^{12}Cの測定も同時に行う。

（6）算出方法

1）年代値の算出には，Libbyの半減期5568年を使用した。

2）BP年代値は，過去において大気中の炭素14濃度が一定であったと仮定して測定された，1950年を基準年として遡る放射性炭素年代である。

3）付記した誤差は，次のように算出した。
複数回の測定値について，χ^2検定を行い測定値が１つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い，みなせない場合には標準誤差を用いる。

4）δ^{13}Cの値は，通常は質量分析計を用いて測定するが，AMS測定の場合に同時に測定されるδ^{13}Cの値を用いることもある。
δ^{13}C補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は，いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \qquad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \qquad (2)$$

ここで，　$^{14}A_S$：試料炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$または $(^{14}C/^{13}C)_S$
$^{14}A_R$：標準現代炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$または $(^{14}C/^{13}C)_R$

δ^{13}C は，質量分析計を用いて試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し，PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として，それからのずれを計算した。但し，加速器により測定中に同時に$^{13}C/^{12}C$を測定し，標準試料の測定値との比較から算出したδ^{13}Cを用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また，Δ^{14}Cは，試料炭素が$\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの^{14}C濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（1）式の^{14}C濃度を，δ^{13}Cの測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))^2$$ （$^{14}A_S$として$^{14}C/^{12}C$を使用するとき）

または

$$= {}^{14}AS \times (0.975/(1+\delta^{13}C/1000))$$ （$^{14}A_S$として$^{14}C/^{13}C$を使用するとき）

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \text{（‰）}$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については，海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため，同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合，同位体補正をしないδ^{14}Cに相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{14}C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として，pMC（percent Modern　Carbon）

がよく使われており，$\Delta^{14}C$との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000 \ (‰)$$

$$pMC = \Delta^{14}C/10 + 100 \ (\%)$$

国際的な取り決めにより，この$\Delta^{14}C$あるいはpMCにより，放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}C/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (pMC/100)$$

５）^{14}C年代値と誤差は，1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

６）較正暦年代の計算では，IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い，OxCalv3.10較正プログラム（Bronk Ransey1995　Bronk Ransey 2001　Bronk Ramsey，van der Plicht and Weninger2001）を使用した。

（７）測定結果

測定された^{14}C年代は，Ⅶ層から出土した土器付着炭化物（１：IAAA-62920）が1950±30yrBP，H-18区から出土した土器No.48付近の炭化物（２：IAAA-62921）が650±30yrBP，６号炉出土炭化物（３：IAAA-62922）が400±30yrBP，７号炉出土炭化物（4：IAAA-62923）が430±30yrBP，７号炉床面出土の炭化物（５：IAAA-62924）が330±30yrBP，８号炉出土の炭化物（６：IAAA-62925）が580±30yrBP，11号炉出土の炭化物（７：IAAA-62926）が380±30yrBPである。

暦年較正年代（1σ）は，1が5AD～85AD（68.2%）であり弥生時代後期，２が1285AD～1310AD（30.1%）・1355AD～1390AD（38.1%）であり鎌倉時代後半，３が1440AD～1500AD（60.6%）・1600AD～1620AD（7.6%）であり室町時代後半から江戸時代初頭，４が1430AD～1470AD（68.2%）であり室町時代中頃，５が1510AD～1600AD（55.8%）・1610AD～1640AD（12.4%）であり室町時代後半から江戸時代初頭，６が1315AD～1355AD（45.9%）・1385AD～1410AD（22.3%）であり鎌倉時代後半から室町時代初頭・７が1440AD～1520AD（55.3%）・1600AD～1620AD（12.9%）であり室町時代後半から江戸時代初頭に相当する。

化学処理および測定内容に問題は無く，妥当な年代と考えられる。

参考文献

Stuiver M. and Polash H. A. (1977) Discussion : Reporting of 14C data. *Radiocarbon*,19 : 355-363

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon*, 37 (2) 425-430

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43 (2A) 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. (2001) 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 43 (2A) 381-389

Reimer, P. J. et al. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP. *Radiocarbon* 46, 1029-1058

IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62920	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：1	Libby Age (yrBP)　：1,950±30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-30.42±0.57 Δ^{14}C（‰）＝-215.4±3.2 pMC（%）＝78.46±0.32
#1686-1	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-224.1±3.0 pMC（%）＝77.59±0.30 Age (yrBP)　：2,040±30
IAAA-62921	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：2	Libby Age (yrBP)　：650±30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-26.32±0.64 Δ^{14}C（‰）＝-77.9±3.6 pMC（%）＝92.21±0.36
#1687-2	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-80.4±3.4 pMC（%）＝91.96±0.34 Age (yrBP)　：670±30
IAAA-62922	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：木炭 試料名（番号）：3	Libby Age (yrBP)　：400±30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-26.39±0.68 Δ^{14}C（‰）＝-48.9±3.7 pMC（%）＝95.11±0.37
#1687-3	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-51.6±3.5 pMC（%）＝94.84±0.35 Age (yrBP)　：430±30
IAAA-62923	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：4	Libby Age (yrBP)　：430±30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-25.78±0.60 Δ^{14}C（‰）＝-52.4±3.6 pMC（%）＝94.76±0.36
#1687-4	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-53.9±3.3 pMC（%）＝94.61±0.33 Age (yrBP)　：450±30
IAAA-62924	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：木炭 試料名（番号）：5	Libby Age (yrBP)　：330±30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-24.30±0.58 Δ^{14}C（‰）＝-39.7±3.6 pMC（%）＝96.03±0.36
#1687-5	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝-38.3±3.4 pMC（%）＝96.17±0.34 Age (yrBP)　：310±30

IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62925	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：炭化物 試料名（番号）：6	Libby Age (yrBP)　：　580 ± 30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-29.06 ± 0.71 Δ^{14}C（‰）＝ -69.7 ± 3.7 pMC（%）＝ 93.03 ± 0.37
#1687-6	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝ -77.4 ± 3.4 pMC（%）＝ 92.26 ± 0.34 Age (yrBP)　：　650 ± 30
IAAA-62926	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町伊作田向栫城跡 試　料　形　態：木炭 試料名（番号）：7	Libby Age (yrBP)　：　380 ± 30 δ^{13}C（‰）、（加速器）＝-26.19 ± 0.77 Δ^{14}C（‰）＝ -46.7 ± 3.7 pMC（%）＝ 95.33 ± 0.37
#1687-7	（参考）　δ^{13}Cの補正無し	δ^{14}C（‰）＝ -49.0 ± 3.4 pMC（%）＝ 95.10 ± 0.34 Age (yrBP)　：　400 ± 30

参考資料：暦年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age（yrBP）
IAAA-62920	1	1948 ± 32
IAAA-62921	2	651 ± 31
IAAA-62922	3	402 ± 31
IAAA-62923	4	432 ± 30
IAAA-62924	5	325 ± 29
IAAA-62925	6	580 ± 31
IAAA-62926	7	384 ± 31

ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下１桁を丸めない値です。

＜樹種同定調査結果＞

樹種同定調査結果報告書
向栫城跡

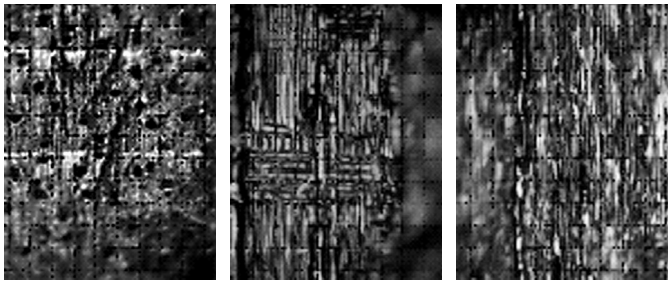
㈱加速器分析研究所

出土した炭化材の試料はステンレス剃刀で横断面,放射断面,接線断面の3方向の断面を割取り,プレパラートに固定して反射照明型顕微鏡で観察，同定をおこなった。以下に同定された分類群を示し，木材解剖学的記載を行う。

No.10（I-18区遺構内） クスノキ科

クスノキ科（Lauraceae）：年輪内にほぼ単独の中程度の道管が均一に散在する散孔材で，晩材部で柔組織が緻密になるので年輪界は明瞭である。道管の穿孔板は単一と階段状の2種類あり，放射組織は異性で2細胞幅で6,7細胞高程度，道管内にはらせん肥厚がある。本試料では，高木になるクスノキ科に見られるような油細胞が確認できないため，ダンコウバイやシロモジなどの中低木の可能性が高い。

※）本測定は，当社協力会社・古代の森研究舎にて実施した。



1C　1R　1T

向栫城跡出土炭化材の顕微鏡写真
1：クスノキ科（№10　Ⅰ-18区遺構内）
C：横断面，R：放射断面，接線断面

＜自然化学分析（放射性炭素年代測定・地磁気年代推定）＞

鹿児島県，向栫城跡における自然化学分析

株式会社　古環境研究所
島根大学総合　理工学部
時江　克安

Ⅰ．向栫城跡における放射性炭素年代測定

1．試料と方法

試料名	地点・遺構	種類	前処理・調整	測定法
№1	炉跡７	炭化物	酸-アルカリ－酸，酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析（AMS）法
№2	炉跡10	炭化物	酸-アルカリ－酸，酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析（AMS）法
№3	炉跡11	炭化物	酸-アルカリ－酸，酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析（AMS）法
№4	炉跡13	炭化物	酸-アルカリ－酸，酸洗浄，石墨調整	加速器質量分析（AMS）法

2．測定結果

試料名	^{14}C年代（年BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年BP）	暦年代（西暦）	測定№（Beta－）
№1	360±40	－26.0	340±40	交点：AD1520，1570，1630 １σ：AD1485～1640 ２σ：AD1455～1655	126802
№2	380±40	－26.1	360±40	交点：AD1505，1595，1620 １σ：AD1470～1535，1545～1635 ２σ：AD1455～1650	126803
№3	450±40	－26.3	430±40	交点：AD1450 １σ：AD1435～1475 ２σ：AD1425～1515,1585～1625	126804
№4	390±30	－28.7	330±30	交点：AD1525，1560，1630 １σ：AD1505～1595,1620～1640 ２σ：AD1475～1650	126805

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から，単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期，5,568年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り，^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは補正^{14}C年代値と暦年代補正曲線との交点の暦

年代値を意味する。

1σ（68%確率）・2σ（95%確率）は，補正^{14}C年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって，複数の交点が表記される場合や，複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

Ⅱ．向栫城跡の炉跡（遺構と資料，測定結果）

株式会社古環境研究所

（1）遺構と試料

遺構はシラス台地の平坦面に穿たれた楕円形の浅い穴（長径～70㎝）であり，穴の壁は外側に膨らんだ袋状になっている。穴の縁の部分は全体に赤変し，一部が須恵色を呈する遺構もあるなど，被熱の履歴が歴然と示されている。しかし，縁以外の部分には被熱の形跡はない。また，穴の底には炭が敷かれていた。これらの炉跡は，焼き締まりが不十分なシラス土壌にあり，壁面が外側に膨らんでいるために，オーバーハングした縁の部分は最終焼成後に変形した可能性が大きいと考えられた。試料採取の対象として，構造の比較的しっかりとした７号炉と９号炉を選び，縁に沿って被熱で変色した部分から，７号炉では20個，９号炉では17個の定方位試料を採取した。

（2）測定結果

図４（a），（b）は向栫城跡の７号炉と９号炉の自然残留磁気の方向を示す。どちらの炉についても，残留磁気の方向は大きく分散している。図5,6は７号炉と９号炉の自然残留磁気の強度分布を示す。７号炉の小数の試料は10^{-3}emu/g の強値を示すが，両炉のほとんどの試料は10^{-5} emu/gという弱値を示し，焼土の低焼成度が反映されている。このように，両炉の残留磁気について，強度が弱く，方向が分散しているために，意味のある地磁気年代を求めることはできない。残留磁気の方向分散の主因は最終焼成時以後に生じた遺構の変形と考えられる。

第５表　旧石器時代石器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第12図	1	11262	ナイフ形石器	頁岩	G-9	Ⅶ	2.9	1.1	0.6	1.9	
	2	386	ナイフ形石器	頁岩	G-8	Ⅶ	1.0	2.4	0.3	1.0	
	3	128	ナイフ形石器	頁岩	G-8	Ⅶ	3.5	1.6	0.5	2.5	
	4	2771	ナイフ形石器	頁岩	G-8	Ⅶb	6.2	3.2	1.0	18.4	
	5	7385	ナイフ形石器	頁岩	G-8	Ⅶb	7.2	4.1	1.4	40.0	
	6	6560	ナイフ形石器	砂岩	G-11	Ⅶ	3.7	2.8	0.6	4.2	
	7	4542	ナイフ形石器	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	1.0	0.9	0.4	0.5	
	8	7022	台形石器	黒曜石桑ノ木津留	F-11	Ⅶ	1.3	1.5	0.5	1.3	
	9	1735	台形石器	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.0	1.3	0.4	0.6	
	10	3352	台形石器	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	1.3	1.2	0.3	0.5	
	11	5506	台形石器	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.0	0.9	0.1	0.2	
	12	2948	台形石器	玉髄	G-9	Ⅶ	2.1	2.4	0.6	4.1	
	13	9923	台形石器	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	2.0	1.5	1.7	1.8	
	14	1844	台形石器	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	1.7	2.0	0.7	2.1	
第13図	15	7388	剥片尖頭器	頁岩	G-8	Ⅶb	11.7	3.6	1.4	55.8	
	16	7389	剥片尖頭器	頁岩	G-8	Ⅶb	2.2	1.8	0.8	4.3	未製品
	17	10041	剥片尖頭器	頁岩	G-10	Ⅶb	7.2	3.3	1.0	23.8	
	18	7386	剥片尖頭器	粘板岩	G-8	Ⅶb	8.1	2.6	0.8	17.0	
	19	6376	尖頭器	瑪瑙	G-10	Ⅶ	3.8	1.7	0.8	5.0	
	20	3375	尖頭器	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.0	0.8	0.4	0.2	先端部
	21	4478	三稜尖頭器	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ	2.1	1.5	1.1	3.0	
第14図	22	771	スクレイパー	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	3.8	2.7	1.2	13.6	
	23	1258	スクレイパー	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	3.5	3.0	1.3	15.3	
	24	2171	スクレイパー	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	4.0	3.0	0.9	8.5	
	25	2557	スクレイパー	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	3.1	2.2	0.8	5.8	
	26	4737	スクレイパー	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ下	3.2	1.0	0.6	0.9	
	27	8179	スクレイパー	黒曜石腰岳	F-11	Ⅶ	1.5	1.6	0.5	0.9	
	28	4865	スクレイパー	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	2.4	2.1	0.5	2.8	
	29	2331	スクレイパー	黒曜石三船	G-9	Ⅶ下	1.8	1.7	0.6	2.2	
	30	580	スクレイパー	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	4.6	4.0	1.5	26.4	
	31	232	スクレイパー	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	3.1	3.0	0.3	13.9	
	32	1356	スクレイパー	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	3.6	3.8	1.6	21.1	
	33	2777	スクレイパー	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	3.0	3.5	0.9	9.8	
第15図	34	3822	スクレイパー	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	4.0	2.9	1.1	11.2	
	35	4907	スクレイパー	黒曜石三船	H-10	Ⅶ	4.1	2.5	0.6	6.7	
	36	5191	スクレイパー	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	2.4	2.2	0.7	3.3	
	37	5295	スクレイパー	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	2.3	1.8	0.7	2.7	
	38	5517	スクレイパー	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	3.7	2.4	1.1	13.2	
	39	6515	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	2.0	2.8	0.7	3.8	
	40	6748	スクレイパー	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	2.8	2.0	1.3	8.3	
	41	7714	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	2.5	2.2	1.0	4.5	
	42	8704	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	2.9	1.8	0.7	4.0	
	43	8709	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	3.4	2.0	1.2	7.5	
	44	9729	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	1.9	2.8	1.0	3.5	
	45	10046	スクレイパー	黒曜石三船	H-10	Ⅶ	2.5	2.4	1.1	8.6	
	46	10379	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	1.6	1.1	0.8	1.4	
	47	10527	スクレイパー	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	2.2	1.5	0.5	1.7	
	48	5031	スクレイパー	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.8	1.4	0.5	0.8	
	49	7082	スクレイパー	チャート	F-11	Ⅶ	2.6	2.3	0.8	5.9	
第16図	50	1759	スクレイパー	瑪瑙	G-9	Ⅶ	4.8	5.5	2.0	4.8	
	51	6393	スクレイパー	鉄石英	G-10	Ⅶ	4.6	3.0	0.8	12.8	
	52	9274	スクレイパー	硬質頁岩	F-11	Ⅶ	3.3	1.8	1.2	6.5	
	53	3937	スクレイパー	頁岩	G-10	Ⅶ	5.2	3.5	0.7	14.9	
	54	2876	スクレイパー	頁岩	G-8	Ⅶ	4.7	4.3	1.1	26.8	
	55	195	スクレイパー	灰色安山岩	G-8	Ⅶ	5.9	4.0	1.4	29.8	
	56	185	スクレイパー	安山岩	G-8	Ⅶ	2.1	1.9	0.9	3.2	

第６表　旧石器時代石器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第16図	57	343	スクレイパー	安山岩	G-8	Ⅶ	5.3	4.5	1.8	16.4	
	58	3213	スクレイパー	安山岩	G-8	Ⅶ下	3.2	4.9	0.5	8.5	
第17図	59	7513	スクレイパー	安山岩	F-11	Ⅶ	3.2	3.2	0.5	7.0	
	60	7796	スクレイパー	安山岩	F-11	Ⅶ	2.9	3.8	1.2	12.4	
	61	8200	スクレイパー	安山岩	F-11	Ⅶ	4.7	3.1	1.5	21.2	
	62	8773	スクレイパー	安山岩	F-11	Ⅶ	4.0	2.2	1.4	9.8	
	63	211	スクレイパー	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.5	0.9	0.6	0.8	
	64	207	二次加工剥片	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	2.5	2.8	0.6	5.0	
	65	668	二次加工剥片	黒曜石桑ノ木津留	G-8	Ⅶ	2.1	0.8	0.8	0.8	
	66	1156	二次加工剥片	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.7	3.0	1.4	7.2	
	67	2815	二次加工剥片	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	1.5	1.3	0.5	1.0	
	68	2854	二次加工剥片	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	1.9	1.2	0.7	1.0	
	69	409	二次加工剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.7	1.3	0.4	0.7	
	70	2891	二次加工剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.9	1.6	0.5	1.9	
	71	7297	二次加工剥片	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	2.0	0.8	0.6	0.6	
	72	2344	二次加工剥片	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	3.1	2.1	1.0	3.8	
	73	3187	二次加工剥片	鉄石英	G-9	Ⅶ	1.9	1.2	0.9	1.4	
	74	99	二次加工剥片	安山岩	G-8	Ⅶ	2.3	2.9	0.9	5.7	
	75	2455	二次加工剥片	安山岩	G-8	Ⅶ	1.2	1.2	0.3	0.5	
第18図	76	3317	二次加工剥片	安山岩	G-8	Ⅶ	6.0	1.5	1.6	10.9	
	77	3329	二次加工剥片	安山岩	G-8	Ⅶ下	4.9	2.1	1.3	8.4	
	78	4028	二次加工剥片	安山岩	G-8	Ⅶ	1.9	1.6	0.4	1.1	
	79	8815	二次加工剥片	安山岩	F-11	Ⅶ	2.1	1.7	0.5	1.5	
	80	9781	二次加工剥片	安山岩	G-11	Ⅶ	2.3	1.2	0.7	1.2	
	81	11270	二次加工剥片	安山岩	G-8	Ⅶ	1.0	1.2	0.2	0.2	
第19図	82	242	楔形石器	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	3.9	2.9	0.8	9.5	
	83	10177	楔形石器	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	1.8	1.5	1.7	1.8	
	84	3163	楔形石器	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	1.9	1.3	0.6	1.4	
	85	1192	楔形石器	安山岩	G-9	Ⅶ	2.0	2.4	1.7	2.6	
	86	2275	楔形石器	安山岩	G-10	Ⅶ	2.6	2.3	0.9	4.8	
	87	2516	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	4.6	3.0	1.8	12.8	
	88	2892	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	2.5	2.1	1.0	5.0	
	89	3364	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	1.9	3.8	0.8	5.4	
	90	4740	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	5.5	4.0	2.1	37.0	
	91	5844	楔形石器	安山岩	F-11	Ⅶ	2.3	1.3	0.6	2.2	
	92	5873	楔形石器	安山岩	F-11	Ⅶ	2.0	2.0	0.6	2.2	
第20図	93	6535	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	1.9	2.2	0.8	3.6	
	94	6537	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	2.9	2.8	1.6	8.7	
	95	7426	楔形石器	安山岩	F-11	Ⅶ	2.5	2.1	1.1	4.3	
	96	9005	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	2.5	1.8	0.7	3.0	
	97	9751	楔形石器	安山岩	F-11	Ⅶ	3.8	1.2	0.9	2.7	
	98	10195	楔形石器	安山岩	F-11	Ⅶ	2.1	0.9	1.7	1.1	
	99	11271	楔形石器	安山岩	G-8	Ⅶ	3.0	2.3	0.9	5.1	
第21図	100	2474	石錐	安山岩	G-8	Ⅶ	0.3	1.7	0.5	2.1	
	101	2971	石錐	安山岩	G-9	Ⅶ	1.7	0.8	0.3	0.4	
	102	10738	石錐	安山岩灰色	F-11	Ⅶ	4.2	3.0	1.0	9.7	
	103	7387	縦長剥片	砂岩	G-8	Ⅶb	6.2	3.3	1.6	34.3	
	104		縦長剥片	頁岩	－	－	8.9	4.7	1.5	61.4	
	105	2485	使用痕剥片	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	3.2	2.1	0.7	4.4	
	106	165	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ下	1.2	1.2	0.9	1.3	
	107	237	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	4.5	2.8	1.5	14.0	
	108	498	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ下	2.5	2.5	0.6	3.5	
	109	2828	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.7	1.6	0.4	1.0	
	110	2877	使用痕剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.9	1.6	0.6	1.9	
第23図	111	2144	細石刃（完形）	黒曜石腰岳	G-10	Ⅶ	1.2	0.9	0.1	0.2	
	112	201	細石刃（完形）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	3.2	0.7	0.3	0.7	

第７表　旧石器時代石器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第23図	113	3079	細石刃（完形）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	2.4	0.7	0.2	0.3	
	114	7931	細石刃（完形）	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	1.0	0.6	0.1	0.1	
	115	5930	細石刃（完形）	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	1.1	0.4	0.1	0.1	
	116	8978	細石刃（完形）	安山岩	G-8	Ⅶ	1.1	0.6	0.1	0.1	
	117	4454	細石刃（完形）	安山岩	F-10	Ⅶ	2.3	0.8	0.2	0.4	
	118	8197	細石刃（完形）	安山岩	F-11	Ⅶ	0.9	0.6	0.1	0.1	
	119	8425	細石刃（完形）	安山岩	G-11	Ⅶ	1.6	0.5	0.2	0.2	
	120	1227	細石刃（頭）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	0.8	0.7	0.2	0.1	
	121	7626	細石刃（頭）	黒曜石腰岳	G-11	Ⅶ	0.6	0.4	0.1	0.1	
	122	9457	細石刃（頭）	黒曜石桑ノ木津留	F-11	Ⅶ	0.7	0.4	0.1	0.1	
	123	1836	細石刃（頭）	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	0.6	0.4	0.1	0.1	
	124	2994	細石刃（頭）	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	0.9	0.6	0.1	0.1	
	125	4219	細石刃（頭）	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	0.7	0.5	0.1	0.1	
	126	3171	細石刃（頭）	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	0.7	0.6	0.1	0.1	
	127	6904	細石刃（頭）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	0.6	0.5	0.1	0.1	
	128	11229	細石刃（頭）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.1	0.8	0.2	0.1	
	129	3190	細石刃（頭）	凝灰岩Ａ	G-9	Ⅶ	0.8	0.7	0.2	0.1	
	130	3563	細石刃（頭）	凝灰岩Ａ	G-9	Ⅶ	0.7	0.5	0.2	0.1	
	131	3596	細石刃（頭）	凝灰岩Ａ	G-9	Ⅶ	0.7	0.5	0.1	0.1	
	132	8881	細石刃（頭）	頁岩	G-11	Ⅶ	0.7	0.5	0.1	0.1	
	133	8090	細石刃（頭）	安山岩	G-11	Ⅶ	0.8	0.8	0.1	0.1	
	134	9554	細石刃（頭）	安山岩	F-11	Ⅶ	0.5	0.6	0.1	0.1	
	135	2593	細石刃（頭・中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	1.1	0.8	0.2	0.1	
	136	3540	細石刃（頭・中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	1.1	0.5	0.2	0.1	
	137	8325	細石刃（頭・中）	黒曜石腰岳	F-11	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.1	
	138	1459	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-10	Ⅶ	0.7	0.6	0.1	0.1	
	139	4812	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-10	Ⅶ	1.3	0.8	0.1	0.1	
	140	4811	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-9	Ⅶ	0.9	0.4	0.2	0.1	
	141	2041	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-10	Ⅶ	1.5	0.6	0.1	0.1	
	142	86	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-７	Ⅶ	1.7	0.6	0.2	0.2	
	143	187	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.7	0.5	0.1	0.2	
	144	203	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.4	0.6	0.1	0.2	
	145	573	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.8	0.8	0.1	0.3	
	146	612	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.6	0.6	0.1	0.2	
	147	1723	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.4	0.4	0.1	0.1	
	148	3223	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	1.4	0.5	0.1	0.1	
	149	3789	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	1.5	0.7	0.2	0.2	
	150	8764	細石刃（頭・中）	黒曜石針尾	F-11	Ⅶ	1.3	0.8	0.1	0.2	
	151	487	細石刃（頭・中）	黒曜石桑ノ木津留	G-8	Ⅶ下	1.0	0.7	0.1	0.1	
	152	244	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	1.3	0.7	0.2	0.2	
	153	334	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	1.4	0.3	0.1	0.1	
	154	3939	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.3	0.4	0.1	0.1	
	155	4209	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	0.7	0.4	0.1	0.1	
	156	4440	細石刃（中・尾）	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.2	0.6	0.2	0.1	
	157	6765	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.2	0.4	0.1	0.1	
	158	8165	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	1.3	0.6	0.1	0.1	
	159	6077	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-11	Ⅶ	1.2	0.6	0.1	0.1	
	160	9776	細石刃（頭・中）	黒曜石上牛鼻	G-11	Ⅶ	1.1	0.3	0.1	0.1	
	161	64	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	0.8	0.6	0.1	0.1	
	162	124	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.0	0.6	0.2	0.1	
	163	723	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-9	Ⅶ下	1.4	0.7	0.3	0.3	
	164	7769	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	1.4	0.4	0.1	0.1	
	165	8713	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.1	
	166	10947	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	1.3	0.7	0.2	0.2	
	167	10857	細石刃（頭・中）	黒曜石三船	G-11	Ⅶ	1.0	0.4	0.1	0.1	
	168	4766	細石刃（頭・中）	瑪瑙	H-9	Ⅶ	0.9	0.5	0.2	0.1	摩耗あり

第８表　旧石器時代石器観察表(4)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第23図	169	5129	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.6	0.5	0.2	0.1	
	170	5157	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	0.9	0.7	0.2	0.1	
	171	6044	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.2	0.7	0.2	0.1	
第24図	172	7281	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	0.7	0.4	0.1	0.1	
	173	5280	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.1	0.4	0.1	0.1	
	174	5627	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.9	0.5	0.2	0.1	
	175	9808	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.1	
	176	11114	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	0.9	0.5	0.1	0.1	
	177	11157	細石刃（頭・中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.1	
	178	8784	細石刃（頭・中）	珪質頁岩	F-11	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.1	
	179	2818	細石刃（頭・中）	安山岩	G-8	Ⅶ	0.8	0.4	0.1	0.1	
	180	5698	細石刃（頭・中）	安山岩	F-10	Ⅶ	2.2	0.8	0.3	0.7	
	181	721	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ下	0.9	0.7	0.1	0.1	
	182	799	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.1	
	183	1231	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	1.1	0.7	0.1	0.1	
	184	1632	細石刃（中）	黒曜石腰岳	F-10	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.1	
	185	3532	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	0.6	0.8	0.1	0.1	
	186	2063	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-10	Ⅶ	2.2	0.7	0.1	0.1	
	187	3790	細石刃（中）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	0.7	0.5	0.1	0.1	
	188	156	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ下	1.0	0.4	0.1	0.1	
	189	188	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.8	0.7	0.1	0.1	
	190	205	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.3	0.5	0.1	0.1	
	191	210	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.9	0.3	0.2	0.2	
	192	213	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.6	0.3	0.1	0.1	
	193	235	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.9	0.5	0.3	0.4	
	194	565	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.2	0.4	0.1	0.1	
	195	608	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.9	0.5	0.1	0.1	
	196	614	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.7	0.3	0.2	0.1	
	197	706	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ下	1.9	0.7	0.3	0.4	
	198	664	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	2.2	0.7	0.1	0.1	
	199	1038	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ下	0.9	0.3	0.2	0.3	
	200	1081	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.0	0.7	0.1	0.1	
	201	2589	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	0.9	0.6	0.1	0.1	
	202	2862	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.1	0.4	0.1	0.1	
	203	3450	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.1	
	204	4010	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ下	0.9	0.5	0.1	0.1	
	205	9075	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.1	0.7	0.1	0.1	
	206	3445	細石刃（中）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	0.5	0.7	0.2	0.1	
	207	1959	細石刃（中）	黒曜石桑ノ木津留	G-9	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.1	
	208	5767	細石刃（中）	黒曜石桑ノ木津留	G-10	Ⅶ	0.7	0.5	0.2	0.1	
	209	4921	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	H-10	Ⅶ	0.9	0.7	0.1	0.1	
	210	1639	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ下	0.8	0.5	0.1	0.1	
	211	1832	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.2	0.6	0.1	0.1	
	212	6544	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	1.0	0.6	0.1	0.1	
	213	11283	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	0.8	0.5	0.1	0.1	
	214	719	細石刃（中）	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	0.8	0.9	0.1	0.1	
	215	2652	細石刃（中）	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	0.6	0.3	0.1	0.2	
	216	943	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.0	0.6	0.1	0.1	
	217	3638	細石刃（中）	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	0.8	0.7	0.1	0.1	
	218	3878	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.0	0.5	0.1	0.1	
	219	6295	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.1	0.5	0.2	0.1	
	220	3537	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-9	Ⅶ	0.4	0.5	0.1	0.1	
	221	7279	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.0	0.5	0.2	0.1	
	222	7858	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	F-11	Ⅶ	0.8	0.5	0.1	0.1	
	223	8032	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.0	0.7	0.1	0.1	
	224	8060	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	1.3	0.8	0.3	0.1	

第９表　旧石器時代石器観察表(5)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第24図	225	10628	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	F-10	Ⅶ	0.7	0.5	0.1	0.1	
	226	11077	細石刃（中）	凝灰岩Ａ	G-9	Ⅶ	1.4	0.6	0.1	0.1	接合
	227	10985	細石刃（中）	安山岩	G-10	Ⅶ	1.3	0.6	0.2	0.1	
	228	9784	細石刃（中）	安山岩	G-11	Ⅶ	0.9	0.6	0.1	0.1	
	229	3378	細石刃（中・尾）	黒曜石腰岳	G-8	Ⅶ下	1.2	0.4	0.1	0.1	
	230	632	細石刃（中・尾）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	0.9	0.5	0.1	0.1	
	231	1052	細石刃（中・尾）	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.0	0.6	0.1	0.1	
	232	281	細石刃（中・尾）	黒曜石桑ノ木津留	G-7	Ⅶ	0.8	0.5	0.1	0.1	
	233	6347	細石刃（中・尾）	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.2	0.4	0.1	0.1	
	234	363	細石刃（中・尾）	黒曜石上牛鼻	G-8	Ⅶ	0.9	0.4	0.1	0.1	
	235	3107	細石刃（中・尾）	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ下	1.3	0.7	0.1	0.1	
	236	4912	細石刃（中・尾）	黒曜石上牛鼻	H-10	Ⅶ	0.9	0.4	0.1	0.1	
	237	27	細石刃（中・尾）	黒曜石三船	G-7	Ⅶ	1.1	0.6	0.2	0.1	
	238	2367	細石刃（中・尾）	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅵb	1.0	0.4	0.2	0.1	
	239	8891	細石刃（中・尾）	凝灰岩Ａ	G-11	Ⅶ	2.7	0.7	0.2	0.3	
	240	10464	細石刃（尾）	黒曜石腰岳	G-11	Ⅶ	0.6	0.7	0.1	0.1	
	241	3034	細石刃（尾）	黒曜石腰岳	G-9	Ⅶ	1.0	0.6	0.1	0.1	
	242	4003	細石刃（尾）	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	1.1	0.5	0.1	0.1	
	243	1689	細石刃（尾）	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ	0.9	0.5	0.1	0.1	
	244	3085	細石刃（尾）	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.2	0.7	0.1	0.1	
第25図	245	127	調整剥片	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.6	0.5	0.1	0.1	
	246	2675	調整剥片	黒曜石針尾	G-8	Ⅶ	1.3	0.7	0.2	0.1	
	247	236	調整剥片	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.8	1.3	0.3	0.1	
	248	2070	調整剥片	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	1.1	0.6	0.2	0.2	
	249	3889	調整剥片	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	2.6	1.1	0.4	1.3	
	250	3724	調整剥片	安山岩	G-8	Ⅶ	2.1	0.9	0.4	0.9	
	251	7928	調整剥片	安山岩	F-11	Ⅶ	1.7	0.6	0.2	0.4	
第26図	252	1256	細石刃核	黒曜石針尾	G-9	Ⅶ	2.5	1.3	1.3	3.6	
	253	740	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.5	1.1	1.4	4.0	
	254	754	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.6	1.1	1.5	3.9	
	255	1196	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	2.1	1.8	2.0	8.0	
	256	1930	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.3	1.6	2.0	4.6	
	257	2287	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.6	1.5	2.1	6.6	
	258	3550	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.6	1.5	2.2	6.4	
	259	3913	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.3	1.7	1.9	5.7	
	260	3989	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	2.8	1.8	1.1	5.7	
	261	4425	細石刃核	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ	2.1	2.6	2.1	8.5	
	262	4790	細石刃核	黒曜石上牛鼻	H-8	Ⅶ	1.3	1.5	2.0	5.4	
	263	5360	細石刃核	黒曜石上牛鼻	F-9	Ⅶ	1.7	1.7	1.4	5.0	
	264	5422	細石刃核	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ	2.0	2.7	1.7	6.3	
	265	7376	細石刃核	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	1.8	2.0	2.0	7.7	
	266	105	細石刃核	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.5	2.0	2.8	10.8	
	267	385	細石刃核	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	2.1	2.0	1.1	4.2	
	268	893	細石刃核	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	2.7	1.2	1.8	5.0	
	269	1253	細石刃核	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	2.3	1.2	1.9	6.2	
	270	1279	細石刃核	黒曜石三船	F-10	Ⅶ	3.6	1.5	1.8	7.6	
第27図	271	4439	細石刃核	黒曜石三船	F-10	Ⅶ	2.2	2.0	1.9	7.2	
	272	4768	細石刃核	黒曜石三船	H-9	Ⅶ	2.2	2.4	2.5	17.2	
	273	10486	細石刃核	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	3.5	2.5	2.0	15.4	
	274	106	細石刃核	黒曜石？	G-8	Ⅶ	1.8	2.8	1.0	4.0	
	275	258	細石刃核	凝灰岩Ａ	G-7	Ⅶ	1.5	1.1	1.6	1.3	
	276	283	細石刃核	凝灰岩Ａ	G-8	Ⅶ	1.7	1.5	1.5	1.2	
	277	433	細石刃核	凝灰岩Ａ	G-9	Ⅶ	2.0	1.9	1.2	3.1	
	278	1164	細石刃核	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	3.1	1.3	1.9	5.0	
	279	1443	細石刃核	凝灰岩Ａ	F-10	Ⅶ	1.5	1.1	1.8	1.6	
	280	1460	細石刃核	凝灰岩Ａ	G-10	Ⅶ	2.9	1.2	2.5	5.1	

第10表　旧石器時代石器観察表(6)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第27図	281	1495	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.9	1.6	0.9	1.4	
	282	1503	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.6	0.9	1.8	2.5	
	283	1624	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.9	2.1	1.6	1.7	
	284	2189	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.0	1.2	1.4	1.8	
	285	2278	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.8	2.2	1.1	2.6	
	286	2360	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅵb	2.1	1.3	1.6	2.2	
	287	2368	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅵb	2.5	1.5	1.6	2.2	
第28図	288	2521	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.7	1.8	1.1	2.2	
	289	2530	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.2	1.9	1.4	4.9	
	290	2540	細石刃核	凝灰岩A	G-9	Ⅶ	2.6	1.3	0.9	1.0	
	291	2649	細石刃核	凝灰岩A	G-8	Ⅶ	1.8	1.6	1.6	1.5	
	292	4110	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.2	1.2	1.6	2.7	
	293	4115	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.2	1.9	1.4	0.6	
	294	4131	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.8	1.2	1.7	4.3	
	295	4157	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.7	2.0	1.8	1.4	
	296	4320	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	3.5	2.0	1.0	3.3	
	297	5071	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.1	1.8	1.4	1.6	
	298	5076	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.8	2.1	0.8	2.3	
	299	5102	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.3	0.9	1.3	1.3	
	300	5134	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	3.0	1.8	2.3	6.6	
	301	5231	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.2	1.9	1.5	6.5	
	302	5548	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.6	1.0	1.1	1.2	
	303	5574	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	3.4	1.2	1.5	2.3	
	304	5578	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.8	1.9	0.6	3.2	
	305	5586	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.5	0.8	2.3	1.8	
	306	5591	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	3.2	1.8	1.1	2.8	
第29図	307	5753	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.6	1.1	2.3	2.7	
	308	6046	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.5	1.3	1.0	0.6	
	309	6136	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.2	1.7	1.4	2.2	
	310	6185	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.5	1.1	1.6	2.1	
	311	6268	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	3.0	2.5	1.6	4.4	
	312	6667	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.2	1.5	1.4	1.6	
	313	6710	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	2.0	1.4	1.6	3.2	
	314	7986	細石刃核	凝灰岩A	G-11	Ⅶ	1.3	1.5	1.4	0.8	
	315	9719	細石刃核	凝灰岩A	F-11	Ⅶ	2.0	1.4	1.9	4.0	
	316	9811	細石刃核	凝灰岩A	G-11	Ⅶ	1.9	1.3	1.7	2.5	
	317	10239	細石刃核	凝灰岩A	F-11	Ⅶ	2.3	2.2	1.6	3.6	
	318	10469	細石刃核	凝灰岩A	G-10	Ⅶ	1.6	1.4	1.5	3.6	
	319	10948	細石刃核	凝灰岩A	F-11	Ⅶ	2.0	1.0	1.1	1.0	
第30図	320	1166	ブランク	黒曜石上牛鼻	G-9	Ⅶ	1.4	2.5	3.5	12.6	
	321	4428	ブランク	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ	1.3	1.3	2.0	4.7	
	322	5317	ブランク	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	−	−	−	−	
	323	964	ブランク	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	1.6	2.0	2.9	11.6	
	324	1635	ブランク	黒曜石三船	F-10	Ⅶ	−	−	−	−	
	325	2978	ブランク	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	1.2	1.8	1.2	7.7	
	326	5234	ブランク	黒曜石三船	G-10	Ⅶ	1.6	1.8	2.0	7.3	
	327	8821	ブランク	黒曜石三船	F-11	Ⅶ	3.0	2.6	2.2	10.8	
	328	884	ブランク	黒曜石？	G-10	Ⅶ	2.0	2.3	1.6	7.3	
	329	1736	ブランク	凝灰岩A	G-9	Ⅶ	2.3	1.1	2.3	1.7	
第33図	330	8027	石鏃	鉄石英	G-11	Ⅶ	2.1	(1.8)	0.5	1.1	
	331	4147	石鏃	頁岩	G-10	Ⅶ	2.2	0.9	0.3	0.9	
	332	6596	石鏃	黒曜石針尾	F-11	Ⅶ	1.3	1.4	0.2	0.3	
	333	9277	石鏃	黒曜石針尾	F-11	Ⅶ	(0.8)	1.8	0.1	0.6	
	334	3492	石鏃	黒曜石灰色	F-9	Ⅶ	2.3	1.4	0.6	1.7	
	335	8054	石鏃	黒曜石灰色	G-11	Ⅶ	(1.3)	1.7	0.4	0.8	
	336	2683	石鏃	チャート	G-8	Ⅶ	1.2	1.3	0.2	0.2	

第11表　旧石器時代石器観察表(7)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第33図	337	6999	石鏃	硬質頁岩	F-11	Ⅶ	2.1	1.7	0.3	1.1	
	338	2476	石鏃	黒曜石桑ノ木津留	G-8	Ⅶ	1.7	1.3	0.4	0.7	
	339	7100	石鏃	黒曜石針尾	F-11	Ⅶ	(1.5)	1.2	0.2	0.6	
	340	3045	石鏃	黒曜石桑ノ木津留	G-9	Ⅶ	1.1	0.8	0.3	0.2	
	341	227	石鏃	黒曜石桑ノ木津留	G-8	Ⅶ	1.5	0.9	0.5	0.4	
	342	2480	石鏃	黒曜石桑ノ木津留	G-8	Ⅶ	1.3	1.0	0.3	0.3	
	343	1286	石鏃	黒曜石上牛鼻	F-10	Ⅶ	1.7	1.1	0.3	0.6	
	344	7183	石鏃	黒曜石上牛鼻	G-11	Ⅶ	1.9	(1.5)	0.4	1.0	
	345	5410	石鏃	黒曜石灰色	F-10	Ⅶ	1.9	1.4	0.3	0.7	
	346	4713	石鏃	黒曜石針尾	G-11	Ⅶ	1.6	1.1	0.4	0.4	
	347	8867	石鏃	頁岩	G-11	Ⅶ	(1.5)	1.4	0.1	0.7	
	348	346	石鏃	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	1.2	0.7	0.4	0.2	
	349	783	石鏃	頁岩	G-9	Ⅶ	2.6	1.3	0.6	1.8	
	350	7584	石鏃	硬質頁岩	G-11	Ⅶ	2.3	1.6	0.6	0.7	
	351	4676	石鏃	黒曜石針尾	G-11	Ⅶ	(1.4)	1.6	0.3	0.6	
	352	11284	石鏃	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	1.7	1.1	0.3	0.5	
	353	314	石鏃	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	(1.3)	(0.7)	0.2	0.3	
	354	407	石鏃	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	0.8	1.0	0.5	0.3	
	355	9372	石鏃	黒曜石灰色	F-11	Ⅶ	1.3	1.9	0.4	1.1	
	356	8594	石鏃	チャート	F-12	Ⅶ	1.3	1.7	0.5	0.9	
第34図	357	2524	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ	1.0	0.6	0.2	0.1	
	358	2680	石鏃	ハリ質安山岩	G-8	Ⅶ	1.6	1.3	0.3	0.4	
	359	3027	石鏃	ハリ質安山岩	G-9	Ⅶ	1.7	1.2	0.5	0.6	
	360	7442	石鏃	ハリ質安山岩	F-11	Ⅶ	2.2	(1.5)	0.4	1.0	
	361	81	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.9)	1.9	0.3	1.7	
	362	226	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ	1.6	1.2	0.5	0.7	
	363	649	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ	2.3	1.3	0.3	0.7	
	364	1006	石鏃	安山岩	G-10	Ⅶ	2.3	1.5	0.5	1.1	
	365	1696	石鏃	安山岩	F-10	Ⅶ	1.4	1.1	0.5	0.5	
	366	2598	石鏃	安山岩	G-9	Ⅶ	1.9	1.2	0.3	0.7	
	367	3443	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ下	2.3	1.1	0.4	0.7	
	368	7060	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.8	(1.4)	0.3	0.7	
	369	7479	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.7	(1.5)	0.3	1.4	
	370	7482	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	0.7	(1.3)	(1.2)	0.5	
	371	8312	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.2)	(1.5)	0.4	0.6	
	372	8752	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.4)	1.5	0.2	0.9	
	373	9343	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(2.1)	(1.6)	0.4	1.0	
	374	9472	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.5	1.4	0.4	0.6	
	375	7682	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.3	1.7	0.3	0.9	
	376	9716	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.3	(1.7)	0.4	0.8	
	377	10697	石鏃	安山岩	G-10	Ⅶ	(1.6)	1.8	0.4	1.1	
	378	11297	石鏃	安山岩	−	Ⅶ	1.3	1.1	0.2	0.3	
	379	7831	石鏃	安山岩灰色	F-11	Ⅶ	(1.8)	1.8	0.3	1.0	
	380	10030	石鏃	ハリ質安山岩	F-11	Ⅶ	(1.7)	1.5	0.2	0.9	
	381	1475	石鏃	安山岩	G-10	Ⅶ	(2.1)	2.4	0.5	2.7	
	382	4422	石鏃	安山岩	F-10	Ⅶ	1.7	1.7	0.4	0.8	
	383	4692	石鏃	安山岩	G-11	Ⅶ	1.4	1.5	0.3	0.6	
	384	5898	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.6	1.4	0.2	0.6	
	385	6459	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.9)	2.2	0.3	14.4	
	386	6613	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.1	(0.6)	0.2	0.4	
	387	7088	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(2.0)	(2.7)	0.1	0.9	
	388	7966	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.1	1.1	0.3	0.6	
第35図	389	8399	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.7)	1.8	0.3	1.7	
	390	10871	石鏃	安山岩	G-11	Ⅶ	1.8	1.4	0.2	0.9	
	391	10955	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.5)	2.2	0.3	1.4	
	392	11078	石鏃	ハリ質安山岩	G-9	Ⅶ	1.8	(0.8)	0.2	0.6	

第12表　旧石器時代石器観察表(8)

挿図番号	遺物番号	取上番号	器種	石材	区	層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
第35図	393	1441	石鏃	安山岩	F-10	Ⅶ	2.6	(1.9)	0.5	1.7	
	394	4249	石鏃	安山岩	G-10	Ⅶ	2.1	(1.7)	0.4	1.1	
	395	11245	石鏃	安山岩	F-9	Ⅶ	2.5	1.7	0.4	1.3	
	396	8074	石鏃	ハリ質安山岩	G-11	Ⅶ	(0.9)	1.5	0.1	0.4	
	397	2477	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ	2.0	1.1	0.4	0.8	
	398	3404	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ下	2.2	1.5	0.8	1.6	
	399	3647	石鏃	安山岩	G-9	Ⅶ	1.8	1.4	0.4	1.1	
	400	3782	石鏃	安山岩	G-9	Ⅶ	1.5	0.9	0.2	0.5	
	401	4012	石鏃	安山岩	G-9	Ⅶ	1.6	1.0	0.3	0.4	
	402	5463	石鏃	安山岩	F-10	Ⅶ	(1.5)	(1.4)	0.5	0.7	
	403	6538	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ	2.0	1.5	0.5	1.0	
	404	6933	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.5	1.1	0.4	0.4	
	405	6980	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.5	0.9	0.4	0.4	
	406	7723	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.8	1.8	0.8	3.1	
	407	8016	石鏃	安山岩	G-11	Ⅶ	2.0	(1.4)	0.4	1.9	
	408	9314	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.7	1.7	0.5	1.6	
	409	10535	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.4	1.6	0.6	1.7	
	410	8481	石鏃	安山岩	G-11	Ⅶ	1.6	1.2	0.1	0.6	
	411	8385	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.2)	1.0	0.2	0.5	
	412	9174	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(0.7)	(0.9)	0.2	0.1	
	413	9518	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	1.4	0.9	0.3	0.4	
	414	2968	石鏃	ハリ質安山岩	G-9	Ⅶ	1.4	0.7	0.4	0.3	
	415	3838	石鏃	ハリ質安山岩	G-9	Ⅶ	1.4	1.4	0.4	0.7	
	416	531	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ下	1.5	1.3	0.5	0.6	
	417	3834	石鏃	安山岩	G-9	Ⅶ	1.7	1.2	0.3	1.0	
	418	7952	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.8	(1.8)	0.6	2.8	
第36図	419	8085	石鏃	安山岩	G-11	Ⅶ	1.8	1.5	0.3	0.7	
	420	9011	石鏃	安山岩	G-8	Ⅶ	1.5	(1.2)	0.3	0.5	
	421	8932	石鏃	安山岩	G-11	Ⅶ	1.7	2.0	0.6	1.9	
	422	7458	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.5)	(0.8)	0.2	0.5	
	423	8374	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.3	1.3	0.4	1.2	
	424	8402	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	2.2	2.4	1.0	4.6	
	425	10806	石鏃	安山岩	F-11	Ⅶ	(1.8)	1.2	0.3	0.7	
	426	7804	石鏃	安山岩灰色	F-11	Ⅶ	(1.7)	2.0	0.5	1.7	
第37図	427	5334	石核	黒曜石上牛鼻	G-10	Ⅶ	2.0	1.8	1.8	11.6	
	428	10761	石核	黒曜石上牛鼻	F-11	Ⅶ	4.0	4.1	1.5	20.2	
	429	768	石核	黒曜石三船	G-9	Ⅶ	3.0	2.8	2.2	24.1	
	430	8964	石核	黒曜石三船	G-8	Ⅶ	3.8	3.0	2.1	28.1	
第38図	431	1146	凹石	砂岩	G-9	Ⅶ	15.6	11.3	5.5	1245.0	
	432	1144	敲石	砂岩	G-9	Ⅶ	5.7	4.5	3.1	102.5	
	433	1071	敲石	砂岩	G-20	Ⅶ	3.8	2.7	2.2	21.6	
	434	3499	敲石	安山岩	G-9	Ⅶ	8.5	5.2	6.3	390.0	
	435	1244	敲石	安山岩	G-8	Ⅶ	6.7	5.7	4.5	218.8	
	436	3531	敲石	砂岩	G-9	Ⅶ	5.4	4.0	1.5	43.8	
	437	1330	敲石	砂岩	G-9	Ⅶ	6.9	5.2	2.3	117.6	
	438	1030	敲石	砂岩	G-8	Ⅶ	4.4	4.1	3.2	77.0	
	439	2711	敲石	砂岩	G-8	Ⅶ	4.4	3.5	1.4	30.0	
	440	2692	敲石	砂岩	G-8	Ⅶ	10.8	4.8	3.3	244.6	
	441	1716	敲石	砂岩	F-10	Ⅶ	8.2	6.4	5.8	365.0	
第39図	442	10408	敲石	砂岩	F-11	Ⅶ	3.4	3.4	2.6	35.8	
	443	1242	磨石	砂岩	G-9	Ⅶ	7.6	3.6	3.1	118.5	
	444	1715	磨石	砂岩	F-10	Ⅶ	4.8	5.8	2.4	74.3	
	445	10698	台石	安山岩	G-10	Ⅶ	14.9	11.2	6.7	1600.0	

第13表　縄文時代土器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	層位･遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第49図	446	ob集積	J-26	深鉢	胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	突帯
第51図	450	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部	明褐	橙	○			白赤粒	脆い	ナデ	ナデ・指頭痕	刻目突帯・含砂礫
	451	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○	白赤粒	脆い	ナデ	ナデ・工具痕	刻目突帯・外面に煤痕・外面剥離
	452	Ⅶ	F-9	深鉢	口縁部	明褐	にぶい黄褐	○				脆い	ナデ	ナデ	刻目突帯（貝殻圧痕か？）
	453	Ⅶ	G-10	深鉢	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○	○		白粒	脆い	ハケメ後ナデ	ヘラケズリ・ヘラナデ・指頭痕	刻目突帯・含砂礫
	454	－	G-8	深鉢	口縁部～胴部	橙	黒褐	○		○	白粒	脆い	ナデ	ナデ	突帯
	455	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部～胴部	褐	黒褐	○			白赤粒	脆い	ナデ・ハケメ	ナデ	刻目突帯・含砂礫
	456	Ⅶ	G-9	深鉢	口縁部～胴部	にぶい橙	灰黄褐	○		○	白赤粒	脆い	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	刻目突帯
	457	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部～胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○		○	白粒	脆い	ナデ	ナデ・指頭痕	刻目突帯
	458	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部～胴部	褐	暗灰黄	○		○	白赤粒	脆い	－	ナデ	刻目突帯・外面剥離・含砂礫
	459	Ⅶ	G-9	深鉢	胴部	褐	にぶい黄褐	○			白赤粒	脆い	ナデ	ナデ	刻目突帯
	460	Ⅶ	G-8	深鉢	口縁部～胴部	明黄褐	黒褐	○			白粒	脆い	ナデ？	ナデ？	内面・外面ともに剥離・突帯
	461	Ⅶ	G-9	深鉢	口縁部～胴部	黄橙	にぶい黄橙	○			白粒	脆い	ヘラナデ・指頭痕	ヘラナデ・指頭痕	突帯・含砂礫
	462	Ⅶ	F-11	深鉢	口縁部～胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○		○	白赤粒	脆い	ハケメ後ナデ	指頭痕・ハケメ	刻目突帯・含砂礫
	463	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	灰黄褐	にぶい黄橙				白粒	脆い	ナデ	ナデ	刻目突帯（貝殻圧痕）・含砂礫
	464	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	黄褐	にぶい褐				白赤粒	脆い	ハケメ後ナデ	ハケメ	刻目突帯（貝殻圧痕）・含砂礫
	465	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	灰黄褐	黒褐	○			白粒	脆い	ハケメ後ナデ	ハケメ	刻目突帯（工具1.5㎜幅）
	466	Ⅶ	G-8	深鉢	胴部	黒褐	灰褐	○			白赤粒	脆い	ハケメ後ナデ	ナデ	
第52図	467	Ⅳ	J-27	円筒	口縁部	灰黄	にぶい赤褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	468	カクラン	F-16	円筒	口縁部	にぶい黄橙	にぶい赤褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	469	Ⅲb	H-18	円筒	口縁部	茶褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	470	表採	J-29	円筒	口縁部	にぶい黄橙	にぶい赤褐	○	○			良	条痕？	ケズリ	
	471	Ⅲa	F-11	円筒	口縁部～胴部	灰黄	にぶい黄	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	口径13.0cm
	472	Ⅳ	J-26	円筒	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○		砂粒	良	条痕	ケズリ後ナデ	
	473	Ⅰ	H-18	円筒	口縁部	にぶい橙	赤褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	474	Ⅱ	H-20	角筒	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	条痕	ケズリ	
	475	Ⅱ	G-20	角筒	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○				良	条痕	ケズリ	
	476	表採	H-18	角筒	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	条痕	ケズリ後ナデ	
	477	Ⅲa	J-26	円筒	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	条痕	ケズリ	
第53図	478	Ⅲa	H-8	円筒	胴部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	479	Ⅱ	H-20	角筒	胴部	橙	黒褐	○				良	条痕	ケズリ後ナデ	
	480	カクラン	H-18	角筒	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	条痕	ケズリ	
	481	Ⅱ	H-19	角筒	胴部	灰褐	灰褐	○	○		砂礫	良	条痕	ケズリ	胎土が粗い
	482	Ⅳ	H-14	角筒	胴部	明褐	褐	○	○			良	条痕	ケズリ	
	483	表採	H-17	角筒	胴部	黒褐	褐灰	○	○			良	条痕	ケズリ	
	484	カクラン	H-18	角筒	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	485	Ⅲb	H-18	角筒	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ	
	486	Ⅲ	F-10	角筒	胴部	黒褐	黄灰	○	○			良	条痕	ケズリ	
	487	表採	－	角筒	胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
第54図	488	Ⅱ	H-20	角筒	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		白粒	良	条痕	ケズリ後ナデ	
	489	Ⅲb	H-18	角筒	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条痕	ケズリ？	
	490	Ⅲa	J-26	角筒	胴部	にぶい褐	黒褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	491	Ⅲa	G-12	角筒	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	条痕	ケズリ	
	492	Ⅴ	H-18	角筒	胴部	橙	黒褐	○	○	○		良	条痕	－	
	493	Ⅰ	H-25	角筒	胴部	褐	褐	○	○		砂礫	良	条痕	条痕	
	494	Ⅲa	E-10	角筒	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	495	カクラン	G-11	角筒	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	条痕	ナデ	
第55図	496	表採	H-19	角筒	胴部	褐	褐	○				良	条痕	ケズリ後ナデ	
	497	カクラン	－	円筒	胴部	橙	褐灰	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	498	Ⅲa	F-11	円筒	胴部	橙	褐	○	○			良	条痕	ケズリ	
	499	Ⅲa	F-11	円筒	胴部	橙	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	500	表採	H-17	角筒	胴部	褐	褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	501	Ⅲa	F-11	角筒	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	502	Ⅲa	F-11	角筒	胴部	橙	暗褐	○		○		良	条痕	ケズリ	
	503	Ⅳ	I-26	角筒	胴部	橙	にぶい褐	○	○			良	条痕	ケズリ	
	504	Ⅳ	I-26	角筒	胴部	明赤褐	明褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	505	カクラン	F-11	角筒	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	506	Ⅲa	F-10	角筒	胴部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	

第14表　縄文時代土器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第56図	507	カクラン	−	角筒	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	条痕	ケズリ	
	508	Ⅲa	F-10	角筒	胴部	灰黄	にぶい黄	○	○			良	条痕	ケズリ	
	509	Ⅲa	F-11	角筒	胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ	
	510	Ⅲa	F-10	角筒	胴部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ	
	511	Ⅲa	F-10	角筒	胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ケズリ	
	512	カクラン	J-27	角筒	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○		雲母	良	条痕	ナデ	
	513	Ⅲa	F-19	角筒	底部	にぶい褐	明褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	514	Ⅰ	H-17	角筒	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	515	カクラン	I-18	角筒	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	516	カクラン	H-18	角筒	底部	橙	橙	○	○	○		良	条痕	ケズリ後ナデ	
	517	Ⅲa	H-18	角筒	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	518	Ⅲa	H-9	角筒	底部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	519	カクラン	G-8	角筒	底部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	520	Ⅲa	F-11	円筒	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	521	Ⅲb	J-26	円筒	口縁部	灰黄褐	褐	○	○	○		良	条痕	ケズリ後ナデ	
第57図	522	カクラン	F-9	円筒	胴部	明褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	ナデ	
	523	Ⅲb	H-18	円筒	胴部	明褐	にぶい橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	524	カクラン	H-18	円筒	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	条痕	ケズリ後ナデ	
	525	カクラン	H-17	円筒	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	526	Ⅲb	J-26	円筒	胴部	橙	にぶい褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	527	Ⅴ	H-18	円筒	胴部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○			良	条痕	ナデ	
	528	Ⅲb	I-26	円筒	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	529	カクラン	I-18	円筒	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	条痕	ケズリ後ナデ	
	530	Ⅲ	H-17	円筒	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	
第58図	531	Ⅴ	I-26	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	532	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	533	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○			良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	534	Ⅴ	I-26	深鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	山形押型文	山形押型文	
	535	Ⅳ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○		○		良	山形押型文	ナデ	
	536	Ⅳ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	537	Ⅲa	F-10	深鉢	胴部	橙	黒褐	○		○		良	山形押型文	指頭ナデ	
	538	Ⅴ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	539	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	
	540	カクラン	I-26	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○		○		良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	541	Ⅴ	I-26	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	指頭ナデ	
	542	Ⅲa	H-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	山形押型文	指頭ナデ	
	543	Ⅴ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	544	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	545	Ⅴ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	546	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	山形押型文	ナデ	
	547	Ⅴ	I-26	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	548	Ⅲa	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	指頭ナデ	
	549	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	指頭ナデ	
	550	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
第59図	551	Ⅳ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	552	Ⅳ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○		良	山形押型文	指頭ナデ	
	553	Ⅲa	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	554	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	555	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ケズリ後ナデ	
	556	Ⅴ	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	557	Ⅴ	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	
	558	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	山形押型文	ナデ	
	559	カクラン	I-24	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	山形文と楕円文	指頭ナデ	
	560	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	楕円文	ナデ	
	561	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	楕円文	ケズリ後ナデ	
	562	Ⅲa	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	山形文	ケズリ後ナデ	
	563	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○		良	山形文	ナデ	
	564	Ⅳ	I-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	山形文	ナデ	

第15表　縄文時代土器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	層位･遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第60図	565	Ⅳ	J-26	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	褐灰	○		○		良	条線押型文	ナデ	
	566	Ⅳ	J-26	深鉢	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○		○		良	条線押型文	ナデ	
	567	Ⅳ	J-26	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	568	Ⅳ	J-26	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ケズリ後ナデ	
	569	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ケズリ後ナデ	
	570	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	571	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
第61図	572	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	573	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ケズリ後ナデ	
	574	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	575	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	指頭ナデ	
	576	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ケズリ後ナデ	
第62図	577	Ⅲa	J-27	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	578	Ⅲa	J-27	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	579	Ⅳ	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	ナデ	
	580	Ⅳ	J-26	深鉢	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条線押型文	指頭ナデ	
	582	Ⅲa	I-25	深鉢	口縁部	橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	沈線	丁寧なナデ	
第63図	581	Ⅳ	I-26	深鉢	口縁部～胴部	明褐	黄褐	○	○			良	押型文	ナデ	口径21.7cm
	583	Ⅳ	I-25	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	口径30.0cm
	584	Ⅲa	I-25	深鉢	口縁部	橙	黄褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	585	カクラン	I-25	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	
第64図	586	Ⅴ	I-25	深鉢	口縁部	橙	黄褐	○	○			良	沈線	ナデ	
	587	Ⅳ	H-25	深鉢	胴部	明褐	黒褐	○	○			良	網目撚糸文	ナデ	
	588	Ⅲa	H-25	深鉢	胴部	褐	にぶい黄褐	○	○			良	網目撚糸文	ナデ	
	589	Ⅳ	H-25	深鉢	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○			良	沈線	ナデ	
	590	Ⅳ	H-25	深鉢	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	網目撚糸文	ナデ	
	591	カクラン	H-26	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○		良	沈線	ナデ	
	592	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○	○		良	撚糸文	ナデ	
	593	Ⅲa	H-26	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○			良	撚糸文	ナデ	
	594	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○	○		良	撚糸文	ナデ	
第65図	595	Ⅲa	H-26	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○			良	撚糸文	ナデ	
	596	Ⅲa	H-26	深鉢	口縁部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○			良	撚糸文	ナデ	
	597	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	撚糸文	ナデ	
	598	Ⅲb	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	撚糸文	ナデ	
	599	Ⅳ	I-25	深鉢	胴部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			良	撚糸文	ナデ	
	600	Ⅲa	I-25	深鉢	胴部	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			良	撚糸文	ナデ	
第67図	605	Ⅲa	I-24	深鉢	口縁部～胴部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	条痕・連点	条痕	
	606	Ⅲb	I-20	深鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	条痕・連点	条痕	
	607	Ⅲa	F-10･11	深鉢	胴部	黒褐	にぶい褐	○	○	○		良	連点	ナデ	
	608	Ⅲb	I-24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	連点	条痕	
	609	Ⅲa	F-10	深鉢	胴部	にぶい褐	橙	○	○	○		良	連点	ナデ	
	610	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	にぶい褐	橙	○	○	○		良	連点	ナデ	
	611	カクラン	F-11	深鉢	胴部	明褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	連点	ナデ	
	612	P2	H-26	深鉢	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	微隆帯・ナデ	ケズリ	
	613	－	I-27	深鉢	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	細い沈線	ケズリ	
	614	Ⅲb	I-25	深鉢	胴部	橙	褐灰	○	○	○		良	沈線・刺突文	ナデ	
	615	Ⅲa	I-25	深鉢	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	微隆帯	ナデ	
第68図	616	Ⅱ	G-20	深鉢	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	617	Ⅰ	H-26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	618	Ⅲb	I-25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	褐灰	○	○			良	微隆帯・工具ナデ	ケズリ	
	619	Ⅲb	J-26	深鉢	口縁部	褐灰	にぶい黄褐	○				良	微隆帯	ナデ	
	620	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○		○		良	微隆帯	ナデ・ケズリ	
	621	Ⅲb	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	微隆帯	ナデ・ケズリ	
	622	Ⅲa	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	微隆帯	工具ナデ・ケズリ	
	623	Ⅲa	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	微隆帯	ナデ	
	624	Ⅲb	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ・ケズリ	
	625	Ⅲa	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ・沈線	ケズリ	
	626	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	褐灰	にぶい赤褐	○	○			良	条痕	ナデ	

第16表　縄文時代土器観察表(4)

挿図番号	遺物番号	層位·遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第68図	627	Ⅲb	I-25	深鉢	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○		良	微隆帯・沈線	ケズリ	
第69図	628	Ⅲb	J-26	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	微隆帯・沈線	ケズリ	
	629	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	相交弧文	ナデ	
	630	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	相交弧文	ナデ	
	631	Ⅲb	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	押引文	条痕・ナデ	
	632	Ⅳ	I-26	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○			良	相交弧文	ケズリ後ナデ	
	633	－	G-10	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	押引文？	ケズリ後ナデ	
	634	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	褐灰	にぶい赤褐	○	○	○		良	二叉状刺突文	ナデ	
	635	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	二叉状刺突文	ナデ	
	636	Ⅲa	F·G-10	深鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	縄文	ナデ	
	637	Ⅲa	－	深鉢	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	二叉状刺突文	ナデ	
	638	Ⅲa	G-10	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○		雲母	良	縄文	ナデ	
	639	－	F-10	深鉢	胴部	褐灰	褐灰	○	○		雲母	良	縄文	ナデ	
	640	－	－	深鉢	口縁部	にぶい褐	にぶい褐			○		良	ナデ	ナデ	
	641	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
第70図	642	Ⅲa	F-19	深鉢	口縁部	褐	褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	643	Ⅲa	F-19	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第71図	644	Ⅳa	F-11	深鉢	口縁部	暗褐	暗褐	○		○		良	ケズリ後ナデ	条痕	
	645	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○				良	ケズリ	ケズリ後ナデ	
	646	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	黒褐	明褐	○		○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	647	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○				良	ナデ	ナデ	
	648	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	649	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ・ミガキ	
第72図	650	Ⅲa	F-11	深鉢or鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ	口径34.6cm
第73図	651	Ⅲa	I-26	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	口径28.2cm
	652	Ⅲa	I-26	深鉢	口縁部	明褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ・ケズリ	ナデ	
	653	－	－	深鉢	口縁部	黒褐	褐	○		○		良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ	
	654	Ⅲa	G-9	深鉢	口縁部	褐	褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
第74図	655	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	656	Ⅰ	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	657	表採	－	深鉢	口縁部	明褐	黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ・ミガキ	
	658	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○		○		良	ナデ・ケズリ	条痕後ナデ	
	659	－	F-10	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○		○		良	ナデ・ケズリ	ナデ	
	660	Ⅲa	G-12	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○		○		良	ナデ	粗なナデ	
	661	Ⅲa	G-9	深鉢	口縁部	赤褐	赤褐	○		○		良	ナデ・ケズリ	ケズリ後ナデ	
第75図	662	－	－	深鉢or鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	ナデ・ケズリ	ナデ	
	663	Ⅲa	G-10	深鉢or鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ・ケズリ	ナデ	
	664	Ⅲa	F-9	深鉢or鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	ナデ	粗なミガキ	
	665	Ⅱ	F-10	深鉢or鉢	口縁部	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ミガキ・ナデ	
	666	Ⅲa	G-10	深鉢	口縁部	黒褐	褐	○	○			良	ナデ	条痕後ナデ	
	667	Ⅲa	G-7	深鉢or鉢	胴部	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	
	668	カクラン	G-8	深鉢or鉢	口縁部	暗褐	明褐	○	○			良	ナデ	ナデ・ミガキ	
第76図	669	Ⅲa	F-10	深鉢or鉢	口縁部	明褐	明褐		○			良	ミガキ	ナデ	
	670	Ⅲa	F-11	深鉢or鉢	口縁部	明赤褐	明褐	○	○			良	ケズリ	ケズリ後ナデ	
	671	－	G-10	深鉢or鉢	口縁部	明褐	にぶい褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	672	Ⅲa	G-10	深鉢or鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐					良	ナデ	ナデ	
第77図	673	Ⅲa	G-12	深鉢or鉢	胴部	暗褐	にぶい褐	○	○			良	ナデ・ミガキ	ミガキ	
	674	Ⅲa	G-9	深鉢or鉢	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	675	Ⅲa	H-9	深鉢or鉢	口縁部	明赤褐	明褐					良	ナデ・ミガキ	ナデ	
	676	カクラン	F-10	深鉢or鉢	口縁部	明褐	褐	○		○		良	ナデ	ミガキ・ナデ	
	677	－	F-9	深鉢or鉢	口縁部	明黄褐	褐	○		○		良	ナデ	ミガキ・ナデ	
	678	Ⅲa	G-10	深鉢or鉢	口縁部	明黄褐	明黄褐	○				良	ナデ	ナデ	
	679	Ⅲa	F-10	深鉢or鉢	口縁部	褐	明黄褐	○		○		良	ナデ・ケズリ	ケズリ後ナデ	口径29.5cm
	680	Ⅲa	F-10・11	深鉢or鉢	口縁部	明赤褐	明褐	○		○		良	ナデ・ミガキ	ミガキ	
	681	Ⅲa	F-10	深鉢or鉢	胴部	明褐	褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
第78図	682	Ⅲa	F-11	深鉢or鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐		○			良	ナデ	ナデ	
	683	Ⅲa	－	深鉢or鉢	口縁部	にぶい赤褐	赤褐	○	○	○		良	ナデ・ミガキ	ナデ	
	684	Ⅰ	－	深鉢	口縁部	暗赤褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	

第17表　縄文時代土器観察表(5)

挿図番号	遺物番号	層位·遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第78図	685	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	明褐	褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	686	Ⅲa	G-8	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	687	－	F-10	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○		○		良	ミガキ・ナデ	ナデ	
	688	表採	－	深鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐	○				良	ナデ	ナデ	
	689	Ⅲa	G-9	深鉢	口縁部	明赤褐	明赤褐	○				良	ナデ	ケズリ後ナデ	
第79図	690	Ⅲa	H-9	深鉢	胴部	にぶい褐	褐	○				良	ケズリ	条痕後ナデ	
	691	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	褐	明褐	○				良	ナデ	ナデ	
	692	Ⅱ	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	693	－	－	深鉢	口縁部	黒褐	明褐	○	○	○		良	ナデ・ミガキ	ナデ	
	694	表採	－	深鉢or鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ケズリ	ケズリ後ナデ	
第80図	695	Ⅲa	G-9	深鉢	口縁部	明褐	褐	○	○			良	ケズリ	ケズリ後ナデ	
	696	Ⅲa	G-11	深鉢	口縁部	明褐	褐	○		○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	697	－	－	深鉢	口縁部	褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	698	表採	H-18	深鉢	口縁部	明褐	暗褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	699	Ⅲa	G-12	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	700	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	条痕	条痕	
	701	－	G-10	深鉢	口縁部	黒褐	明褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕	
	702	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	褐	暗褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	703	Ⅲ	G-9	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	704	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○		良	ナデ	条痕後ナデ	
第81図	705	Ⅳa	F-11	深鉢	口縁部	褐	暗褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	706	Ⅲ	G-10	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	707	Ⅰ	H-9	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	708	Ⅲ	－	深鉢	口縁部	明褐	暗褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	709	－	－	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	710	Ⅲa	H-18	深鉢	口縁部	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	711	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	明褐	暗褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ケズリ後ナデ	
	712	－	D-13	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第82図	713	Ⅰ	F-12	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	714	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	暗褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	715	Ⅰ	E-13	深鉢	口縁部	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	口径19.5cm
	716	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	717	Ⅲa	F-9	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	718	Ⅲa	G-12	深鉢	口縁部	褐	黄褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	719	－	－	深鉢	口縁部	褐	褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	720	－	－	深鉢	口縁部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第83図	721	Ⅲ	G-8	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	722	Ⅲa	G-10	深鉢	口縁部	褐	暗褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	口径20.8cm
	723	Ⅲa	G-10	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	724	Ⅲa	G-9	深鉢	口縁部	暗褐	明褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
第84図	725	－	－	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	726	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	暗褐	褐	○		○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	727	－	H-8・9	深鉢	口縁部	灰褐	明褐	○		○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	728	Ⅲa	G-9	深鉢	口縁部	暗褐	明褐	○	○			良	ミガキ	ナデ	
	729	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	730	Ⅳa	F-11	深鉢	口縁部	灰黄褐	黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	731	Ⅲa	G-9	深鉢	胴部	明褐	明褐	○	○			良	ナデ	条痕後ナデ	
第85図	732	Ⅲa	G-10	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	733	Ⅰ	F-12	深鉢	口縁部	明褐	明褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕	
	734	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	条痕	条痕後ナデ	
	735	Ⅰ	E-14	深鉢	口縁部	褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第86図	736	Ⅲa	F-11	深鉢	完形	黒褐	黒褐	○				良	ケズリ	条痕	口径15.5cm　器高18.1cm　底部5.8cm
第87図	737	Ⅲa	G-11	深鉢	口縁部～胴部	明褐	褐	○	○	○		良	条痕	条痕	口径16.6cm
	738	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	褐	暗褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ	口径23.6cm
	739	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	褐	褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ	
第88図	740	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部～胴部	褐	褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ	口径21.4cm
	741	Ⅲa	F-10	深鉢	胴部	暗褐	褐	○	○	○		良	不明	不明	
第89図	742	Ⅲa	I-26	鉢	口縁部	黒褐	暗褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	

第18表　縄文時代土器観察表(6)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第89図	743	－	－	鉢	口縁部	褐	黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	744	Ⅲa	G-9	鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	745	－	G-12	鉢	口縁部	暗褐	褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	746	Ⅲa	I-26	鉢	口縁部	明褐	暗褐	○		○		良	ナデ・ミガキ	ミガキ	
	747	－	－	鉢	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ・ナデ	
	748	－	－	鉢	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	749	Ⅳa	F・G-10	鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	750	－	D-13	鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ケズリ後ナデ	
第90図	751	Ⅲa	G-12	鉢	口縁部	褐	明褐	○	○	○		良	不明	ミガキ・ナデ	
	752	Ⅲa	G-11	鉢	胴部	明褐	明褐	○	○			良	ミガキ・ナデ	ナデ	
	753	Ⅲa	H-9	鉢	胴部	明褐	明褐	○	○			良	ミガキ	条痕	
	754	Ⅰ	F-10	鉢	口縁部	明褐	暗褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	755	Ⅲa	H-9	鉢	胴部	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	756	Ⅲa	－	鉢	胴部	黒褐	褐	○	○	○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	757	Ⅱ	E-13	鉢	胴部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ・ナデ	ミガキ	
	758	Ⅰ	I-11	鉢	胴部	暗褐	褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
第91・92図	759	Ⅰ	E-13	鉢	胴部～底部	茶褐	茶褐	○	○			良	ヘラミガキ	ミガキ	底径6.8cm
第93図	760	－	H-8・9	深鉢	底部	褐	褐	○		○		良	ミガキ・ナデ	ナデ	底径15.2cm
	761	Ⅲa	F-11	深鉢	底部	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	底径12.0cm
	762	Ⅲa	G-9	深鉢or鉢	底部	にぶい黄褐	明赤褐	○			砂粒	良	ミガキ	ナデ	底径9.0cm
	763	Ⅲa	F-10	深鉢or鉢	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○				良	ナデ	ナデ	底径12.4cm
	764	－	H-10	深鉢or鉢	底部	にぶい黄褐	褐	○		○		良	ミガキ	ナデ	底径16.0cm
	765	Ⅲa	F-10	深鉢or鉢	底部	明褐	褐	○		○		良	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	底径12.6cm
	766	Ⅳ	I-26	深鉢or鉢	底部	暗褐	暗褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	底径11.2cm
	767	－	G-10	深鉢or鉢	底部	灰黄褐	暗褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	底径13.8cm
	768	Ⅲa	G-11	深鉢or鉢	底部	にぶい黄褐	明褐	○	○	○		良	ケズリ	ナデ	底径11.6cm
	769	Ⅲa	G-9	深鉢or鉢	底部	明褐	暗褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	底径8.6cm
	770	Ⅲa	G-11	深鉢or鉢	底部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	底径12.2cm
	771	表採	I-26	深鉢or鉢	底部	褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ	底径6.2cm
第94図	772	Ⅰ	H-11	深鉢or鉢	底部	褐	褐	○	○			良	ケズリ	ケズリ後ナデ	底径11.0cm
	773	Ⅲa	F-10	深鉢or鉢	底部	にぶい褐	褐	○	○			良	ナデ	工具ナデ	底径10.6cm
	774	Ⅲ	G-9	深鉢or鉢	底部	明褐	暗褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ナデ	底径13.0cm
	775	表採	－	深鉢or鉢	底部	にぶい褐	明褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	底径8.8cm
	776	Ⅲa	F-11	深鉢or鉢	底部	にぶい褐	褐	○	○			良	網代底	ナデ	底径8.4cm
	777	Ⅲa	F-11	深鉢or鉢	底部	暗褐	暗褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第95図	778	Ⅲa	G-12	台付皿	皿	褐	明褐	○	○			良	ナデ後ミガキ	ミガキ	口径18.4cm
	779	Ⅲa	G-11	台付皿	皿	明黄褐	明黄褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	780	－	－	台付皿	皿	明褐	明褐	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	深鉢の可能性有り
第96図	781	－	D-13	台付皿	皿	褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ・ミガキ	ナデ	
	782	Ⅲa	G-12	台付皿	皿	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
第97図	783	Ⅲa	G-12	台付皿	皿	明褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	784	Ⅲ	F-11	台付皿	皿	暗褐	褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	ナデ	
第98図	785	Ⅲa	H-9	台付皿	皿	暗褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	深鉢の可能性有り
	786	－	－	台付皿	皿	明褐	暗褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	条痕後ナデ	深鉢の可能性有り
第99図	787	Ⅰ	I-12	台付皿	脚部	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	底径10.0cm
	788	Ⅲa	F-10	台付皿	脚部	褐	明褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	789	Ⅰ	J-12	台付皿	脚部	褐	褐	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	790	Ⅲa	G-10	台付皿	脚部	褐	にぶい褐	○	○			良	ナデ	ナデ・ケズリ	
	791	Ⅲa	I-26	台付皿	脚部	褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	粗なミガキ	
	792	－	H-9	台付皿	脚部	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第100図	793	Ⅲa	F-10	深鉢	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	794	Ⅲa	F-11	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	褐	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	
	795	Ⅰ	F-12	深鉢	口縁部	暗褐	にぶい黄褐	○		○		良	条痕	条痕後ナデ	
	796	表採	－	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	暗褐	○	○			良	沈線	ミガキ	
	797	Ⅲa	F-9	深鉢	口縁部	暗褐	にぶい黄褐	○	○			良	沈線	ミガキ	
	798	Ⅲa	G-10	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	799	Ⅲ	G-10	深鉢	口縁部	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○		良	条痕	条痕後ナデ	
	800	6号住居	F-11	深鉢	胴部	暗褐	明黄褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	

第19表　縄文時代土器観察表(7)

挿図番号	遺物番号	層位･遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第100図	801	Ⅰ	D-12	深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	802	Ⅲa	F-19	深鉢	胴部	褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	ケズリ後ナデ	
第101図	803	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	暗褐	にぶい黄橙	○		○		良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	804	Ⅲa	F-11	深鉢	胴部	暗褐	にぶい黄褐	○	○			良	条痕	条痕後ナデ	
	805	Ⅲa	F-10	深鉢	胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	条痕後ナデ	粗な条痕	
第102図	806	Ⅲa	G-11	深鉢	口縁部～胴部	暗褐	褐	○	○	○		良	条痕・ケズリ	条痕・ナデ	口径42.4cm
	807	Ⅲa	G-10	深鉢	口縁部～胴部	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	条痕	条痕後ミガキ	
第103図	808	8号住居	G-11	深鉢	胴部	暗褐	褐	○	○			良	条痕	条痕	
	809	Ⅲa	F-10	深鉢	胴部	黄褐	暗褐	○	○			良	条痕	ナデ	
	810	Ⅲa	F-11	深鉢	底部	暗褐	にぶい黄褐	○	○			良	ケズリ	ケズリ	
第104図	811	カクラン	F-9	浅鉢	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	口径31.0cm
	812	Ⅲa	F-10	浅鉢	口縁部	黒褐	黒褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	813	－	H-9	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	814	－	－	浅鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	815	1号住居	H-8	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	816	カクラン	F-11	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	817	Ⅱ	F-11	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	818	Ⅲa	F-11	浅鉢	口縁部	暗褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	819	Ⅳa	F-11	浅鉢	口縁部	暗褐	黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	820	Ⅲa	F-10	浅鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ケズリ	ミガキ	
	821	Ⅲa	G-10	浅鉢	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	822	Ⅰ	G-9	浅鉢	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	823	Ⅲa	F-10	浅鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	824	Ⅲa	G-11	浅鉢	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
第105図	825	6号住居	F-11	浅鉢	胴部	黒褐	黒褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	826	Ⅲa	G-10	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	口径18.0cm
	827	Ⅲa	G-10	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	828	Ⅲa	G-10	浅鉢	口縁部	褐灰	褐灰	○		○		良	ミガキ	ミガキ	
	829	5号住居	F･G-9	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	830	Ⅲ	G-8	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	
	831	Ⅲ	G-10	浅鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
第106図	832	Ⅲa	G-9	浅鉢	口縁部	黒	黒	○				良	ミガキ	ミガキ	
	833	Ⅲa	G-11	浅鉢	口縁部	暗灰黄	黒褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	口径30.0cm
	834	Ⅰ	F-8	浅鉢	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○				良	ミガキ	ミガキ	口径25.8cm
	835	Ⅰ	F-12	浅鉢	胴部	黄褐	黄褐	○				良	ミガキ	ミガキ	
	836	Ⅲa	G-10	浅鉢	口縁部	暗灰黄	暗灰黄	○				良	ミガキ	ミガキ	口径26.8cm
	837	Ⅲa	G-10	浅鉢	口縁部	黒褐	黒褐	○				良	ミガキ	ミガキ	口径32.4cm
	838	Ⅲa	F-11	浅鉢	口縁部～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	ミガキ	ミガキ	口径14.8cm
第107図	839	－	H-8･9	めんこ	－	褐	にぶい褐	○		○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	840	－	G-9	めんこ	－	黒褐	にぶい褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	841	－	H-8･9	めんこ	－	褐	暗褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	842	－	H-11	めんこ	－	明褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	843	－	－	めんこ	－	明褐	にぶい褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	844	－	－	めんこ	－	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○		良	ナデ	条痕後ナデ	
	845	－	－	めんこ	－	灰黄褐	にぶい黄褐	○		○		良	ナデ	ナデ	
	846	Ⅲa	G-9	めんこ	－	明褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	847	Ⅲa	G-9	めんこ	－	褐	明褐	○	○	○		良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	848	Ⅰ	H-11	めんこ	－	褐	褐	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	849	Ⅳa	F-11	めんこ	－	暗褐	暗褐	○	○	○		良	粗なナデ	条痕後ナデ	
	850	Ⅲa	G-12	めんこ	－	明褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	851	Ⅲa	G-10	めんこ	－	褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	852	Ⅲa	F-10	めんこ	－	褐	褐	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	853	Ⅲb	J-16	めんこ	－	暗褐	褐	○	○	○		良	不明	ナデ	
第108図	854	Ⅲa	I-26	めんこ	－	明褐	明褐	○	○	○		良	条痕後ナデ	条痕後ナデ	
	855	－	G-10	めんこ	－	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	856	Ⅲa	H-11	めんこ	－	褐	褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	

第20表　縄文時代石器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第49図	447	－	J-26	ob集積	黒曜石（上牛鼻）	3.0	5.7	3.0	57.08	
	448	－	J-26	ob集積	黒曜石（上牛鼻）	4.5	4.6	3.2	73.43	
	449	スクレイパー	J-26	Ⅲb	黒曜石（日東）	6.6	8.5	2.8	150.00	
第66図	601	石鏃	I-26	Ⅴ	安山岩	2.9	2.0	0.6	3.07	
	602	スクレイパー	H-25	Ⅳ	鉄石英	6.7	5.6	1.0	43.55	
	603	磨石	I-26	Ⅳ	砂岩	5.5	4.5	2.3	77.84	
	604	磨石	J-20	Ⅴ	砂岩	4.5	3.4	2.5	49.22	
第109図	857	石鏃	J-26	Ⅲb	頁岩	2.1	1.2	0.5	1.24	
	858	石鏃	H-26	Ⅲb	安山岩	1.9	1.9	0.4	0.97	
	859	石鏃	F-12	Ⅲa	安山岩	2.3	2.0	0.4	1.55	
	860	石鏃	H-18	Ⅲa	頁岩	2.0	1.9	0.4	0.94	
	861	石匙	I-26	Ⅲa	鉄石英	2.4	4.2	0.8	6.38	
	862	石匙	H-25	Ⅲb	頁岩	2.9	5.5	1.0	14.07	
	863	石匙	I-26	Ⅲa	鉄石英	3.1	5.2	0.6	9.40	
	864	調整剥片	I-26	Ⅲb	黒曜石（上牛鼻）	5.2	2.6	1.4	20.77	
	865	石匙	J-26	Ⅲb	安山岩	4.4	2.4	0.7	6.94	
第110図	866	使用痕剥片	－	－	めのう	3.9	3.1	0.7	8.75	
	867	スクレイパー	－	－	チャート	4.2	2.7	0.8	9.95	
第111図	868	磨製石斧	D-13	Ⅰ	砂岩	7.0	6.1	3.1	212.26	
	869	磨製石斧	H-26	Ⅲ	安山岩	10.9	7.3	3.4	404.63	
	870	打製石斧	E-14	Ⅰ	砂岩	(7.7)	(5.8)	(2.0)	114.76	
	871	打製石斧	F-9	Ⅲa	頁岩	10.6	5.9	2.3	184.99	
	872	磨製石斧	F-8	Ⅱ	砂岩	13.9	4.3	1.8	149.15	
第112図	873	磨製石斧	D-13	Ⅰ	砂岩	(9.5)	5.2	4.0	340.77	
	874	磨製石斧	J-26	Ⅲb	硬質砂岩	7.4	6.9	3.9	271.06	
	875	磨製石斧	F-10	Ⅲa	蛇紋岩	4.3	6.6	1.5	62.71	
	876	磨製石斧	G-9	Ⅲa	砂岩	7.4	7.2	3.8	220.15	
	877	磨製石斧	H-8	Ⅲa	砂岩	8.1	7.1	3.2	290.75	
	878	磨製石斧	I-25	Ⅲa	頁岩	15.4	6.8	3.6	448.00	
	879	磨製石斧	G-10	Ⅲa	砂岩	11.7	5.9	2.3	274.66	
	880	磨製石斧	G-9	Ⅲa	頁岩	11.3	7.3	2.9	360.00	
	881	磨製石斧	H-9	Ⅲa	頁岩	7.4	4.7	3.0	160.01	
第113図	882	磨製石斧	F-9	Ⅲa	頁岩	9.4	5.4	3.3	230.73	
	883	磨製石斧	G-10	Ⅲa	頁岩	12.8	6.3	3.1	271.76	
第114図	884	磨石	F-10	Ⅲa	砂岩	6.0	4.0	1.2	42.91	
	885	磨石	F-10	Ⅲa	砂岩	6.9	3.5	1.3	53.00	
	886	磨石	F-10	Ⅲa	砂岩	7.3	5.1	2.2	118.74	
	887	磨石	G-9	Ⅲa	安山岩	7.8	5.7	3.6	243.17	
	888	磨石	F-11	Ⅲa	砂岩	8.0	6.3	3.6	306.97	
	889	磨石	H-10	Ⅲa	砂岩	7.4	5.0	3.9	230.54	
	890	磨石	G-8	Ⅲ	砂岩	9.1	4.5	2.9	157.65	
	891	磨石	F-11	Ⅲa	砂岩	9.0	5.6	1.8	137.40	
第115図	892	磨石	G-9	Ⅲa	頁岩	3.2	3.0	2.5	34.27	
	893	磨石	F-11	Ⅲa	砂岩	5.1	4.6	1.6	58.97	
	894	磨石	H-10	Ⅲa	砂岩	4.1	4.0	1.8	40.18	
	895	磨石	I-25	Ⅲa	砂岩	6.1	5.4	3.4	148.29	
	896	磨石	H-11	Ⅲa	砂岩	5.1	4.8	1.6	57.52	
	897	磨石	G-10	Ⅲa	安山岩	6.1	5.7	3.8	193.93	
	898	磨石	F-11	Ⅲa	砂岩	5.4	5.2	2.6	114.46	
	899	磨石	F-11	Ⅲa	砂岩	5.9	5.5	4.7	209.39	

第21表　縄文時代石器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層位･遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第115図	900	磨石	G-9	Ⅲa	砂岩	5.5	4.8	4.4	163.16	
	901	磨石	F-11	Ⅲa	砂岩	5.7	5.2	2.2	96.82	
第116図	902	磨石	G-11	Ⅲa	砂岩	(6.5)	6.5	3.4	210.92	
	903	磨石	G-8	Ⅲa	砂岩	10.1	5.0	2.8	271.75	
	904	磨石	H-25	Ⅲa	砂岩	10.8	8.3	4.4	600.00	
	905	磨石	－	Ⅲa	砂岩	10.7	4.7	2.3	167.60	
	906	磨石	F-10･11	Ⅲa	砂岩	13.0	8.0	3.7	605.00	
	907	磨石	F-11	Ⅲa	安山岩	10.4	7.4	3.3	390.00	
第117図	908	磨石	G-8	Ⅲa	砂岩	9.8	8.6	5.9	720.00	
	909	磨石	F-6	Ⅲa	安山岩	10.5	8.0	6.6	760.00	
	910	磨石	－	Ⅲa	砂岩	11.9	(4.0)	4.6	327.08	
	911	磨石	I-25	Ⅲb	安山岩	11.5	7.4	4.6	580.00	
	912	磨石	G-11	Ⅲa	砂岩	12.0	8.6	3.1	550.00	
第118図	913	磨石	O-27	Ⅲa	砂岩	9.7	9.0	2.9	380.00	
	914	磨石	G-27	Ⅲa	安山岩	9.8	8.8	4.1	510.00	
	915	磨石	F-10	Ⅲa	安山岩	10.1	7.3	4.2	530.00	
	916	投弾	I-26	Ⅲ	安山岩	13.5	11.7	7.1	1495.00	
第119図	917	磨石	F-10	Ⅲa	安山岩	16.0	11.0	6.1	1710.00	
	918	磨石	H-8	Ⅲa	砂岩	14.9	8.6	7.7	1380.00	
	919	磨石	F-10	Ⅲa	砂岩	13.2	11.2	5.6	1220.00	
第120図	920	磨石	F-8	Ⅲa	安山岩	11.1	7.1	4.9	540.00	
	921	磨石	－	Ⅲa	砂岩	9.7	3.3	2.9	171.25	
	922	磨石	H-9	Ⅲa	砂岩	11.2	6.1	3.0	272.97	
	923	磨石	F-11	Ⅲa	安山岩	(6.2)	(5.4)	4.5	235.24	
	924	磨石	G-10	Ⅲa	砂岩	8.0	(4.1)	5.0	242.78	
	925	磨石	F-8	Ⅲa	砂岩	11.5	6.2	3.0	324.43	
	926	磨石（タタキ）	I-8	Ⅲa	安山岩	4.9	3.4	2.2	72.34	
第121図	927	敲石	H-26	Ⅲa	石英	8.2	7.6	5.0	420.00	
	928	磨石	G-10	Ⅲ	砂岩	5.9	5.4	2.2	108.76	
	929	磨石（タタキ）	F-11	Ⅲa	砂岩	7.7	6.3	3.7	261.15	
	930	磨石	F-11	Ⅲa	安山岩	8.2	(5.5)	4.5	278.89	
	931	磨石（タタキ）	F-10	Ⅲa	砂岩	8.5	6.9	2.3	191.35	
	932	磨石（タタキ）	F-10	Ⅲa	砂岩	6.6	5.0	3.8	171.04	
第122図	933	磨石（タタキ）	G-9	Ⅲa	砂岩	9.5	7.9	4.4	545.00	
	934	磨石（タタキ）	T-10	Ⅲa	砂岩	7.9	3.8	3.1	138.37	
	935	磨石（タタキ）	F-11	Ⅲa	砂岩	11.9	4.4	2.8	253.84	
	936	磨石（タタキ）	G-12	Ⅲa	砂岩	13.0	4.8	4.0	333.97	
	937	磨石	I-25	Ⅲa	砂岩	11.3	6.9	3.2	350.00	
	938	磨石・凹石	G-11	Ⅲa	砂岩	9.4	7.4	3.4	340.04	
第123図	939	磨石・凹石	H-26	Ⅲa	安山岩	8.7	7.8	4.3	460.00	
	940	磨石・凹石	G-12	Ⅲa	砂岩	8.9	10.4	4.1	540.00	
	941	磨石・凹石	F-11	Ⅲa	砂岩	9.9	8.4	4.5	560.00	
	942	磨石・凹石	F-10	Ⅲa	砂岩	14.7	13.3	5.7	1675.00	
第124図	943	磨石・凹石	J-26	Ⅲa	砂岩	8.0	9.4	5.5	610.00	
	944	磨石（タタキ）	H-8	Ⅲ	砂岩	13.7	7.9	7.0	1240.00	
	945	石錘	T-11	Ⅲa	安山岩	(4.7)	4.6	1.1	32.72	
	946	軽石加工品	G-10	Ⅲ	軽石	4.6	4.5	1.8	10.35	
	947	軽石加工品	F-10	Ⅲa	軽石	9.6	9.1	3.0	68.92	中央に穿孔
第125図	948	石皿	J-26	Ⅲb	安山岩	(23.2)	(17.8)	7.7	4000.00	
	949	石皿	F-11	Ⅲa	安山岩	(17.2)	22.0	6.7	3600.00	

第22表　古墳時代破鏡観察表

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	最大長 cm	最大幅 cm	重量 g	備考
第128図	950	1号住居	H-8	鏡	－	深緑	深緑	2.7	2.6	6.06	破鏡（穿孔）

第23表　古墳時代土器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	層位·遺構	出土区	器種	部位	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	調整 外面	調整 内面	備考
第128図	951	1号住居	H-8	甕	口縁部~胴部	橙	明黄褐	○	○	○		良	ケズリ・ナデ	ハケ・指頭ナデ	
	952	1号住居	H-8	甕	脚台	橙	橙	○	○			良	ハケ・ナデ	ナデ	
	953	1号住居	H-8	甕	脚台	明赤褐	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
第129図	954	2号住居	H-8	甕	脚台	黄橙	橙	○	○	○		良	ハケ	ナデ	
	955	2号住居	H-8	甕	脚台	黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	956	2号住居	H-8	高坏	裾部	黄橙	橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
	957	2号住居	H-8	手づくね土器	完形	明黄褐	明黄褐	○		○		良	ナデ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	958	2号住居	H-8	手づくね土器	胴部~底部	橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	指頭ナデ	
第131図	959	3号住居	G-9	甕	口縁部	浅黄	明黄褐	○	○	○		良	ハケ	ハケ後ナデ	
	960	3号住居	G-9	甕	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	961	3号住居	G-9	甕	口縁部	黒褐	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	962	3号住居	G-9	甕	口縁部	橙	赤褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	963	3号住居	G-9	甕	口縁部~胴部	にぶい黄	灰	○				良	ハケ・ナデ	ナデ	
	964	3号住居	G-9	甕	口縁部	にぶい黒褐	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ後ナデ	
	965	3号住居	G-9	甕	口縁部~胴部	黒褐	明黄褐	○				良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	966	3号住居	G-9	甕	口縁部~胴部	橙	明赤褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・ヘラケズリ	
	967	3号住居	G-9	甕	口縁部~脚部	橙	橙	○				良	ハケ・ナデ	ミガキ・ハケ・ナデ	
	968	3号住居	G-9	甕	脚台	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ・指頭ナデ	ケズリ・指頭ナデ	
	969	3号住居	G-9	甕	脚台	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	970	3号住居	G-9	甕	脚台	明黄褐	黄褐	○	○	○		良	ナデ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	971	3号住居	G-9	甕	脚台	橙	オリーブ黒	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
第132図	972	3号住居	G-9	甕	脚台	橙	暗灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	
	973	3号住居	G-9	甕	胴部~底部	橙・黒褐	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	974	3号住居	G-9	甕	底部	橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	975	3号住居	G-9	手づくね土器	胴部~底部	橙	橙	○		○		良	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	976	3号住居	G-9	壷	胴部	浅黄	明黄褐	○	○	○		良	ミガキ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	977	3号住居	G-9	甕	口縁部	橙	明黄褐	○	○			良	粗なハケ	ナデ	
第133図	978	4号住居	G-8	甕	口縁部	橙	浅黄橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	979	4号住居	G-8	甕	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	980	4号住居	G-8	甕	口縁部~胴部	橙	橙	○	○	○	砂粒	良	ハケ	ヘラケズリ後ナデ	
	981	4号住居	G-8	甕	口縁部~胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	砂粒	良	ハケ	ナデ	
	982	4号住居	G-8	甕	脚台	橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	983	4号住居	G-8	甕	脚台	にぶい黄	にぶい黄橙	○				良	ハケ・ナデ	ハケ・指頭ナデ	
第134図	984	5号住居	F·G-9	甕	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	985	5号住居	F·G-9	甕	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○		良	ハケ	ナデ	
	986	5号住居	F·G-9	甕	口縁部	にぶい橙	にぶい黄褐	○		○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	987	5号住居	F·G-9	甕	口縁部	黄橙	橙	○				良	ハケ	ハケ・ナデ	
	988	5号住居	F·G-9	甕	口縁部~胴部	明赤褐	橙	○		○		良	ハケ	ハケ・ナデ	
	989	5号住居	F·G-9	甕	口縁部~底部	橙	明赤褐	○	○	○		良	ケズリ後ナデ	ナデ	
第135図	990	5号住居	F·G-9	甕	口縁部~胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○		良	ハケ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	991	5号住居	F·G-9	甕	脚台	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ハケ後ナデ	ナデ	
	992	5号住居	F·G-9	高坏	裾部	にぶい黄橙	浅黄橙	○				良	ナデ・ケズリ	ハケ・ナデ	
	993	5号住居	F·G-9	鉢？	底部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○		良	ハケ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	

第24表　古墳時代土器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	層位·遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第137図	994	6号住居	F-11	甕	口縁部	黄灰	黄褐	○	○			良	ハケ・ナデ	ナデ	
	995	6号住居	F-11	甕	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	板ナデ・ナデ	ナデ	
	996	6号住居	F-11	甕	口縁部	橙	にぶい黄褐		○	○		良	指頭ナデ	ハケ・指頭ナデ	
	997	6号住居	F-11	甕	口縁部~胴部	橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	ハケ・ケズリ	ハケ・ナデ	
	998	6号住居	F-11	甕	脚台	明赤褐	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	999	6号住居	F-11	高坏	裾部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	
	1000	6号住居	F-11	高坏	裾部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○				良	丁寧なケズリ・ナデ	ハケ・ナデ	
第138図	1001	7号住居	G-11	甕	口縁部	橙	明褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1002	7号住居	G-11	甕	口縁部	橙	にぶい褐	○		○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1003	7号住居	G-11	甕	口縁部~胴部	黄褐	明褐	○	○			良	ヘラケズリ・ナデ	ケズリ後ナデ	
	1004	7号住居	G-11	甕	脚台	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭ナデ	
第139図	1005	8号住居	G-11	甕	口縁部~底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1006	8号住居	G-11	甕	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	粗なハケ	粗なハケ・ナデ	
	1007	8号住居	G-11	甕	脚台	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ナデ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1008	8号住居	G-11	甕	脚台	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	ハケ後ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1009	8号住居	G-11	甕	脚台	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
	1010	8号住居	G-11	甕	脚台	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	煤付着
	1011	8号住居	G-11	甕	胴部~脚台	にぶい黄橙	橙	○	○			良	ハケ・指頭ナデ	ハケ・指頭ナデ	
第140図	1012	8号住居	G-11	甕	脚台	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ナデ・指頭ナデ	ナデ・指頭ナデ	
	1013	8号住居	G-11	鉢	底部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	ナデ・指頭痕	板ナデ・ナデ	
	1014	8号住居	G-11	台付鉢	口縁部~胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○		良	ケズリ・ナデ	ナデ	
	1015	8号住居	G-11	壷	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○		良	粗なケズリ・ナデ	ナデ	
第143図	1016	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	明黄褐	橙	○	○	○		良	ハケ	ハケ	
	1017	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	ヘラケズリ・ハケ・ナデ	ヘラケズリ	
	1018	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	明赤褐	赤褐	○	○	○		良	粗なハケ	粗なハケ・ナデ	
	1019	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	明赤褐	橙	○	○			良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1020	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	橙	明赤褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	粗なハケ後ナデ	
	1021	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	橙	橙	○	○			良	ハケ	ハケ後ナデ	
	1022	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	橙	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ケズリ・ハケ・ナデ	
	1023	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ・指頭ナデ	
第144図	1024	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	黒褐	明赤褐	○	○			良	ハケ後ナデ	ハケ	
	1025	9号住居	G·H-11	甕	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ハケ・指頭ナデ	ハケ・指頭ナデ	
	1026	9号住居	G·H-11	鉢	口縁部~胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ハケ・ケズリ	ナデ	
	1027	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	橙	橙	○	○	○		良	ケズリ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ	突帯あり
	1028	9号住居	G·H-11	甕	胴部~底部	にぶい黄橙	明赤褐	○	○	○		良	ハケ	ハケ・指頭ナデ	煤付着
	1029	9号住居	G·H-11	鉢or甕	口縁部~胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	指頭痕・ナデ	指頭痕・ナデ	
	1030	9号住居	G·H-11	甕	胴部~底部	橙	橙	○	○	○		良	粗なハケ	ハケ後ナデ	
	1031	9号住居	G·H-11	甕	胴部~脚台	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ・指頭痕	指頭痕	
第145図	1032	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1033	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい橙	明赤褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1034	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい黄橙	橙	○	○			良	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1035	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○		良	ハケ	ナデ・指頭痕	
	1036	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1037	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1038	9号住居	G·H-11	甕	脚台	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	ハケ・ナデ・指頭痕	ナデ・指頭痕	
	1039	9号住居	G·H-11	鉢	胴部~底部	橙	橙	○	○			良	粗なハケ・ナデ	ハケ・指頭ナデ	
	1040	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~底部	明赤褐	橙	○	○			良	タタキ・指頭痕	ケズリ・指頭痕	
	1041	9号住居	G·H-11	甕	口縁部~胴部	にぶい橙	黒褐	○	○			良	粗なハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1042	9号住居	G·H-11	甕	胴部	橙	橙	○	○	○		良	タタキ後ナデ	ナデ	
	1043	9号住居	G·H-11	壷	口縁部~胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ	指頭ナデ	
	1044	9号住居	G·H-11	壷	胴部	橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	
第146図	1045	9号住居	G·H-11	壷	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	やや粗なハケ	やや粗なハケ	
	1046	9号住居	G·H-11	手づくね土器	口縁部~底部	橙	橙	○	○			良	指頭痕・指頭ナデ	指頭ナデ	
	1047	9号住居	G·H-11	鉢	底部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○				良	指頭痕	指頭痕	

第25表　古墳時代土器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第147図	1048	10号住居	G-11	甕	口縁部～胴部	明黄褐	橙	○	○			良	ケズリ・ハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1049	10号住居	G-11	甕	口縁部～胴部	橙	橙	○				良	ハケ	ハケ・ナデ	
	1050	10号住居	G-11	甕	口縁部～胴部	明黄褐	橙	○	○	○		良	ハケ	ハケ後指頭ナデ	
	1051	10号住居	G-11	甕	口縁部～胴部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ	ハケ・ナデ・指頭痕	
	1052	10号住居	G-11	甕	口縁部	灰黄褐	橙	○	○			良	ハケ	ナデ	
第148図	1053	10号住居	G-11	甕	口縁部	にぶい黄褐	黄褐	○	○			良	ハケ	粗なハケ	
	1054	10号住居	G-11	甕	口縁部～胴部	明赤褐	橙	○				良	粗なハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1055	10号住居	G-11	甕	口縁部	橙	橙	○				良	ヘラ・ナデ	ハケ	
	1056	10号住居	G-11	甕	口縁部	浅黄	明黄褐	○	○			良	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	
	1057	10号住居	G-11	甕	口縁部～胴部	暗褐	橙	○	○			良	ハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1058	10号住居	G-11	甕	脚台	明黄褐	橙	○	○			良	ハケ・ナデ	指頭痕	
	1059	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	橙	○	○			良	タタキ	ナデ	あて具痕有り
	1060	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	橙	○	○			良	タタキ	ナデ	
	1061	10号住居	G-11	甕	胴部	黄橙	橙	○				良	タタキ	ナデ	
	1062	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	橙	○				良	タタキ	ナデ	
	1063	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	黒褐	○	○			良	タタキ	ナデ	あて具痕有り
	1064	10号住居	G-11	甕	胴部	明褐	橙	○	○	○		良	タタキ	ナデ	
第149図	1065	10号住居	G-11	甕	胴部	黄橙	橙	○				良	タタキ	ナデ	
	1066	10号住居	G-11	甕	胴部	橙	橙	○				良	タタキ	ナデ	
	1067	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	橙	○	○	○		良	タタキ	ナデ	
	1068	10号住居	G-11	甕	胴部	黒褐	橙	○				良	タタキ	ナデ	
	1069	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	黄橙	○	○			良	タタキ	ナデ	
	1070	10号住居	G-11	甕	胴部	褐	橙	○				良	タタキ	ナデ	
	1071	10号住居	G-11	甕	胴部	明赤褐	橙	○				良	タタキ・ナデ	ナデ	
	1072	10号住居	G-11	甕	胴部	橙	橙	○	○	○		良	タタキ後ナデ	ケズリ後ナデ	
第150図	1073	10号住居	G-11	甕	胴部	明黄褐	黄橙	○	○	○		良	タタキ・ナデ	ナデ	
	1074	10号住居	G-11	壷	口縁部～胴部	橙	橙	○	○			良	粗なハケ・ナデ	粗なハケ・ナデ	
	1075	10号住居	G-11	壷	口縁部～肩部	橙	明黄褐	○	○			良	ハケ	指頭ナデ	
	1076	10号住居	G-11	壷	胴部～底部	浅黄	にぶい黄褐	○	○	○		良	ケズリ・ハケ・ナデ	ハケ・粗なハケ	
第153図	1077	Ⅲa	F・G-10	甕	口縁部～底部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○			良	ケズリ後ナデ	ハケ・ナデ	
	1078	2号住居	H-8	甕	口縁部～底部	明黄褐	橙					良	ナデ・ケズリ・ハケ	ハケ・ナデ	
	1079	Ⅲa	F・G-10	甕	頸部～底部	橙	黄橙	○	○			良	ハケ・ケズリ	粗なハケ・ナデ・指頭痕	
	1080	Ⅲa	F-10	坩	底部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
第154図	1081	Ⅲa	F-11	甕	口縁部	明黄褐	橙	○				良	ハケ後ナデ	ナデ	
	1082	Ⅲa	G-9	甕	口縁部～胴部	明赤褐	橙	○	○	○		良	ハケ・ケズリ	ナデ	
	1083	Ⅲa	－	甕	口縁部～胴部	明黄褐	橙	○				良	ハケ後ナデ	ナデ	
	1084	Ⅲa	F-11	甕	口縁部	褐	橙	○	○			良	ハケ	ケズリ・ナデ	
	1085	Ⅲa	Ⅰ-8	甕	口縁部～胴部	橙	明赤褐	○				良	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	1086	Ⅱ	G-10	甕	口縁部～胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	
	1087	Ⅲa	F・G-10	甕	口縁部～胴部	暗オリーブ褐	黄褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ヘラケズリ・ナデ	
第155図	1088	Ⅲa	F-11	甕	脚台	橙	橙	○	○			良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1089	Ⅲa	G-8	甕	脚台	橙	明黄褐	○	○			良	ハケ	指頭痕・ナデ	
	1090	Ⅲa	G-13	甕	脚台	淡黄	橙	○	○			良	ハケ	指頭ナデ	
	1091	Ⅲa	G-8	甕	脚台	にぶい黄橙	橙	○	○			良	ナデ	ナデ	
	1092	Ⅲa	F-14	甕	脚台	橙	黄橙	○	○	○		良	ナデ	ハケ	
	1093	Ⅲa	G-9	甕	脚台	黄褐	暗灰黄	○	○	○		良	指頭痕・ナデ	指頭痕・ナデ	
	1094	Ⅲa	G-11	壷	口縁部	橙	明黄褐	○	○	○		良	ハケ・ナデ	ナデ	
	1095	Ⅲa	F・G-10	鉢	口縁部～胴部	明黄褐	橙	○	○			良	粗なハケ	ハケ・ナデ	
	1096	Ⅲa	G-8	手づくね土器	完形	明黄褐	にぶい黄橙	○				良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	1097	Ⅲa	H-9	手づくね土器	尖底	にぶい黄橙	橙	○	○			良	指頭痕	指頭痕	
	1098	Ⅲa	G-9	坩	底部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	

第26表　古代土師器・須恵器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第159図	1099	竪穴	L-32	土師器	甕	完形	橙	精製	25.0	－	20.0	横ナデ	ケズリ	底面に煤付着
第160図	1100	円形周溝	G-10	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	8.8	4.5	1.6	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1101	円形周溝	G-10	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	9.0	4.6	2.0	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1102	円形周溝	G-10	土師器	坏	完形	浅黄橙	精製	13.6	5.2	4.1	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	高台付
	1103	円形周溝	G-10	土師器	坏	完形	浅黄橙	精製	13.3	5.8	4.0	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
第162図	1106	土坑１	F-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	7.0	－	横ナデ	横ナデ	
	1107	土坑１	F-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	5.9	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	充実高台
第165図	1111	土坑３	I-25	土師器	坏	口縁部～底部	オリーブ黒	精製	10.0	－	2.5	ミガキ	ミガキ	両黒
第166図	1112	土坑４	J-25･26	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	横ナデ	ミガキ	内黒
第170図	1123	－	G-12	土師器	甕	完形	にぶい橙	精製	28.6	－	19.5	ハケ後ナデ	粗なケズリ	底面に煤付着
第171図	1124	Ⅲ	G-10	土師器	甕	口縁部	明赤褐	精製	－	－	－	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1125	Ⅲa	F-9	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1126	Ⅰ	F-10	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	1127	－	G-10	土師器	甕	口縁部	にぶい褐	精製	－	－	－	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1128	Ⅰ	E-12	土師器	甕	口縁部	黒	精製	30.4	－	－	ナデ	ケズリ	
	1129	Ⅲa	G-11	土師器	甕	口縁部	浅黄橙	精製	24.8	－	－	横ナデ	ケズリ・横ナデ	
	1130	Ⅱ	F-11	土師器	甕	口縁部～体部	にぶい赤褐	精製	20.0	－	－	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	
	1131	Ⅰ	E-14	土師器	甕	口縁部	にぶい褐	精製	29.8	－	－	ナデ	ケズリ・ナデ	
	1132	Ⅱ	G-10	土師器	甕	口縁部～体部	明赤褐	精製	17.7	－	－	ナデ・指頭痕	ケズリ･指頭痕･ナデ	
	1133	Ⅲa	G-11	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ハケ・ナデ	ハケ・ケズリ	
	1134	Ⅲ	G-10	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1135	７号住居	G-11	土師器	甕	口縁部	にぶい橙	精製	－	－	－	横ナデ	ハケ・横ナデ	
	1136	表採	G-10	土師器	甕	口縁部	明黄褐	精製	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1137	Ⅲa	F-11	土師器	甕	頸部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ハケ後ナデ	ケズリ・ナデ	
	1138	Ⅰ	H-7	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	29.6	－	－	ナデ	ナデ	
	1139	Ⅲa	G-11	土師器	甕	口縁部	にぶい黄橙	精製	29.3	－	－	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	
第172図	1140	－	G-12	土師器	甕	口縁部～胴部	橙	精製	34.0	－	－	ハケ後ナデ	ケズリ・ナデ	
	1141	Ⅲa	－	須恵器	甕	口縁部～胴部	明黄褐	精緻	22.8	－	－	タタキ後ナデ	ヘラケズリ･あて具痕	
第173図	1143	Ⅰ	E-13	土師器	坏	完形	浅黄橙	精製	13.0	8.2	4.3	横ナデ	横ナデ	
	1144	Ⅱ	G-10	土師器	坏	体部～底部	にぶい黄橙	精製	－	5.4	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1145	－	G-10	土師器	坏	口縁部～底部	浅黄橙	精製	11.1	3.6	4.3	横ナデ・ヘラ切り	横ナデ	墨書
	1146	Ⅲa	G-12	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	－	7.2	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1147	Ⅲa	G-11	土師器	坏	口縁部～底部	浅黄橙	精製	14.0	7.2	4.1	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1148	Ⅲa	F-11	土師器	坏	口縁部～底部	浅黄橙	精製	14.6	7.4	4.2	横ナデ	横ナデ	
	1149	Ⅲa	G-11	土師器	坏	体部～底部	淡黄	精製	－	6.6	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1150	Ⅲa	F-9	土師器	坏	体部～底部	浅黄橙	精製	－	7.8	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1151	Ⅲa	F-11	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	－	5.7	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1152	－	7T	土師器	坏	体部～底部	浅黄橙	精製	－	5.6	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	充実高台
	1153	Ⅲa	F-10	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	5.7	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1154	Ⅰ	D-14	土師器	坏？	底部	浅黄橙	精製	－	6.6	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	

第27表　古代土師器・須恵器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第173図	1155	－	G-10	土師器	坏	体部～底部	にぶい橙	精製	－	7.4	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1156	Ⅲa	F-12	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	7.2	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1157	－	G-10	土師器	坏	口縁部～底部	浅黄橙	精製	13.2	6.4	6.1	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	充実高台
	1158	Ⅲa	H-11	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	－	5.6	－	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1159	Ⅱ	G-10	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	5.7	－	横ナデ･ヘラ切り	横ナデ	充実高台
	1160	Ⅰ	H-8	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	－	5.6	－	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1161	表採	H-10	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	5.4	－	横ナデ	横ナデ	充実高台
	1162	Ⅰ	I-12	土師器	坏	体部～底部	浅黄橙	精製	－	5.6	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1163	Ⅲa	F-10	土師器	坏	体部～底部	浅黄橙	精製	－	5.9	－	横ナデ	横ナデ	充実高台
第174図	1164	Ⅱ	G-10	土師器	埦	完形	橙	精製	13.2	7.5	7.2	横ナデ	横ナデ	
	1165	Ⅲa	F-11	土師器	埦	口縁部～体部	浅黄橙	精製	17.6	－	－	横ナデ	横ナデ	墨書
	1166	Ⅰ	G-10	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	6.8	－	横ナデ	横ナデ	
	1167	Ⅱ	F-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	8.0	－	横ナデ	磨耗	外面体部に煤付着
	1168	－	G-10	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	6.6	－	横ナデ	横ナデ	
	1169	Ⅰ	D-13	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	6.5	－	横ナデ	横ナデ	
	1170	Ⅲ	G-10	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	7.0	－	横ナデ	横ナデ	
	1171	Ⅱ	F-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	7.2	－	横ナデ	横ナデ	
	1172	－	G-10	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	8.4	－	横ナデ	横ナデ	
	1173	Ⅰ	D-13	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	精製	－	4.8	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1174	Ⅲ	G-10	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	精製	－	5.0	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1175	Ⅲa	G-10	土師器	皿	口縁部～底部	浅黄橙	精製	－	－	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1176	Ⅲa	F-10	土師器	耳皿	口縁部～底部	灰白	精製	9.0	4.4	3.0	横ナデ・ナデ	横ナデ・指頭痕	
	1177	表採	G-10	土師器	皿	口縁部～底部	浅黄橙	精製	9.6	5.5	1.9	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1178	Ⅲa	G-10	土師器	皿	口縁部～底部	にぶい黄橙	精製	9.0	4.4	1.3	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1179	－	－	土師器	皿	完形	にぶい黄橙	精製	9.2	4.8	1.6	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
第175図	1180	Ⅲa	F-11	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	7.5	－	横ナデ	ヘラミガキ	墨書・内黒
	1181	Ⅱ	F-11	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	－	－	横ナデ	横ナデ	内黒
	1182	Ⅲa	F-11	土師器	埦	口縁部～体部	浅黄橙	精製	13.9	－	－	横ナデ	ミガキ	内黒
	1183	Ⅲa	H-25	土師器	埦	口縁部～底部	淡黄	精製	16.6	6.8	5.7	ミガキ	ミガキ	両黒
	1184	Ⅱ	F-11	土師器	埦	口縁部～体部	浅黄橙	精製	17.3	－	－	横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ	内黒
	1185	Ⅲa	G-12	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	10.8	－	ミガキ後ナデ	ヘラミガキ	内黒
	1186	Ⅲa	F-11	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	6.3	－	横ナデ	ヘラミガキ	内黒
	1187	Ⅰ	G-10	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	9.7	－	横ナデ	ミガキ	内黒
	1188	表採	G-10	土師器	埦	底部	橙	精製	－	6.8	－	横ナデ	ミガキ	内黒
	1189	Ⅰ	G-10	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	7.8	－	横ナデ	ヘラミガキ	内黒
	1190	Ⅲa	H-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	6.8	－	横ナデ	ヘラミガキ	内黒
	1191	Ⅱ	G-11	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	横ナデ	ヘラミガキ	内黒
	1192	Ⅲa	F-11	土師器	埦	底部	にぶい黄橙	精製	－	8.2	－	横ナデ	ヘラミガキ	内黒
	1193	Ⅲa	F-10	土師器	埦	底部	灰白	精製	－	6.0	－	横ナデ	ヘラミガキ	内黒

第28表　古代土師器・須恵器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第175図	1194	Ⅲa	F-11	土師器	皿	胴部～底部	黒褐	精製	－	7.8	－	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	両黒
	1195	Ⅰ	F-10	土師器	皿	底部	浅黄	精製	－	6.8	－	ミガキ・横ナデ	ミガキ	内黒
	1196	Ⅲa	G-12	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	6.8	－	横ナデ･回転ヘラ切り	ミガキ	充実高台・内黒
第176図	1197	Ⅰ	G-10	土師器	埦	体部～底部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	横ナデ	横ナデ	内朱
	1198	Ⅲa	F-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	7.1	－	横ナデ	横ナデ	内朱
	1199	Ⅲa	F-11	土師器	埦	底部	浅黄橙	精製	－	7.1	－	横ナデ	横ナデ	内朱
	1200	表採	D-13	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	－	－	横ナデ	横ナデ	内朱
	1201	Ⅲa	G-11	土師器	埦	体部～底部	浅黄橙	精製	－	7.0	－	横ナデ	横ナデ	外朱
	1202	Ⅲ	G-10	土師器	鉢	胴部～底部	浅黄橙	精製	－	16.8	－	横ナデ	横ナデ	外朱
	1203	Ⅰ	G-8	土師器	紡錘車	完形	浅黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ナデ	外径5.5cm 内径0.7cm 厚さ0.8cm
	1204	Ⅲa	F-9	土師器	紡錘車	－	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ナデ	厚さ0.9cm
第177図	1205	P3	F-12	須恵器	蓋	天井部～口縁部	灰白	精緻	19.6	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1206	Ⅰ	G-10	須恵器	蓋	天井部	灰	精緻	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1207	－	C-13	須恵器	蓋	天井部～口縁部	灰	精緻	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1208	－	－	須恵器	蓋	完形	灰白	精緻	17.6	－	4.9	横ナデ 指頭痕 指頭ナデ	横ナデ 指頭ナデ	
	1209	Ⅰ	G-13	須恵器	蓋	天井部～口縁部	灰白	精緻	15.6	－	－	横ナデ	ナデ	
	1210	－	－	須恵器	蓋	完形	灰白	精緻	19.0	－	4.4	横ナデ	ナデ	
	1211	Ⅲa	G-11	須恵器	蓋	天井部	灰	精緻	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1212	Ⅰ	G-10	須恵器	皿	口縁部～底部	灰	精緻	13.8	11.2	1.5	横ナデ	横ナデ・ナデ	
	1213	溝	D-14	須恵器	坏	底部	灰	精緻	－	7.4	－	横ナデ	横ナデ・ナデ	
	1214	－	7T	須恵器	坏	底部	灰	精緻	－	8.4	－	横ナデ	横ナデ	高台付
	1215	Ⅰ	F-11	須恵器	坏	底部	淡黄	精緻	－	10.2	－	横ナデ	横ナデ	高台付
	1216	カクラン	F-10	須恵器	坏	底部	灰白	精緻	－	10.4	－	横ナデ	横ナデ	
	1217	表採	G-10	須恵器	坏	体部～底部	灰	精緻	－	11.2	－	横ナデ	横ナデ・指頭ナデ	高台付
	1218	表採	G-10	須恵器	坏	底部	灰	精緻	－	11.8	－	横ナデ	横ナデ	高台付
	1219	－	－	須恵器	坏	胴部～底部	灰	精緻	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1220	Ⅰ	G-10	須恵器	坏	体部～底部	灰	精緻	－	7.0	－	横ナデ･回転ヘラ切り	横ナデ	
	1221	表採	G-10	須恵器	坏	口縁部～体部	灰白	精緻	13.4	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1222	Ⅰ	E-14	須恵器	坏	口縁部～体部	灰白	精緻	13.4	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1223	Ⅰ	G-10	須恵器	坏	体部	灰	精緻	－	－	－	横ナデ	横ナデ・ナデ	
	1224	Ⅲa	F-10	須恵器	坏	高台部	灰	精緻	－	7.6	－	横ナデ	横ナデ	高台付
	1225	Ⅲa	G-12	須恵器	甕	口縁部	灰	精緻	19.8	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1226	Ⅲa	F-11	須恵器	甕	口縁部	黒	精緻	23.0	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1227	Ⅲa	G-10･11	須恵器	甕	口縁部	灰	精緻	18.4	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1228	表採	G-10	須恵器	甕	口縁部	黒褐	精緻	25.0	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1229	Ⅰ	F-14	須恵器	甕	肩部	灰白	精緻	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1230	Ⅰ	G-8	須恵器	甕	肩部	灰	精緻	－	－	－	平行タタキ	同心円･平行タタキ	
	1231	Ⅰ	F-10	須恵器	甕	肩部	にぶい黄褐	精緻	－	－	－	平行タタキ	同心円タタキ	
	1232	表採	G-10	須恵器	甕	肩部	浅黄	精緻	－	－	－	平行タタキ	同心円タタキ	

第29表　古代土師器・須恵器観察表(4)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第178図	1233	表採	−	須恵器	甕	胴部	にぶい褐	精緻	−	−	−	平行タタキ	同心円タタキ	
	1234	表採	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1235	Ⅰ	D-12	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	−	−	−	平行タタキ	同心円タタキ	
	1236	Ⅰ	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1237	Ⅰ	G-13	須恵器	甕	肩部	黒褐	精緻	−	−	−	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1238	Ⅲa	G-11	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1239	Ⅲa	F-12	須恵器	甕	肩部	灰オリーブ	精緻	−	−	−	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1240	Ⅰ	F-12	須恵器	甕	胴部	褐灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	平行・同心円タタキ	
	1241	表採	G-10	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1242	Ⅰ	G-10	須恵器	甕	胴部	にぶい黄褐	精緻	−	−	−	平行タタキ	平行タタキ	
	1243	Ⅲa	G-11	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	平行タタキ	平行タタキ	
	1244	Ⅰ	F-12	須恵器	甕	胴部	暗赤灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	平行タタキ	
第179図	1245	Ⅰ	G-10	須恵器	甕	胴部	黒褐	精緻	−	−	−	格子目タタキ	平行タタキ	
	1246	Ⅲa	G-11	須恵器	甕	胴部	オリーブ褐	精緻	−	−	−	平行タタキ	格子目タタキ	
	1247	Ⅱ	F-11	須恵器	甕	胴部	にぶい黄	精緻	−	−	−	平行タタキ	平行タタキ	
	1248	Ⅲa	G-12	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	−	−	−	平行タタキ	平行タタキ	
	1249	Ⅲa	G-12	須恵器	甕	胴部	黒褐	精緻	−	−	−	平行タタキ	平行タタキ	
	1250	Ⅲa	H-11	須恵器	甕	胴部	灰オリーブ	精緻	−	−	−	平行タタキ	平行タタキ	
	1251	Ⅰ	D-13	須恵器	壺	口縁部	灰	精緻	12.8	−	−	横ナデ	同心円タタキ・横ナデ	
	1252	Ⅰ	G-14	須恵器	壺	胴部	灰白	精緻	−	−	−	平行タタキ	ナデ・指頭痕	
	1253	Ⅰ	G-10	須恵器	壺	胴部	灰	精緻	−	−	−	横ナデ	横ナデ	

第30表　古代陶磁器観察表

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位遺構	胎土	釉(薬)	露胎	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第172図	1142	青磁	碗	F-11	Ⅲa	灰 含白色粒	灰黄	無	不	越	−	(7.3)	(2.1)	越州

第31表　古代石器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第161図	1104	軽石加工品	F-11	土坑１	軽石	59.7	26.7	13.2	5800.00	
第162図	1105	−	F-11	土坑１	安山岩	(20.6)	14.0	9.6	4800.00	
第163図	1108	石皿	E-14	土坑２	安山岩	(27.0)	37.8	13.0	20200.00	
第164図	1109	−	E-14	土坑２	凝灰岩	31.6	24.2	7.8	6000.00	
	1110	−	E-14	土坑２	凝灰岩	27.0	21.7	7.2	4200.00	

第32表　古代土坑観察表

挿図番号	土坑番号	時代	区	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	遺物	備考
第161図	1	古代	F-11	244.0	200.0	50.0	土師器（埦）・(充実高台・坏)	
第163図	2	古代	E-14	150.0	120.0	50.0	石皿	
第165図	3	古代	I-25	94.0	86.0	20.0	両黒土師器（坏）	
第166図	4	古代	J-25・26	200.0	60.0	46.0	内黒土師器・古銭10枚	
第168図	5	古代	J-25	70.0	60.0	8.0	−	

第33表　中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(1)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第189図	1266	曲輪a	I-31	土師質	擂鉢	口縁部	浅黄	精製	－	－	－	ナデ・指頭痕	ナデ	
第191図	1274	曲輪b	H-31	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	－	－	－	ナデ・指頭痕	ハケ	櫛万丈系
第200図	1282	大型円形土坑２	H-21	土師器	皿	口縁部～底部	橙	精製	12.0	7.4	2.3	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面と外面に煤付着
	1283	大型円形土坑２	H-21	土師器	皿	口縁部～底部	橙	精製	12.4	7.2	2.4	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1284	大型円形土坑２	H-21	土師質	捏鉢	口縁部	浅黄橙	精製	27.6	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1285	大型円形土坑２	H-21	須恵質	擂鉢	底部	黄灰	精緻	－	23.0	－	ヘラナデ	ケズリ・ハケ	
	1286	大型円形土坑２	H-21	土製品	鞴の羽口	－	褐灰	粗(砂粒混)	－	－	－	ナデ	ナデ	
	1290	大型円形土坑２	H-21	瓦質土器	擂鉢	底部	黒褐	精製	－	－	－	磨耗	磨耗	
第201図	1292	大型円形土坑２	H-21	瓦質土器	茶釜	口縁部～胴部	灰	精製	16.2	－	－	ナデ	ナデ・指頭痕	外面鍔下位下に煤付着・最大径32.0cm
	1293	大型円形土坑２	H-21	瓦質土器	茶釜	口縁部～胴部	にぶい黄橙	精製	16.0	－	－	ナデ	ナデ・指頭痕	外面鍔下位下に煤付着・最大径33.6cm
第202図	1294	大型円形土坑２	H-21	瓦質土器	羽釜	胴部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ハケ・ナデ	外面鍔下位下に煤付着・最大径29.6cm
	1295	大型円形土坑２	H-21	瓦質土器	羽釜	胴部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ナデ	最大径27.5cm
	1296	大型円形土坑２	H-21	瓦質土器	蓋	口縁部	灰	精製	15.0	－	1.2	ナデ	横ナデ	
第205図	1312	空堀及び土坑群	G-20	土師器	皿	体部～底部	橙	精製	－	8.0	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	底部と内面一部に煤付着
	1313	空堀及び土坑群	H-20	土師器	皿	底部	黄橙	精製	－	7.6	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	外面に煤付着
	1314	空堀及び土坑群	H-20	土師器	皿	底部	明赤褐	精製	－	8.4	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1315	空堀及び土坑群	H-20	土師器	皿	口縁部～底部	にぶい黄橙	精製	12.2	7.2	2.2	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1316	空堀及び土坑群	G-20	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	精製	－	6.8	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面と外面に煤付着
	1317	空堀及び土坑群	H-20	土師器	皿	口縁部～底部	灰黄褐	精製	12.4	8.2	2.8	横ナデ・糸切り後板ナデ	横ナデ	内面と口縁部に煤付着
	1318	空堀及び土坑群	G-20	土師器	皿	底部	橙	精製	－	6.6	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面一部と外面に煤付着
	1319	空堀及び土坑群	G-20	土師器	坏	底部	にぶい橙	精製	－	9.6	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1320	空堀及び土坑群	G-20	土師質	擂鉢	胴部	浅黄橙	精製	－	－	－	板ナデ・指頭痕	ナデ	
	1321	空堀及び土坑群	G-24	須恵質	擂鉢	胴部～底部	灰黄	精緻	－	11.9	－	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1323	空堀及び土坑群	G-20	瓦質土器	茶釜	胴部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ・指頭痕	ナデ	外面鍔下位下に煤付着
	1324	空堀及び土坑群	G-19	瓦質土器	不明	脚部	灰	精製	－	－	－	ナデ	ケズリ・横ナデ	
第209図	1350	空堀及び土坑群	G-20	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	－	－	－	格子目タタキ	同心円タタキ	
	1351	空堀及び土坑群	G-19	須恵器	埦	底部	灰	精緻	－	9.2	－	横ナデ	横ナデ・指頭ナデ	
第220図	1380	竪穴３	I-18	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰	精製	－	－	－	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1381	竪穴３	I-18	土師器	皿	口縁部～底部	にぶい橙	精製	8.0	5.6	2.0	横ナデ・糸切り	横ナデ	

第34表　中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(2)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第225図	1389	1号墓	F-11	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	11.8	7.4	2.6	横ナデ・糸切り	横ナデ	外面に煤付着
第230図	1399	土坑1	I-7	土師質	花鉢?火舎?	底部	橙	精製	−	−	−	ケズリ・ハケ・ミガキ	横ナデ	
第233図	1401	土坑3	F-14	土師質	擂鉢	口縁部	明褐灰	精製	−	−	−	ナデ・指頭痕	ハケ後ナデ	
	1402	土坑3	F-14	瓦質土器	不明	底部	にぶい黄橙	精製	−	27.0	−	ナデ	横ナデ	
第234図	1403	土坑9	I-16	土師器	坏	底部	橙	精製	−	6.0	−	横ナデ・糸切り	横ナデ	
第236図	1404	土坑24	H-18	土師器	坏	底部	橙	精製	−	9.4	−	横ナデ・糸切り	横ナデ	
第239図	1406	土坑48	I-26	土師質	擂鉢	口縁部（注口）	明赤褐	精製	−	−	−	横ナデ・指頭痕	横ナデ・ナデ・指頭痕	
	1407	土坑48	I-26	土師質	擂鉢	口縁部～胴部	浅黄橙	精製	28.6	−	−	横ナデ・指頭痕	ナデ	
第246図	1410	−	F-10	土師器	皿	完形	にぶい黄橙	精製	8.8	6.3	1.4	横ナデ・糸切り後板ナデ	横ナデ	
	1411	−	F-10	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	9.4	6.6	1.1	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1412	−	F-10	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	8.8	6.6	1.5	横ナデ・糸切り後板ナデ	横ナデ	
第248図	1413	不明遺構	H-27	土師器	坏	底部	橙	精製	−	6.8	−	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1414	不明遺構	H-27	土師器	坏	体部～底部	にぶい黄橙	精製	−	7.8	−	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面一部に煤付着
	1415	不明遺構	H-27	土師器	坏	底部	橙	精製	−	7.0	−	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1416	不明遺構	H-27	土師器	皿	完形	浅黄橙	精製	8.9	7.8	2.2	横ナデ・糸切り後板ナデ	横ナデ	外面と内面一部に煤付着
	1417	不明遺構	H-27	土師質	擂鉢	口縁部（注口）	浅黄橙	精製	30.3	−	−	横ナデ・指頭痕	ハケ	
	1418	不明遺構	H-27	土師質	捏鉢	口縁部	淡橙	精製	23.4	−	−	ナデ	ハケ	
	1419	不明遺構	H-27	須恵器	擂鉢	口縁部（注口）	灰	精緻	−	−	−	ナデ・指頭痕	ハケ・ナデ	
	1420	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1421	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1422	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1423	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1424	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1425	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1426	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1427	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	格子目タタキ	ハケ	樺万丈系
	1428	不明遺構	H-27	須恵器	甕	胴部	黄灰	精緻	−	−	−	ナデ	ハケ	樺万丈系

第35表　中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(3)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第250図	1441	Ⅲa	G-11	土師器	坏	口縁部～底部	にぶい橙	精製	14.4	9.2	3.7	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1442	－	F-14	土師器	坏	体部～底部	にぶい黄橙	精製	－	9.0	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1443	Ⅰ	G-13	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	7.0	－	横ナデ・糸切り後板ナデ	横ナデ	内面に煤付着
	1444	－	3T	土師器	坏	底部	浅黄	精製	－	6.6	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面と外面に煤付着
	1445	Ⅰ	H-28	土師器	坏	底部	淡黄	精製	－	9.2	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1446	－	H-18	土師器	坏	口縁部～底部	灰白	精製	11.2	9.2	3.2	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1447	－	H-28	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	7.4	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	両朱
	1448	Ⅰ	G-13	土師器	坏	口縁部～底部	浅黄橙	精製	11.8	9.6	2.2	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面に煤付着
	1449	Ⅲa	G-8	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	精製	－	8.8	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1450	Ⅰ	8T	土師器	坏	口縁部～底部	橙	精製	11.6	7.8	2.2	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1451	－	G-8	土師器	坏	体部～底部	浅黄橙	精製	－	10.4	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	外朱
	1452	Ⅰ	8T	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	－	7.8	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1453	Ⅲa	G-11	土師器	坏	口縁部～底部	にぶい黄橙	精製	12.6	10.0	3.3	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1454	Ⅰ	J-14	土師器	坏	口縁部～底部	浅黄橙	精製	11.0	7.0	2.5	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1455	－	F-10	土師器	Ⅲ	完形	浅黄橙	精製	8.8	6.8	1.3	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1456	Ⅲa	G-11	土師器	Ⅲ	口縁部～底部	橙	精製	7.8	5.3	1.3	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1457	－	G-8·9	土師器	Ⅲ	口縁部～底部	にぶい橙	精製	7.6	5.4	1.6	横ナデ・糸切り後板ナデ	横ナデ	見込みに煤付着
	1458	Ⅰ	G-13	土師器	Ⅲ	完形	橙	精製	7.3	5.2	2.5	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1459	Ⅰ	8T	土師器	Ⅲ	口縁部～底部	にぶい黄橙	精製	7.8	5.6	1.9	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1460	Ⅲa	G-9	土師器	Ⅲ	口縁部～底部	にぶい黄橙	精製	8.6	6.3	1.5	横ナデ・糸切り	横ナデ	
	1461	Ⅲ	G-10	土師器	Ⅲ	口縁部～底部	浅黄橙	精製	9.1	5.8	1.8	横ナデ・糸切り	横ナデ	
第251図	1462	－	G-11	カムイ焼	甕	口縁部	オリーブ黒	精製	－	－	－	横ナデ	横ナデ	
	1463	Ⅲa	F-11	須恵器	甕	胴部	オリーブ黒	精緻	－	－	－	格子目タタキ・指頭痕	タタキ	
	1464	Ⅰ	G-10	須恵器	甕	胴部	灰白	精緻	－	－	－	格子目タタキ	ナデ	
	1465	－	4T	須恵質	擂鉢	口縁部（注口）	灰黄	精緻	－	－	－	ハケ後ナデ	ハケ・ナデ	
	1466	Ⅰ	D-13	須恵質	擂鉢	口縁部～底部	灰白	精緻	33.0	14.6	9.9	ハケ後ナデ・指頭痕	ハケ	
	1467	Ⅰ	H-18	須恵器	擂鉢	底部	灰	精緻	－	－	－	ナデ・指頭痕	ハケ	

第36表　中世土師器・須恵器・瓦質土器等観察表(4)

挿図番号	遺物番号	層位・遺構	出土区	種類	器種	部位	色調	胎土	口径(cm)	底径(cm)(高台径)	器高(cm)	調整 外面・底部	調整 内面	備考
第252図	1468	I	G-14	土師質	擂鉢	口縁部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ハケ後ナデ	
	1470	表採	G-9	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰黄	精製	32.0	－	－	ナデ	ナデ	
	1471	I	J-28	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰黄	精製	－	－	－	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1472	I	H-28	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰白	精製	－	－	－	ナデ・指頭痕	ハケ	
	1473	I	J-20	瓦質土器	擂鉢	胴部	浅黄	精製	－	－	－	ナデ・指頭痕	ナデ	
	1474	I	D-13	瓦質土器	擂鉢	口縁部	黄灰	精製	－	－	－	ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ	
	1475	－	G-13	瓦質土器	擂鉢	口縁部	灰白	精製	－	－	－	ケズリ後ナデ・指頭痕	ナデ	
	1476	表採	－	瓦質土器	擂鉢	底部	浅黄	精製	－	13.0	－	ナデ・指頭痕	ナデ	
第253図	1477	－	G-13	瓦質土器	茶釜	胴部	オリーブ黒	精製	－	－	－	ハケ	ナデ・指頭痕	外面鍔下位下に煤付着・最大径28.4cm
	1478	表採	－	瓦質土器	茶釜	胴部	灰黄	精製	－	－	－	ハケ	ハケ	外面鍔下位下に煤付着
	1479	I	G-14	瓦質土器	茶釜	胴部	灰黄褐	精製	－	－	－	ハケ	ハケ後ナデ	外面鍔下位下に煤付着
	1480	I	J-20	瓦質土器	羽釜	胴部	暗灰黄	精製	－	－	－	ナデ	ハケ・ナデ	外面鍔下位下に煤付着
	1481	I	G-14	瓦質土器	火舎	口縁部～胴部	にぶい黄橙	精製	－	－	－	ナデ・ハケ状のナデ	ナデ・ハケ状のナデ	
	1482	I	G-14	瓦質土器	火舎	口縁部	浅黄	精製	－	－	－	ナデ	ミガキ後ナデ	突帯Ｓ字状沈線
	1483	I	G-14	瓦質土器	火舎	底部	灰	精製	－	－	－	ミガキ後ナデ	ナデ	
	1484	I	G-14	瓦質土器	火舎	口縁部	黄灰	精製	－	－	－	ミガキ後ナデ	ナデ	
	1485	I	G-13	瓦質土器	壷	口縁部	灰	精製	16.6	－	－	ナデ	ヘラミガキ	
第254図	1486	I	G-14	瓦質土器	不明	脚部	オリーブ黒	精製	－	－	－	ミガキ・ナデ	ケズリ	
	1487	I	G-14	瓦質土器	不明	胴部	黄灰	精製	－	－	－	ミガキ後ナデ	ナデ	
	1488	表採	D-13	瓦質土器	不明	不明	黒褐	精製	－	6.5	－	不明	不明	
	1489	－	D-12	土師器	土鍋	口縁部～底部	浅黄橙	精製	28.0	13.6	6.5	横ナデ	横ナデ	中世末
	1490	表採	D-14	土師質	鉢	底部	浅黄橙	精製	－	－	－	横ナデ・糸切り	横ナデ	内面に煤付着
	1491	－	G-10	土製品	鞴の羽口	－	にぶい黄褐	含砂粒	－	－	－	ナデ・指頭痕	ナデ	最大長7.9cm最大幅5.6cm厚さ2.5cm
	1492	曲輪a	H-31	土製品	土錘	完形	浅黄橙	精製	－	－	－	ナデ	ナデ	最大長6.3cm外径4.2cm内径1.6cm
	1493	－	－	陶質	壷	口縁部～胴部	灰白	精製	14.0	－	－	横ナデ	横ナデ	

第37表　中世陶磁器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉（薬）	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第200図	1287	陶器	擂鉢	H-21	大型円形土坑２	茶褐	灰赤	良	備前	－	－	－	
	1288	陶器	擂鉢	H-21	大型円形土坑２	茶褐	灰赤	良	備前	(27.0)	－	－	
	1289	陶器	擂鉢	H-21	大型円形土坑２	茶褐	暗赤褐	良	備前	(27.0)	－	－	
	1291	陶器	甕	H-21	大型円形土坑２	暗灰・含黒色粒	暗赤褐	良	常滑	－	－	－	
第204図	1304	白磁	皿	H-21	大型円形土坑２	淡黄・含白色粒	灰白	良	中国	(10.2)	－	(2.0)	
	1305	青磁	碗	H-21	大型円形土坑２	浅黄橙・含白色粒	浅黄	やや良	龍泉系	－	6.6	(4.8)	
	1306	青磁	碗	H-21	大型円形土坑２	黄灰・含黒色粒	緑灰	良	龍泉系	－	5.4	(2.6)	
	1307	青花	皿	H-21	大型円形土坑２	灰白・含黒・白色粒	明青灰	良	景徳鎮	(9.8)	2.9	2.7	
	1308	陶器	天目碗	H-21	大型円形土坑２	灰・含白色粒	黒褐	良	美濃	－	－	(2.9)	
	1309	陶器	壺	H-21	大型円形土坑２	灰白・含白色粒	灰白	良	瀬戸	－	－	(5.3)	
	1310	青磁	皿	H-21	大型円形土坑２	灰白・含黒・白色粒	灰白	良	朝鮮王朝	(12.0)	(4.6)	3.3	
	1311	青磁	皿	H-21	大型円形土坑２	灰白・含黒・白色粒	灰白	良	朝鮮王朝	(12.0)	－	(3.0)	
第206図	1322	陶器	擂鉢	G-20	空堀及び土坑群	にぶい赤褐	灰黄褐	良	備前	－	－	－	
	1326	青磁	碗	G-20	空堀及び土坑群	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.8)	
	1328	青磁	碗	I-22	空堀及び土坑群	灰白	オリーブ灰	良	龍泉系	(12.6)	－	(5.8)	
	1329	青磁	碗	H-20	空堀及び土坑群	灰白	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.9)	
	1330	青磁	碗	G-20	空堀及び土坑群	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	－	(2.9)	
	1331	青磁	碗	G-20	空堀及び土坑群	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(13.0)	－	(4.9)	
	1332	青磁	碗	I-22	空堀及び土坑群	灰白・含黒色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	－	6.0	(3.6)	
	1333	青磁	皿	H-20	空堀及び土坑群	灰白・含黒・白色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	(14.0)	－	(2.7)	
	1334	白磁	碗	G-20	空堀及び土坑群	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(4.2)	
	1335	青花	皿	H-20	空堀及び土坑群	浅黄橙・含白・黒色粒	浅黄	やや不	漳州	－	5.7	(2.3)	
	1336	青花	皿	G-20	空堀及び土坑群	灰・含黒色粒	灰オリーブ	良	漳州	(9.8)	(5.1)	(2.4)	
第207図	1337	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	暗赤褐	良	常滑	－	－	－	
	1338	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	にぶい赤褐	良	常滑	－	－	－	
	1339	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	灰黄褐	良	常滑	－	－	－	
	1340	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	灰褐	良	常滑	－	－	－	
	1341	陶器	甕	G-19	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	褐	良	常滑	－	－	－	
	1342	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	暗赤褐	良	常滑	－	－	－	
	1343	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	にぶい赤褐	良	常滑	－	－	－	
	1344	陶器	甕	G-19	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	赤褐	良	常滑	－	－	－	
第208図	1345	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	オリーブ黒	良	常滑	－	－	－	
	1346	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	暗赤褐	良	常滑	－	－	－	
	1347	陶器	甕	G-20	空堀及び土坑群	暗灰・含黒色粒	オリーブ黄	良	常滑	－	－	－	
	1348	陶器	大甕	G-20	空堀及び土坑群	褐灰	無	良	常滑	－	22.0	－	
第209図	1349	陶器	甕	I-21･22	空堀及び土坑群	にぶい黄橙・含白・黒・赤褐色粒	黒	良	中国南部	－	－	(11.7)	
第220図	1382	青磁	碗	I-18	竪穴３	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.0)	
第233図	1400	白磁	皿	F-14	土坑３	淡黄	黄灰白	良	中国	11.4	－	－	

第38表　中世陶磁器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉（薬）	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第246図	1408	青磁	碗	F-10	－	灰	灰オリーブ	良	龍泉系	15.8	5.7	6.6	
	1409	青磁	碗	F-10	－	灰	緑灰	良	龍泉系	15.9	5.7	6.7	
第249図	1429	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(12.0)	－	(4.2)	
	1430	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.2)	
	1432	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(11.6)	－	(2.6)	
	1433	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(17.2)	－	(5.0)	
	1434	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(11.6)	－	(3.0)	
	1435	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	5.2	(4.4)	
	1436	青磁	小型盤	H-27	不明遺構	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(11.6)	－	(2.1)	
	1437	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	灰白	良	龍泉系	－	5.8	(2.1)	
	1438	青磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒・白色粒	明緑灰	良	龍泉系	－	(5.0)	(2.4)	
	1439	白磁	碗	H-27	不明遺構	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(2.6)	
	1440	陶器	碗	H-27	不明遺構	灰白・灰黄・微細黒色粒	黒褐	良	美濃	(10.2)	－	(2.9)	
第252図	1469	陶器	擂鉢	J-20	P4	赤褐・含白色粒	赤灰	良	備前	－	(14.0)	－	
第256図	1498	青磁	碗	5T	－	灰・含白色粒	灰	良	朝鮮	(18.2)	5.0	5.9	
	1499	青磁	Ⅲ	D-13	表採	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	同安系	－	(4.3)	(1.1)	
	1500	青磁	Ⅲ	H-8	Ⅱ	灰白・含白・黒色粒	灰白	良	同安系	－	(5.7)	(0.9)	
	1501	青磁	Ⅲ	H-7	Ⅰ	灰白・微細黒色粒	灰白	良	同安系	－	－	(2.6)	
	1502	青磁	Ⅲ	G-8	－	灰	灰オリーブ	良	同安系	－	(4.5)	(1.3)	
第257図	1503	青磁	碗	G-11	Ⅲa	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(2.7)	
	1504	青磁	碗	G-10	Ⅲa	灰黄	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.5)	
	1505	青磁	碗	F-16	Ⅰ	灰色	灰オリーブ	良	龍泉系	－	－	(3.0)	
	1506	青磁	碗	E-13	Ⅰ	灰白・含黒色・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(4.5)	
	1507	青磁	碗	F-14	Ⅰ	灰・含白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(16.6)	－	(4.2)	
	1508	青磁	碗	F-11	P32	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(14.0)	－	(4.2)	
	1509	青磁	碗	G-13	－	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.5)	
	1510	青磁	碗	－	曲輪a	灰白	明オリーブ灰	良	龍泉系	(12.4)	－	(4.7)	
	1511	青磁	碗	E-12	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	－	(3.8)	
	1512	青磁	碗	D-13	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	－	(2.1)	
	1513	青磁	碗	－	表採	灰白・含黒色粒	明緑灰	良	龍泉系	(13.8)	－	(3.3)	
	1514	青磁	碗	－	表採	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(15.0)	－	(5.1)	
	1515	青磁	碗	G-13	Ⅰ	褐・含白色粒	灰白	不	龍泉系	(13.7)	－	(6.6)	
	1516	青磁	碗	8T	Ⅰ	灰白	オリーブ灰	良	龍泉系	(14.2)	－	(3.6)	
	1517	青磁	碗	－	表採	灰黄	オリーブ灰	良	龍泉系	(13.6)	－	(3.4)	
	1518	青磁	碗	F-16	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(13.6)	－	(4.9)	
第258図	1519	青磁	碗	G-13	Ⅰ	灰・含白色粒	灰白	良	龍泉系	(14.0)	4.7	6.2	
	1520	青磁	碗	J-21	P4	灰黄・含白色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	(13.4)	－	(5.3)	
	1521	青磁	碗	G-13	Ⅰ	灰・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(2.8)	

第39表　中世陶磁器観察表(3)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉（薬）	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第258図	1522	青磁	碗	F-12	Ⅰ	灰白・含白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.6)	
	1523	青磁	碗	I-18	Ⅰ	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(15.8)	－	(4.3)	
	1524	青磁	碗	F-12	Ⅰ	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(14.8)	－	(4.3)	
	1525	青磁	碗	F-14	土坑３	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(4.2)	
	1526	青磁	碗	－	曲輪a	灰・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(13.0)	－	(3.9)	
	1527	青磁	碗	－	表採	灰白・含黒・白色粒	明緑灰	良	龍泉系	－	(6.5)	(2.9)	
	1528	青磁	碗	H-11	Ⅲa	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	(6.4)	(2.6)	
第259図	1529	青磁	碗	G-8	Ⅰ	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	(6.0)	(2.2)	
	1530	青磁	碗	I-21	Ⅰ	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	6.0	(2.4)	
	1531	青磁	碗	D-13	Ｐ１	灰白・含白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	5.3	(2.6)	
	1532	青磁	碗	G-13	－	やや褐色・含白・赤・黒色粒	緑灰	良	龍泉系	－	(5.0)	(3.7)	
	1533	青磁	碗	H-26	－	灰白・含黒・白色粒	灰	良	龍泉系	－	2.7	(1.7)	
	1534	青磁	Ⅲ	－	表採	灰・含黒色粒	緑灰	良	龍泉系	(11.6)	4.9	3.4	
	1535	青磁	Ⅲ	G-13	Ⅰ	灰黄・含黒・白色粒	緑灰	やや不	龍泉系	(13.4)	－	(1.9)	
	1536	青磁	Ⅲ	－	表採	灰白・含黒・白色粒	明オリーブ灰	良	龍泉系	(12.8)	(6.6)	2.8	
	1537	青磁	Ⅲ	G-12	Ⅰ	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(2.3)	
	1538	青磁	Ⅲ	G-12	Ⅲa	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	やや良	龍泉系	(12.0)	－	(2.0)	
第260図	1539	青磁	Ⅲ	G･F-12	Ⅲ	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	やや良	龍泉系	(13.0)	－	(1.8)	
	1540	青磁	Ⅲ	G-12	Ⅰ	灰白・含黒・白色粒	オリーブ灰	やや不	龍泉系	(13.0)	－	(15.5)	
	1541	青磁	Ⅲ	G-9	表採	灰白・含黒・白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(13.4)	－	(2.5)	
	1542	青磁	Ⅲ	E-13	Ⅰ	浅黄橙・含黒・白色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	(4.8)	(1.3)	
	1543	青磁	Ⅲ	－	空堀１	浅黄・含黒色粒	緑灰	良	龍泉系	－	5.4	(2.2)	
	1544	青磁	碗	H-18	Ⅲa	灰白・含黒色粒	緑灰	良	龍泉系	－	5.0	(2.0)	
	1545	青磁	碗	－	表採	灰白・含赤褐色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	5.0	(2.2)	
	1546	青磁	碗	G-13	－	浅黄橙・灰白・含白色粒	灰白	やや良	龍泉系	－	6.1	(1.9)	
	1547	青磁	碗	D-14	表採	灰白・含白色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	－	5.5	(1.9)	
	1548	青磁	大型香炉	G-13	Ⅰ	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	－	－	(3.5)	
	1549	青磁	盤	3T	－	灰白・含黒色粒	オリーブ	良	龍泉系	(16.2)	－	(2.6)	
	1550	青磁	Ⅲ	F-12	Ⅰ	灰白・含黒色粒	オリーブ灰	良	龍泉系	(10.8)	－	(2.1)	
	1551	青磁	Ⅲ	H-19	Ⅲa	灰白・含黒色粒	灰オリーブ	良	龍泉系	(11.6)	－	(2.1)	
第261図	1552	青磁	Ⅲ	G-13	Ⅰ	灰・含黒色粒	灰白	良	中国	(11.3)	(6.1)	(2.9)	
	1553	青磁	Ⅲ	F-12	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰	良	龍泉系	(12.0)	－	(1.9)	
	1554	青磁	Ⅲ	G-13	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰	良	龍泉系	(11.4)	－	(2.8)	
	1555	青磁	Ⅲ	D-13	P5	灰色・含黒色粒	灰	良	龍泉系	－	5.8	(1.7)	
第262図	1556	白磁	碗	G-8	Ⅲa	灰色・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(3.8)	
	1557	白磁	碗	K-28	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(16.4)	－	(2.8)	
	1558	白磁	碗	F-17	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(2.1)	
	1559	白磁	碗	H-26	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(3.3)	

第40表　中世陶磁器観察表(4)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉（薬）	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第262図	1560	白磁	碗	3T	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(1.6)	
	1561	白磁	碗	7T	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(2.6)	
	1562	白磁	碗	F-10	Ⅲa	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(16.4)	－	(3.4)	
	1563	白磁	碗	H-8	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(16.0)	－	(3.7)	
	1564	白磁	碗	D-13	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(14.2)	－	(2.7)	
	1565	白磁	碗	G-11	Ⅲ	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(3.5)	
	1566	白磁	碗	H-8	Ⅲa	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(17.2)	－	(3.2)	
	1567	白磁	坏	3T	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(10.6)	－	(2.4)	
	1568	白磁	皿	－	表採	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(9.7)	(4.6)	2.1	多角
	1569	白磁	皿	G-13	Ⅰ	灰白・含褐色粒	灰白	良	中国	(9.3)	(4.3)	(2.1)	多角
	1570	白磁	小碗	D-13	Ⅰ	灰・含黒色粒	灰白	良	中国	－	(5.6)	(2.9)	多角
	1571	白磁	小碗	D-13	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	－	－	(2.8)	多角
	1572	白磁	小碗	D-13	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	不明	－	－	(1.9)	多角
第263図	1573	白磁	坏	D-12	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	中国	(11.2)	(5.8)	(3.1)	
	1574	白磁	坏	8T	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	景徳鎮	(11.4)	－	(2.0)	
	1575	白磁	坏	9T	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	景徳鎮	(13.0)	－	(1.8)	
	1576	白磁	坏	D-12	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	景徳鎮	－	－	(3.1)	
	1577	白磁	皿	D-13	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰白	良	不明	－	(4.1)	(1.7)	
	1578	白磁	碗	D-13	Ⅰ	浅黄橙・含黒色粒	灰白	良	不明	－	－	(1.6)	
	1579	白磁	菊花皿	D-13	Ⅰ	灰白・含微砂粒	灰白	不	志野	(7.2)	(4.0)	(2.1)	
第264図	1580	青花	碗	D-13	－	灰白	灰白	良	景徳鎮	(10.4)	－	(3.6)	
	1581	青花	碗	D-13	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	景徳鎮	(11.4)	－	(4.2)	
	1582	青花	碗	D-13	－	灰白	灰白	良	景徳鎮	(11.5)	－	(3.7)	
	1583	青花	碗	D-13	Ⅰ	灰白	灰白	良	景徳鎮	(11.7)	－	(4.5)	
	1584	青花	碗	D-13	－	灰白	灰白	良	景徳鎮	(10.4)	－	(4.9)	
	1585	青花	碗	D-13	－	灰白・含黒色粒	灰白	良	波佐見	(9.5)	(4.7)	(5.1)	
	1586	青花	碗	H-13	Ⅰ	灰白	灰白	良	景徳鎮	(12.8)	－	(3.8)	
	1587	青花	皿	8T	－	灰白	明青灰	良	不明	－	(6.7)	(3.2)	
	1588	青花	碗	F-12	Ⅰ	灰白	明緑灰	良	景徳鎮	－	(4.0)	(2.8)	
	1589	青花	碗	9T	－	灰白	灰白	良	景徳鎮	－	(2.8)	(1.0)	
第265図	1590	青花	盤	8T	Ⅰ	灰白	灰白	良	景徳鎮	(21.8)	－	(2.6)	
	1591	青花	皿	3T	－	灰白	灰白	やや良	景徳鎮	(9.8)	(3.1)	2.6	
	1592	青花	皿	E-13	Ⅰ	灰白	灰白	良	景徳鎮	(13.8)	(7.6)	(2.7)	
第266図	1593	青花	碗	－	表採	褐色・含白色粒	淡黄	良	漳州	(12.3)	(5.1)	(4.7)	
	1594	青花	碗	F-12	Ⅰ	灰白・含白・赤色粒	灰白	良	漳州	－	－	(3.9)	
	1595	染付	碗	8T	－	灰白	灰白	良	漳州	－	－	(2.7)	
	1596	青花	碗	F-12	Ⅰ	灰色・含赤色粒	灰白	良	漳州	(11.5)	－	(2.8)	
	1597	青花	碗	－	表採	灰・含黒色粒	明緑灰	良	漳州	－	(4.5)	(2.4)	
	1598	青花	碗	F-12	Ⅰ	褐	灰白	良	漳州	－	(5.3)	(2.4)	

第41表　中世陶磁器観察表(5)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位・遺構	胎土	釉（薬）	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第267図	1600	青花	Ⅲ	F-12	Ⅰ	灰色	明緑灰	良	漳州	(10.5)	(5.0)	(2.2)	
	1601	青花	Ⅲ	D-12	P6	灰	灰白	良	漳州	(8.9)	(4.7)	(2.8)	
	1602	青花	碗	－	表採	灰	明緑灰	良	漳州	－	(5.2)	(2.0)	
	1603	青花	Ⅲ	F-12·13	Ⅰ	浅黄橙・含黒色粒	灰白	やや良	漳州	－	(4.7)	(2.4)	
	1604	青花	Ⅲ	F-12	Ⅰ	灰褐色・含黒色粒	灰	良	漳州	(10.0)	(4.0)	(3.0)	
	1605	青花	Ⅲ	9T	Ⅰ	浅黄橙・含白色粒	灰白	やや良	漳州	－	(3.9)	(2.1)	
	1606	青花	Ⅲ	I-20	－	灰・含黒色粒	灰オリーブ	良	漳州	(9.3)	(4.6)	(2.8)	
	1607	青花	Ⅲ	D-13	Ⅰ	灰白	灰白	良	漳州	－	－	(3.6)	
第268図	1608	陶器	壷	F-9	Ⅲa	灰・含白・黒色粒	灰白	やや不	中国南部	(7.0)	－	(2.3)	
	1609	陶器	壷	G-9	Ⅲa	灰・含白・黒色粒	灰オリーブ	やや不	中国南部	－	－	(2.3)	
	1610	陶器	壷	F-11	Ⅲa	灰・含白色粒	オリーブ黄	良	中国南部	(10.9)	－	(3.4)	
	1611	陶器	壷	F-8	Ⅰ	灰・白・浅黄・含白色粒	灰オリーブ	やや不	中国南部	－	－	(4.2)	
	1612	陶器	水注	8T	Ⅰ	灰黄・含褐・黒色粒	淡黄	良	中国南部	－	－	(2.3)	
	1613	陶器	壷	8T	Ⅰ	黄灰・含白・黒色粒	黒褐	良	中国南部	－	－	(2.8)	
	1614	陶器	壷	－	柱穴	黄灰・含白・黒色粒	暗赤褐	良	中国南部	(11.6)	－	－	
	1615	陶器	壷	8T	Ⅰ	灰白・含白色粒	黒褐	良	中国南部	(12.0)	－	(4.3)	
	1616	陶器	甕	8T	Ⅰ	灰・含白色粒	黒褐	良	中国南部	－	－	(6.4)	
	1617	陶器	鉢	I-27	－	灰褐・含白色粒	黄褐	良	中国南部	(22.0)	－	(6.5)	
第269図	1618	陶器	擂鉢	J-17	P1	暗灰	暗紫灰	良	東播系	(24.6)	－	－	
	1619	陶質	壷	E-13	Ⅰ	灰白・含黒色粒	灰	良	－	(19.8)	－	－	
	1620	陶質	壷	E-13	Ⅰ	灰白	灰白	良	不明	(19.8)	－	－	
第270図	1621	陶器	天目碗	F-10	－	暗灰褐色・含白色粒	黒・褐	良	中国	－	(3.3)	(3.8)	
	1622	陶器	天目碗	H-29	Ⅰ	浅黄・含白・黒色粒	黒褐	良	美濃	(12.0)	－	(3.9)	
	1623	陶器	天目碗	－	表採	灰黄・含黒色粒	黒褐	良	美濃	－	－	(2.7)	
	1624	陶器	天目碗	G·H-10	Ⅰ	にぶい黄橙・含白・黒色粒	黒褐	良	美濃	(10.2)	－	(4.3)	
	1625	陶器	天目碗	－	表採	灰・含白・黒色粒	灰褐	良	美濃	－	－	(2.6)	
	1626	陶器	天目碗	H-18	Ⅰ	灰・含白・黒色粒	にぶい褐	良	美濃	－	(3.9)	(1.5)	
	1627	陶器	天目碗	－	表採	灰・含白色粒	暗褐	良	美濃	－	3.8	(1.0)	

第42表　中世石器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層位・遺構	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第186図	1254	磨石	－	空堀１	砂岩	11.8	4.4	3.6	304.35	
	1255	石皿	－	空堀１	砂岩	7.8	6.5	2.4	182.50	
	1256	磨石	－	空堀１	砂岩	9.0	8.0	2.9	317.06	
	1257	磨石・凹石	－	空堀１	砂岩	12.1	10.8	5.3	1035.00	
	1258	凹石	－	空堀１	砂岩	10.8	10.5	5.1	860.00	
第187図	1259	磨石	－	空堀１	安山岩	9.9	6.2	4.9	430.00	
	1260	磨石	－	空堀１	砂岩	10.6	7.6	4.2	585.00	
	1261	磨石	－	空堀１	砂岩	10.2	8.5	5.9	720.00	
	1262	磨石	－	空堀１	砂岩	11.2	9.1	6.5	980.00	
第188図	1263	投弾	－	空堀１	砂岩	14.4	12.0	7.8	1800.00	
	1264	磨石	－	空堀１	砂岩	12.3	9.2	7.2	1120.00	
	1265	投弾	－	空堀１	安山岩	17.2	13.4	7.5	2400.00	
第189図	1267	磨石	－	曲輪a	砂岩	7.5	5.8	4.0	259.83	
	1268	投弾	－	曲輪a	砂岩	12.5	10.1	6.7	1140.00	
	1269	磨石	－	曲輪a	砂岩	10.1	8.7	4.5	595.00	
	1270	投弾	－	曲輪a	安山岩	13.1	10.8	5.8	1260.00	
第190図	1271	投弾	－	曲輪a	安山岩	12.2	11.3	8.4	1610.00	
	1272	投弾	－	曲輪a	安山岩	14.2	11.6	9.4	2200.00	
	1273	石皿	－	曲輪a	砂岩	(17.7)	(10.7)	7.6	2000.00	
第191図	1275	投弾	－	曲輪b	安山岩	(8.1)	(5.2)	6.9	324.99	
	1276	磨石	－	曲輪b	砂岩	10.1	7.5	5.4	570.00	
	1277	凹石	－	曲輪b	砂岩	6.2	5.7	2.2	137.36	
	1278	投弾	－	曲輪b	安山岩	12.3	9.7	5.7	990.00	
	1279	磨石	－	曲輪b	砂岩	11.8	7.9	4.6	570.00	
第192図	1280	投弾	－	曲輪c	砂岩	(7.5)	13.4	8.0	980.00	
	1281	スクレイパー	－	曲輪c	頁岩	8.3	2.4	6.5	16.79	
第202図	1297	磨石	H-21	大型円形土坑２	砂岩	6.7	4.2	3.8	153.26	
	1298	磨石	H-21	大型円形土坑２	砂岩	9.5	7.2	3.3	345.00	
	1299	磨石	H-21	大型円形土坑２	安山岩	11.1	6.5	5.3	580.00	
第203図	1300	磨石	H-21	大型円形土坑２	砂岩	10.4	7.5	6.2	670.00	
	1301	磨石	H-21	大型円形土坑２	砂岩	9.3	7.2	6.2	635.00	
	1302	磨石	H-21	大型円形土坑２	砂岩	9.7	6.3	5.2	440.00	
	1303	磨製石斧	H-21	大型円形土坑２	砂岩	12.1	5.4	3.1	340.11	
第209図	1352	磨製石斧	G-20	空堀および土坑群	安山岩	13.3	6.1	4.0	399.10	
第210図	1353	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	8.6	8.6	7.2	680.00	
	1354	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	9.4	6.8	5.0	465.00	
	1355	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	8.5	6.3	5.2	400.00	
	1356	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	9.1	8.7	4.1	470.00	
	1357	磨石	G-20	空堀および土坑群	砂岩	10.2	6.8	3.9	400.00	
第211図	1358	投弾	H-20	空堀および土坑群	砂岩	10.1	7.0	3.7	350.00	
	1359	磨石	H-21	空堀および土坑群	砂岩	10.5	6.5	5.0	498.00	
	1360	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	11.2	9.1	6.4	915.00	
	1361	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	10.3	8.7	5.5	800.00	
第212図	1362	投弾	F-21	空堀および土坑群	砂岩	12.4	10.1	9.1	1485.00	
	1363	投弾	H-20	空堀および土坑群	安山岩	10.6	9.5	6.0	840.00	
	1364	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	10.8	9.1	7.5	1020.00	
	1365	投弾	H-20	空堀および土坑群	砂岩	11.2	7.2	4.9	595.00	
第213図	1366	磨石	I-22	空堀および土坑群	砂岩	10.8	9.0	4.8	695.00	
	1367	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	10.8	8.6	4.6	620.00	
	1368	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	8.8	7.8	5.7	590.00	
	1369	敲石	G-20	空堀および土坑群	安山岩	(6.9)	7.8	3.2	350.00	
第214図	1370	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	10.9	9.9	6.0	880.00	
	1371	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	12.5	9.1	6.3	980.00	
	1372	磨石	F-21	空堀および土坑群	砂岩	12.3	9.8	5.7	1040.00	
	1373	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	10.5	8.3	6.4	810.00	
第215図	1374	投弾	G-20	空堀および土坑群	安山岩	17.5	12.4	8.1	2600.00	
	1375	磨石	F-21	空堀および土坑群	安山岩	7.8	5.9	2.7	204.56	
	1376	投弾	I-22	空堀および土坑群	砂岩	20.0	(8.3)	10.5	2600.00	
第216図	1377	投弾	G-20	空堀および土坑群	砂岩	(14.7)	(10.1)	9.9	2200.00	
	1378	凹石	F-21	空堀および土坑群	砂岩	8.5	8.4	(4.1)	480.00	
	1379	凹石	－	空堀１	砂岩	15.9	12.8	7.1	1785.00	
第222図	1383	投弾	H-10	曲輪３	安山岩	16.5	16.8	15.3	6000.00	
	1384	投弾	－	曲輪３	安山岩	13.5	11.4	9.6	2000.00	
第223図	1385	投弾	H-9	曲輪３	砂岩	15.0	13.4	11.0	3000.00	煤付着
	1386	投弾	H-9	曲輪３	砂岩	16.1	13.8	8.5	3000.00	煤付着
第224図	1387	投弾	H-9	曲輪３	安山岩	15.3	12.8	10.1	2800.00	
	1388	投弾	－	曲輪３	安山岩	17.4	13.0	7.5	2200.00	
第239図	1405	軽石加工品	I-26	土坑47	滑石	－	－	0.9	42.39	
第255図	1494	石鍋	G-10	Ⅲa	滑石	－	－	1.0	108.58	口径21.0cm
	1495	石鍋	－	４号住居	滑石	－	－	1.3	87.80	
	1496	石鍋	G-19	Ⅱ	滑石	－	－	2.1	339.72	
	1497	石鍋	G-11	Ⅲa	滑石	－	－	1.5	187.30	口径27.2cm

第43表　中世土坑観察表

挿図番号	番号	区	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	遺物	備考
第230図	1	I-7	330.0	80.0	22.0	花鉢？火舎？	
第231図	2	I-7	170.0	120.0	16.0	－	
第232図	3	F-14	430.0	240.0	50.0	瓦質・土師質（擂鉢）	
第234図	4	I-16	106.0	86.0	36.0	－	
	5	I-16	190.0	80.0	130.0	－	
	6	I-16	84.0	74.0	12.0	－	
	7	I-16	130.0	32.0	60.0	－	
	8	I-16	64.0	56.0	20.0	－	
	9	I-16	130.0	90.0	56.0	土師器（坏）	
第235図	10	I-16	280.0	140.0	80.0	－	
	11	I-16	106.0	80.0	70.0	－	
	12	I-17	84.0	54.0	18.0	－	
	13	I-17	114.0	70.0	60.0	－	
	14	I-17	120.0	90.0	20.0	－	
	15	I-17	100.0	66.0	50.0	－	
	16	I-17	114.0	100.0	68.0	－	
第236図	17	I-17	80.0	24.0	58.0	－	
	18	I-17	68.0	24.0	30.0	－	
	19	I-17	106.0	50.0	96.0	－	
	20	J-17	96.0	36.0	20.0	－	
	21	H-18	90.0	80.0	30.0	－	
	22	H-18	64.0	34.0	50.0	－	
	23	H-18	84.0	24.0	60.0	－	
	24	H-18	106.0	30.0	74.0	土師器（坏）	
	25	H-18	82.0	70.0	30.0	－	
第237図	26	I-18	120.0	50.0	56.0	－	
	27	I-18	68.0	54.0	50.0	－	
	28	I-18	108.0	24.0	70.0	－	
	29	J-18	120.0	76.0	80.0	－	
	30	H-19	96.0	84.0	46.0	－	
	31	H-19	112.0	50.0	84.0	－	
	32	H-19	100.0	70.0	40.0	－	
	33	H-19	68.0	58.0	18.0	－	
	34	H-19	74.0	70.0	20.0	－	
	35	H-19	66.0	58.0	34.0	－	
第238図	36	H-19	84.0	70.0	34.0	－	
	37	H-19	114.0	34.0	22.0	－	
	38	I-19	184.0	94.0	50.0	－	
	39	I-21	106.0	44.0	80.0	－	
	40	I-21	144.0	90.0	70.0	－	
	41	H-25	100.0	84.0	30.0	－	
	42	I-25	180.0	118.0	120.0	－	
	43	I-25	110.0	90.0	26.0	－	
第239図	44	H-26	140.0	90.0	66.0	－	
	45	H-26	106.0	66.0	20.0	－	
	46	I-26	90.0	80.0	24.0	－	
	47	I-26	110.0	100.0	34.0	滑石加工品	
	48	I-26	106.0	50.0	30.0	土師質（擂鉢）	
	49	J-26	70.0	50.0	20.0	－	

第44表　古代・中世出土銭貨観察表(1)

挿図番号	遺物番号	出土区	層位遺構	銭貨名	時代	初鋳年年	径cm	重さg	備考
第167図	1113	J-25・26	土坑４	開元通寶	唐	621	2.30	1.45	or845年？
	1114	J-25・26	土坑４	天聖元寶	北宋	1023	2.50	3.39	
	1115	J-25・26	土坑４	天聖元寶	北宋	1023	2.40	3.29	
	1116	J-25・26	土坑４	嘉祐通寶	北宋	1034	2.50	2.79	
	1117	J-25・26	土坑４	景祐元寶	北宋	1034	2.40	2.70	
	1118	J-25・26	土坑４	嘉祐通寶	北宋	1056	2.30	3.66	
	1119	J-25・26	土坑４	元豊通寶	北宋	1078	2.30	2.70	
	1120	J-25・26	土坑４	元祐通寶	北宋	1093	2.50	3.67	
	1121	J-25・26	土坑４	不明	－	－	2.40	(1.53)	
	1122	J-25・26	土坑４	不明	－	－	2.30	2.68	
第205図	1325	H-20	空濠および土坑群	大世通寶	琉球	1454	2.40	2.79	
第226図	1390	F-11	１号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	(1.56)	
	1391	F-11	１号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	(2.19)	
第229図	1392	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	2.94	
	1393	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	2.58	
	1394	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	3.51	
	1395	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	3.02	
	1396	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	2.63	
	1397	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	2.96	
	1398	H-19	４号墓	洪武通寶	明	1368	2.30	2.44	
第271図	1628	H-27	不明遺構	景祐元寶	北宋	1034	2.50	(2.44)	
	1629	H-27	不明遺構	不明	－	－	2.30	1.92	
	1630	J-17	Ⅰ	嘉祐元寶	北宋	1056	2.30	2.60	
	1631	J-17	Ⅰ	慶元通寶？	南宋	1195	2.30	2.84	
	1632	J-17	Ⅰ	不明	－	－	2.30	(1.69)	
	1633	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.74	背上文字？
	1634	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.50	
	1635	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(1.88)	
	1636	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	3.28	
	1637	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.34	
	1638	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.30	
	1639	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.00	
	1640	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	2.83	
	1641	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.12	
	1642	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.12	
	1643	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.34	
	1644	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.86	
	1645	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.11	
	1646	G-14	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.58	
	1647	G-14	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.50	2.13	
	1648	G-14	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.00	(1.77)	
	1649	G-14	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	－	(0.99)	
	1650	G-14	Ⅰ	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.30	2.03	
	1651	G-14	Ⅰ	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.40	3.95	
第272図	1652	G-13	Ⅰ	開元通寶	唐	621	2.40	(2.32)	or845年？
	1653	G-13	Ⅰ	元符通寶？	北宋	1098	2.40	(3.70)	
	1654	G-13	Ⅰ	至大通寶	元	1310	2.30	3.74	
	1655	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.41	
	1656	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.21	
	1657	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.50	2.35	
	1658	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	(3.37)	背右文字？
	1659	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.23	
	1660	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	2.68	
	1661	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	(1.93)	
	1662	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.35	2.87	
	1663	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.76	

第45表　古代・中世出土銭貨観察表(2)

挿図番号	遺物番号	出土区	層位遺構	銭貨名	時代	初鋳年年	径cm	重さg	備考
第272図	1664	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.23)	
	1665	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.45	
	1666	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.35	
	1667	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.07	
	1668	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.38)	
	1669	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(1.98)	
	1670	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.83	背右一銭
	1671	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	(1.87)	
	1672	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.31)	
	1673	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.16)	
	1674	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.61)	
	1675	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.37	
第273図	1676	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.10	2.29	
	1677	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	(2.57)	
	1678	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.23)	
	1679	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	(2.03)	
	1680	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	2.47	
	1681	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.10	2.77	
	1682	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.74	
	1683	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	3.20	
	1684	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	3.15	
	1685	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.19	
	1686	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.60	
	1687	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.49	背右文字？
	1688	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	3.48	背上浙
	1689	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	2.80	背上浙
	1690	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.39	
	1691	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	3.25	
	1692	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	3.85	
	1693	G-13	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.87	
	1694	G-13	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.10	(2.20)	
	1695	G-13	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.60	2.75	
	1696	G-13	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.40	(2.38)	
	1697	G-13	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.40	2.74	
	1698	G-13	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.40	3.38	
	1699	G-13	Ⅰ	永楽通寶	明	1408	2.40	3.62	
第274図	1700	G-13	Ⅰ	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.50	3.22	
	1701	G-13	Ⅰ	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.30	2.70	
	1702	G-13	Ⅰ	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2.40	3.62	
	1703	G-13	Ⅰ	宣德通寶	明	1433	2.50	3.28	
	1704	G-13	Ⅰ	不明	－	－	2.20	2.23	
	1705	F-12	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.20	(1.80)	
	1706	D-12	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.54	
	1707	－	－	熙寧元寶	北宋	1068	2.40	2.37	
	1708	－	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.30	2.80	
	1709	－	Ⅰ	洪武通寶	明	1368	2.40	2.59	
拓本不能		F-11	１号墓	不明	－	－	－	(0.11)	
		F-11	１号墓	○武○○	不明	－	2.10	(0.66)	
		F-11	１号墓	洪武通寶	明	1368	2.10	(1.32)	
		F-11	１号墓	洪武通寶	明	1368	2.10	(0.64)	
		F-11	１号墓	不明	－	－	－	(0.39)	
		F-11	１号墓	不明	－	－	2.20	(1.01)	
		F-11	１号墓	洪武通寶	明	1368	2.20	1.62	
		I-19	２号墓	不明	－	－	－	(1.41)	
		I-19	２号墓	不明	－	－	－	(2.08)	
		H-18	近世建物	不明	－	－	－	(0.84)	

第46表　近世陶磁器観察表(1)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位遺構	胎土	釉（薬）	露胎	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第280図	1710	磁器　染付	碗	D-12	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前	10.5	4.2	7.0	一網目文
	1711	磁器　染付	碗	D-13	表	白色	透明釉（貫入）	－	良	肥前？	10.7	－	4.7	
	1712	磁器　染付	碗	D-12	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前	10.6	3.8	6.6	扇文
	1713	磁器　染付	碗	F-17	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前系（波佐見）	11.2	3.9	5.8	丸文
	1714	磁器　染付	碗	E-12	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前系（波佐見）	8.6	4.1	6.1	柳文
	1715	磁器　染付	小坏	D-13	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前系	5.9	－	3.5	鳥文
	1716	磁器　染付	小坏	D-13	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前系	5.6	3.6	3.2	山水文
	1717	磁器　染付	蓋	D-13	表	白色	透明釉	畳付	良	－	9.2	3.1	2.9	
第281図	1718	磁器　染付	皿	D-13	表	白色	透明釉	畳付	良		16.6	11.0	2.2	
	1719	磁器　染付	皿	D-13	表	白色	透明釉	畳付	良	肥前	14.0	8.6	2.7	丸文
	1720	磁器　染付	碗	D-13	表	白色	透明釉	－	良	肥前	11.5	－	3.8	内面牡丹唐草文 裏文唐草文
第282図	1721	陶器	碗	D-12	表	暗灰色	透明釉	口縁端部・畳付	良	苗代川系堂平窯	11.4	5.1	6.6	
	1722	陶器	碗	D-13	表	褐色	透明釉	高台畳付	良	竪野冷水窯	10.6	4.4	－	
	1723	陶器	碗	D-13	表	白色	透明釉	畳付	良	薩摩焼山元窯	－	4.8	3.5	
	1724	陶器	碗	C-13	表	灰白色	鉄釉　黒	腰部～高台内面	良	龍門司焼	－	15.5	－	
	1725	陶質時期	皿	D-12	表	灰色	透明釉	－	良	薩摩焼山元窯	13.8	6.6	3.0	
	1726	陶器	皿	D-13	表	褐色	透明釉	口縁端部一部	良	竪野系？	10.6	4.0	3.9	呉須の花文
	1727	陶器	皿	E-13 D-13 トレンチ	表	淡黄色	透明釉	腰部～ 高台内面	良	竪野系冷水窯	15.0	－	－	鉄絵
第283図	1728	陶器	蓋	トレンチ１	表	褐灰色	無釉	－	良	苗代川系堂平窯	7.1	庇径 9.3	つまみ 径1.3	上面にタタキ目
	1729	陶器	蓋	D-13	表	灰色	無釉	－	良	苗代川系堂平窯	上径9.3	下径8.7	－	
	1730	陶器	片口	D-13	表	灰褐色	灰釉 灰緑褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	12.6	7.8	10.0	内面に同心円状のタタキ目
	1731	陶器	片口	D-13	表	黄灰色	灰釉 浅黄色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	14.2	9.8	9.8	内面に同心円状のタタキ目
	1732	陶器	片口	D-13	表	橙色	灰釉 にぶい黄褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	13.4	15.8	13.4	口唇部・外底面に貝目外面に同心円状のタタキ目
	1733	陶器	片口	D-13	表	黄灰色	鉄釉 黒	口唇部	良	苗代川系堂平窯	26.6	－	－	口唇部に貝目
	1734	陶器	徳利	D-13 ピット17	表	褐灰色	灰釉 灰オリーブ色	内面	良	苗代川系堂平窯	－	7.8	－	
	1735	陶器	徳利	D-13 ピット17	表	灰色	灰釉 灰黄色	内面	良	苗代川系堂平窯	－	－	－	
第284図	1736	陶器	擂鉢	D-13	表	橙色	灰釉 灰オリーブ	口唇部	良	苗代川系堂平窯	32.8	11.4	15.8	口唇部・外底面に貝目
	1737	陶器	擂鉢	D-12 トレンチ８	表	にぶい赤褐色	鉄釉 黄褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	33.0	－	－	口唇部に貝目
	1738	陶器	擂鉢	D-13	表	赤褐色	鉄釉 黄褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	25.0	－	－	

第47表　近世陶磁器観察表(2)

挿図番号	遺物番号	種類	器種	出土区	層位遺構	胎土	釉（薬）	露胎	焼成	生産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
第284図	1739	陶器	擂鉢	D-13	表	にぶい赤褐色	鉄釉 黄褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	22.6	－	－	口唇部に貝目
	1740	陶器	蓋	D-12	表	にぶい灰褐色	灰釉 緑灰色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	28.8	－	－	口唇部に貝目
	1741	陶器	蓋	D-13	表	にぶい橙色	鉄釉 にぶい赤褐色	良		苗代川系堂平窯	37.0	－	－	口唇部に貝目
	1742	陶器	蓋	D-12 トレンチ８	表	にぶい赤褐色	灰釉 灰緑色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	31.6	－	－	口唇部に貝目
	1743	陶器	蓋	D-13	表	にぶい赤褐色	灰釉 灰褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	25.2	－	－	口唇部に貝目
	1744	陶器	蓋	D-13	表	にぶい橙色	灰釉 緑褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	24.2	上径 19.4	7.5	
第285図	1745	陶器	甕	D-13	表	褐灰色	灰釉 緑灰色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	24.2	－	－	縄目状の突帯，口唇部に（イタヤガイ？）
	1746	陶器	甕	D-13	表	褐灰色	灰釉 灰緑褐色	口唇部	長	苗代川系堂平窯	－	－	－	
	1747	陶器	甕	D-13	表	灰褐色	灰釉 黄灰色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	－	－	－	肩部にボタン状の装飾
	1748	陶器	甕	D-12 トレンチ８	表	黄灰色	灰釉 黄灰色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	17.8	－	－	口唇部に貝目
	1749	陶器	甕 または壺	D-13	表	褐色	鉄釉 黒褐色	－	良	苗代川系堂平窯	－	21.0	－	外底面に貝目
	1750	陶器	甕 または壺	D-13	表	灰褐色	灰釉 灰緑色	－	良	苗代川系堂平窯	－	21.6	－	外底面に貝目
第286図	1751	陶器	把手付甕	D-13	表	灰赤色	灰釉 暗灰黄色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	31.6	16.5	17.5	口唇部・外底面に貝目，口縁部直下にボタン状の突起付着
	1752	陶器	甑	D-13	表	灰褐色	鉄釉 黒褐色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	32.0	－	－	口唇部に貝目
	1753	陶器	甑	D-13	表	灰褐色	鉄釉 黒褐色	－	良	苗代川系堂平窯	－	17.0	－	外底面に貝目
	1754	陶器	壷	D-12 トレンチ８	状	黄灰色	灰釉 灰黄色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	14.8	－	－	口唇部に貝目
	1755	陶器	壷	D-13	表	灰褐色	鉄釉 緑黒色	口唇部	良	苗代川系堂平窯	14.2	－	－	口唇部に貝目
第287図	1756	陶器	植木鉢	D-13	Ⅱ	黄灰色	無釉	－	良	苗代川系堂平窯	33.4	15.0	17.1	口縁部と口唇部に装飾，胴部に花文のスタンプ・縄状の突帯，底部に円形の穿孔
第288図	1757	陶器	動物形 土製品	D-13	表	暗灰色	鉄釉 褐色	－	良	苗代川系堂平窯	幅5.6	－	高さ 3.8	犬形
	1758	陶器	碗	D-13	表	暗灰色	透明釉	－	良	肥前	11.8	－	5.2	
	1759	陶器	碗	D-12	表	黄白色	透明釉	畳付	良	肥前系	10.8	4.6	6.4	京焼風陶器　山水文
	1760	陶器	皿	－	表採	にぶい 黄橙色	灰釉 灰黄褐色	腰部～ 高台内面	良	肥前	－	3.7	－	内面に高台痕と胎土目痕４か所，外面に胎土目痕３か所
	1761	陶器	大皿 もしくは盤	D-13	表	灰色	透明釉	畳付	良	肥前	－	10.0	－	内面３ヶ所砂目跡あり 象嵌技法による三島手
	1762	陶器	餌擂鉢	D-13	表	赤褐色	透明釉？	内面	良	備前	10.4	3.3	3.0	
第289図	1763	陶器	高坏？	D-13	表	灰褐色	無釉	－	良	？	－	17.8	－	
	1764	瓦質土器	火鉢	D-13	表	にぶい黄橙色	－	無釉	良	？	31.0	－	－	
	1765	陶器	サヤ鉢	D-13	表	褐灰色	－	無釉	良	苗代川系堂平窯	－	15.9	－	内面に煤付着
	1766	陶器	甕？	E-13	表	にぶい橙色	鉄釉 黒色	口唇部	良	？	－	－	－	

第Ⅺ章　発掘調査のまとめ

１　旧石器時代

向栫城跡のⅦ層出土からは，旧石器時代ナイフ形石器文化・細石刃文化・縄文時代草創期の遺構・遺物が発見された。ナイフ形石器文化では，ナイフ形石器７点，台形石器７点，剥片尖頭器４点，尖頭器２点，三稜尖頭器１点，スクレイパー42点，二次加工剥片19点，楔形石器18点，石錐３点，剥片類８点，その他，細石刃文化の細石刃150点，細石刃核68点，ブランク９点が出土した。また，細石刃文化から縄文時代草創期にかけての石鏃97点，凹石・敲石・磨石も多数出土した。

遺物はⅦ層から出土したが，これらの遺物には時間差があり共伴遺物として捉えるには問題がある。また，出土状況であるが，第９・10図のようにブロック状にみられたが境界ラインが不鮮明で，一括して取り上げた。ただ，細石刃・細石刃核で多く利用された凝灰岩のブロックはＧ－10・11区に集中していた。ナイフ形石器は片側縁にブランティングが施されたもので，頁岩を石材に用いたものが主であった。台形石器は小型のもので，剥片尖頭器とは時間差があるものと考える。宮田栄二氏が「小原野型尖頭器」と呼んでいる両側縁を腹面側からの急角度でブランティングを施し，打面付近に基部調整を施した尖頭器も出土した。

細石刃・細石刃核の石材については特徴があり，細石刃は黒曜石が多く，133点の石材割合をだすと黒曜石67％（針尾28％，上牛鼻19％，腰岳12％，三船８％），凝灰岩20％，安山岩７％，細石刃核は68点中，凝灰岩66％，上牛鼻産20％，三船12％を示し，石材の相違があることがこの遺跡の特徴である。

遺構については，集石２基と配石遺構が検出された。配石遺構は一部後世の遺構等により破壊されていたが，県内の縄文時代草創期に検出される舟形配石炉と考えられる。

草創期の遺物については，土器と石鏃の共伴関係がある。石鏃は石材に特徴があり，安山岩製が多く97点中70点（72％），黒曜石19点（20％），その他８％となっている。（文責：牛ノ濵　修）

２　縄文時代

縄文時代は，中世から現代までの間の削平により，多量の遺物は出土したものの，包含層からの出土は少なかった。安定して出土したのは，Ⅶ層の草創期が主であった。特徴としては，調査区の南東端の部分のみからの出土であること，配石遺構が１基検出され，その形状は舟型配石炉に近いものであった。遺物は，石鏃が約80個程度と多量であったことである。また，土器は約350ほどの破片が出土した。その特徴は，風化は著しいが，隆帯上の刻目については２種に分けられる。刻目が細く深いものはヘラ状の施文具で，刻目が幅広く浅いものは貝殻の肋頂部の押圧痕を施すタイプであると言える。

他の縄文時代の時期では，早期，前期，中期，後期，晩期とほとんどの時期の遺物が出土している。量的には，南福寺式土器及び市来式土器が他の土器に比べて多いが，いずれも破片のみである。完形に図上で復元できたのは，縄文後期と思われる形式不明の無文土器が２点（736・737）のみであった。

遺構は，集石遺構数基と黒曜石原石の集積遺構1基（第48図）が検出された。これらの遺構は，中世で言う曲輪１と曲輪２の間の部分でほとんどが検出されたことから，たまたま削平をのがれ，残存し得たものであると言えよう。中世の遺構中から多量の石器が出土することからもこのことが伺える。また，前述の黒曜石の集積は，上牛鼻産の黒曜石で構成されており，遺構中から深浦式が１点出土し，その周辺からも深浦式の土器が出土したことから，この黒曜石原石集積遺構は，深浦式の時期に近いものと考えられる。（文責：木之下悦朗）

３　古墳時代

古墳時代は，11軒の住居跡が縄文時代草創期の遺物が出土した位置とほぼ同じ，調査区の南東部から検出された。これら11軒以外に表土からは，多量の成川式が出土したこと，住居跡も検出面から床面までが20㎝前後であることを考えると，かなりの数の住居跡が存在していたことが考えられる。

住居跡のプランは，ほとんどが方形であり，切り合いはあるものの，検出された遺物の甕形土器で考えると，ほとんどがゆるやかな「く」の字状に外反するものばかりであり，成川式土器のなかでも，中津野式から東原式の時期にかけてのものと考えられる。

また，遺物として特徴的なものは，１号住居跡床着の破鏡（950）と10号住居跡を中心として出土したタタキのある土器である。破鏡は，表裏面とも非常に滑らかで深緑色の光沢があるものである。ただし，それ以上の特徴がないため，鋳造時期や出自については明らかにし得なかった。

タタキのある土器については，平行タタキがほとんどであり，作りは粗くいびつなものが多いが，内面のナデは丁寧であり，当て具が観察できるものはあまりない。器形については，1040のように成川式土器の甕形土器を意識したものと，1067や1068などの破片からすると，須恵器の甕のような大型のものも存在していたのではないかと考えられる。また，この土器は，現在までのところ旧東町の山門野遺跡，旧川内市の麦之浦貝塚及び現在整理中の旧金峰町の上水流遺跡などだけであり，それも東シナ海沿岸の遺跡のみだけである。今後の，資料の増加に期待したい。（文責：鶴田靜彦）

４　古代

古代の遺構・遺物は旧石器時代，縄文時代草創期，古墳時代の遺物・遺構が検出された調査区南東部，いわゆる曲輪３が中心で曲輪１から土坑数基が検出されている。その間の曲輪２の部分からは，全く古代に関連する遺物・遺構はみられなかった。後世の削平については，他の時期と同様で著しく，表土からは多量の土師器が採集された。

古代においては，竪穴遺構１基，円形周溝遺構１基，土坑５基が検出された。曲輪３では，竪穴遺構１基，円形周溝遺構１基，土坑２基が検出された。竪穴遺構については，遺構内出土の土師器甕は，外面はナデやハケ目が，内面は底部からはケズリが上面に向かい，腹部は左斜め上に向かって施され，また口縁部にはハケ目が施されている。器面調整や器形から判断すると，大島遺跡では甕２類，高篠遺跡では，甕８類・時期はⅢ期に類似することから，９世紀～10世紀のものと考える。

円形周溝遺構については，南東側１/３部は削平により消滅していた。周溝の主体部南側から，土師器の皿２枚と坏２枚の計４枚の土師器を検出している。全て底部の処理はヘラ切り底であり，その後の成形等は若干の板ナデ状のものが観察される。調整や器形から判断すると，皿は大島遺跡の皿３類，高篠遺跡では，法量が小型，形態はⅢ類，時期はⅢ期に，坏は大島遺跡の坏10類，高篠遺跡では，坏６類，法量は大型，形態はⅢ型，時期はⅢ期に類似するものである。これらのことから，この円形周溝遺構も，遺物から９世紀～10世紀の遺構と言えよう。

また，特殊な遺構として，土坑１と土坑２がある。いずれも縄文時代の大型の石器を転用したものと思われ，これらの上面や周辺には，カーボンや土師器の小片が大量に散乱していた。何らかの特殊な土坑として，作られたものと思われる。

遺物としては，Ｆ－11区において１点ではあるが，越州窯系青磁の碗の底部（1142）が出土している。黄緑色を呈する蛇の目高台の青磁碗で10世紀頃のものであると思われる。

曲輪１では，３基の土坑が検出された。土坑４では，銅銭10枚が出土している。銅銭から11世紀～12世紀前半（P180の表参照）の遺構と考えられる。なお，この遺構の東側は，大規模なシラス採取がおこなわれたことから，東側にも遺構が存在していた可能性は，中世を含めてきわめて大きいものと言える。（文責：木之下悦朗）

５　中世

（１）中世の東市来

現在の日置市東市来町は古代の律令制下では日置郡にあたる。やがて当地は市来院と呼ばれるようになり，郡司である市来氏が治めていた。市来氏は宝亀年間（770年～780年）に薩摩国に下向した大蔵姓市来政房を祖とする。やがて大蔵姓市来氏は鎌倉時代前期,家房の時に嗣子がなく，薩摩郡の土豪である惟宗姓国分友成の子政家が継いで，以後惟宗姓となった。元寇の際，惟宗姓市来政家は島津久経に従って博多に出陣している。

南北朝時代になると，島津氏５代貞久は北朝側の足利尊氏から市来院地頭に任ぜられた。そのため南朝方の市来院郡司市来氏と激しく対立し，市来（鶴丸）城（長里地区）を中心にしばしば合戦が行われた。特に建武４（1337）年～暦応３（1340）年には２代資家・３代時家が，南朝の三条泰季に属して，河上家久や伊集院忠国らと共に島津貞久勢と激しく戦った。その結果，興国２（1341）年に市来城は落城し，市来氏は降伏した。しかし，それ以後も市来城は市来氏によって領有された。争いは続き，文和２（1353）年，４代氏家が南朝方の伊作田兵部丞（伊作田城主）と共に挙兵し，貞久の居城木牟礼城（出水市高尾野）を攻めている。

15世紀に入り，島津家の内部抗争はあるものの，当地は市来氏による領有が続いた。やがて，７代久家は守護島津忠国と激しく対立した。そして，寛政３（1462）年に忠国の世子10代立久が市来城を落城させ，市来氏は滅亡した。久家は追放となり，替わって文明６（1474）年からは島津家重臣の高橋高幸と曾木某が配された。滅亡後の市来院は，薩州島津家による支配となる。

16世紀に入り，守護島津勝久，薩州家島津実久，相州家島津忠良・貴久父子の対立が激化するが，市来勢は薩州家出水島津家に与している。天文８（1539）年，実久は市来院地頭に新納忠苗を任じ，島津忠房と共に市来城を守らせていたが，貴久率いる薩州勢に攻められ落城した。それ

以後は，貴久の武将，新納康久が城番となった。その間当城には，天文19（1550）年にフランシスコ・ザビエル，永禄４（1561）年にはルイス・アルメイダが滞在し，布教を行っている。

藩政時代には旧市来町を含め市来郷と呼ばれ,藩の直轄領となった。市来城はその役目を終え，自然廃城となり，城山を中心として武士の居住する麓が形成された。地頭仮屋は初め当地に置かれていたが，やがていちき串木野市湊町に移った。現在，長里地区の麓には「カンヤドンイド（仮屋の井戸）」と呼ばれる古井戸が残っている。

最後に向栫城の所在する伊作田地区について述べる。向栫城の南側には広大な伊作田水田が開け，江口川を挟んで栫城，伊作田城が対峙している。伊作田城は南北朝時代に伊作田氏が築き居城していた。伊作田道材は市来氏と共に南朝に属していたが，伊作島津家に敗れ，当地で処刑された。当地には７基の宝塔・五輪塔があり，これらは伊作田道材と家臣の墓と伝えられている。また，無形民俗文化財に指定されている伊作田踊りはこの道材の慰霊が主になっている。向栫城の居城者が誰であったかは定かではないが，伊作田惣地頭であった伊作田氏の管理下にあった可能性は否定できない。藩政時代には，向栫城に隣接する弁財天岳（遠見番山）には，異国船の監視にあたる遠見番が置かれた。向栫城も海を臨み，展望のできる場所にあり，得仏城・市来城・平之城などの一連した城群の出城的な機能に適していると考えられる。向栫城からは，12世紀から17世紀前半に至るまでの遺物が出土していることから，17世紀の一国一城令が出される時期までは城館として機能していたことは明らかである。（文責：松元佑輔）

（２）向栫城について

・遺構

空堀・曲輪等

大きな意味で、防御として向栫城跡の遺構をとらえると，堂園平遺跡との間には，南九州特有のシラスの開析谷という自然地形を利用した空堀,そして空堀の中にも曲輪を作っている。また，その周辺には，小さな空堀を分岐させて作り，本体の曲輪の斜面には，いくつにも帯曲輪を廻らすなど空堀の機能を強化させている。

曲輪１の南西側から曲輪２の西側にかけては,「空堀及び土坑群」,「大型円形土坑」と便宜上呼称したが，堀や溝と土坑を巧みに組み合わせて西側からの寄せ手に備えているように思える。また，路線外ではあるが，東側には，土塁と空堀状の谷が存在している。曲輪２の南側に立ち伊作田城及び東シナ海を眺めると何もさえぎるものはなく,「眺望」が大きな防御施設であると言えよう。

掘立柱建物跡

曲輪１のＩ・Ｊ－25・26区から３棟検出した。標高約50mに位置し，南側に曲輪２を臨むことができる。掘立柱建物跡２と掘立柱建物跡３は軸を同じくし，掘立柱建物跡１は掘立柱建物跡２と切り合っていることから，使用時期が２期に分かれる。遺物は出土していないが，同じく曲輪１の不明遺構（Ｈ－27区）からは中世の遺物が出土していることから，同時期の遺構であると考えられる。

竪穴遺構

曲輪２のＩ・Ｊ－17・18区で３基検出した。３基とも平面形は方形で，東西方向にやや長い軸

を持つ。なお，竪穴遺構３から採取された２点のサンプルは科学分析の結果，床面近くの木炭は鎌倉時代後期，埋土中の炭化材は室町時代前半期の値を示した。この結果は遺構の使用または廃棄の時期を考える上で重要な資料となった。埋土中からも当該期に近い時期の遺物が出土していることからも，時期設定は妥当なものであろうと考える。

堂込秀人氏は，中世山城における竪穴遺構について，掘立柱建物跡の周辺に位置し，鍛冶場などの鉄関連施設や皮革製品の加工工房としての機能を持つものとしている（堂込1999年）。県内の中世城館での検出例には，阿久根市中之城跡，薩摩川内市上野城跡などがある。

中之城では竪穴遺構と考えられる方形土坑が４基確認されているが，遺跡からは向栫城跡の炉跡に類似する焼土遺構も４基確認されている。上野城跡では方形竪穴遺構5基に伴って中世掘立柱建物跡が32棟確認された。本遺跡の曲輪２では竪穴遺構の北側にあたるⅠ－20・21区から，９基の炉跡が検出されている。また，掘立柱建物跡は３棟とも曲輪１で検出されているため，明らかに曲輪ごとに遺構の機能を分けていた可能性がある。

本遺跡の炉跡が鉄関連の施設として使用されたかは定かではないが，竪穴遺構との何らかの関わりがあったことは確かである。

炉跡

向栫城は３か所の曲輪からなる中世城館である。全19基の炉跡は曲輪１の第１地点と曲輪２の第２地点・第３地点において集中して検出された。県内の類似する遺構には，炉，炉状遺構，竈（カマド），カマド状遺構，焼土を伴う土坑などが挙げられる。また，中では鉄関係の炉としての機能が注目され，カマド状遺構が鍛冶炉に転用されたという事例もある。本遺跡からはＧ－10区で鞴の羽口が１点出土したものの，鉄滓や鍛造剥片といった鉄生産関係の遺物は出土しておらず，鍛冶炉としての断定は難しかった。しかし，遺物が出土していないだけで，鍛冶炉として使用された可能性も考えられる。そのため本報告書では炉跡とした。内部構造の詳細についてはすでに述べたが，これらの炉跡は形状からして大きく３種類に分けられることがわかった。以下，分類をもとに地点ごとに説明を行なう。遺構の位置については，**第240図**の炉跡位置図を参照していただきたい。

Ⅰ類：平面形は楕円形（長楕円形），あるいは瓢箪形を呈している。炉部・焚き口部・灰出し部にはっきりと区分できるもので，炉部は半円形又は馬蹄形のものがある。底部の床面は船底のように平坦である。全19基の炉跡の大半を占める。**１・２・３・４・５・８・10・15・16・17・18・19号炉跡**がそれにあたる。

Ⅱ類：形態はⅠ類に似ているが，灰出し部がⅠ類ほど明確に区別できない。また，灰出し部の上面に粘土が厚く堆積している。この粘土は，炉壁とは明らかに色調を異にしており，白みを帯びている。Ⅰ類に比べて炉壁の残存状態が良い。第２地点（曲輪２）で検出された。**９・11・12・13号炉跡**がそれにあたる。

Ⅲ類：円形の炉部のみで，焚き口部と灰出し部は確認されない。３基のみであり，第２地点（曲輪２）で検出された。**６・７・14号炉跡**がそれにあたる。

第１地点（曲輪１）では１号炉跡から５号炉跡までの５基が検出されている。２号炉跡及び，４号炉跡は残存状態が悪いため類別が困難であったが，ここではⅠ類とした。１・３・５号炉は

Ⅰ類にあたる。使用時期の差を明らかにすることはできなかった。ただ，炉跡の集中しているＦ・Ｇ－12・13区からは中世後半期の青花が出土している。また曲輪１全体をみると，明代の古銭や中世墓といった中世の遺物や遺構が確認されていることからも，同時期の遺構であると考えられる。

第２地点（曲輪２）では６号炉跡から14号炉跡までの９基が検出された。６・７・８・11号炉跡からは炭化材が採取された。鎌倉時代後半から江戸時代初頭にかけて使用された炉跡群であることが判明した。Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類は同時期に使用されていることから，これらは機能に違いがあったと考えられる。また，Ⅱ類の灰出し部に堆積していた粘土は，色調も黄白色であり，炉壁とは明らかに異質なものと考えられた。しかし，色調の違いは被火の具合によるもので，単に炉壁の上部が崩れて堆積した可能性も考えられる。ここではⅠ類とⅡ類を区分したが，本来同類の遺構であるかもしれない。この第２地点は最も炉跡数が多く，遺構の南部には竪穴遺構が３基集中している。曲輪ごとに分業を行なっていた可能性が高い。

第３地点（曲輪２）からは，15号炉跡～19号炉跡までの５基が検出された。すべてⅠ類であり，長軸も同一方向に設定されている。曲輪２は第３地点と第２地点との間に空堀及び土坑群が所在している。中世の陶磁器が多く出土していることから，中世の遺構と考えられる。

中世の炉跡について県内の事例をみてみると，出口浩氏は川上城跡において平面形からＡ（円形）とＢの（長楕円形）の2タイプに分類している（鹿児島市教委1994年）。Ａタイプは小ぶりな礫を半円形ないし馬蹄形に並べるものである。炉壁の高さや，灰出し部が明確に確認できないもので，臨時的又は短期的に利用された簡易的な炉とした。鹿児島市川上城跡の他に霧島市横川城，日置市一宇治城，鹿児島市谷山弓場城等で出土している。鹿児島市油須木城跡でＡタイプとされている炉跡は，礫ではなく粘土で炉壁が形成されていた。本遺跡の炉跡も，炉壁はすべて粘土で形成されており，礫を使用したものは確認されなかった。このタイプは本遺跡のⅢ類と類似している。

Ｂタイプは炉部・焚き口部・灰出し部などが区別できるもので，比較的精巧に作られるものである。炉壁等は凝灰岩礫を含む粘土でしっかりと焼き締められ，床面には焼土・灰の堆積が多くみられる。地域の拠点となる山城・城館や中心郭などにみられるもので，長期間に多くの人々が使用したものとされた。川上城，横川城，一宇治城の他に，鹿児島市油須木城，大口市平泉城，さつま町松尾城及び宗功寺跡，加世田市上加世田遺跡－１第Ⅱ地点等で出土している。中世の炉跡で最も検出例が多く，本遺跡のⅠ類に類似している。また，大崎町金丸城跡で検出された炉跡は，焚き出し部で軽石がゲート状に並ぶものであった。こうしてみると，炉跡は主に２つに分類できるが，これらは一様に同じ遺構とは言えず，在地によって多様性があることがわかった。それらは遺跡の立地や環境，又は機能の違いよるものと考えられる。（文責：松元佑輔）

・遺物その１

さて，この城の築城から廃城までの足取りは，その遺物などからある程度伺える。なかでも陶磁器の出土が多いため，これらを参考に本城の変遷について考えてみたい。

曲輪３で出土した青磁及び土師器の埋納一括資料は，龍泉系初期のものである。また，玉縁口縁の白磁碗も多数出土していることからも，この城の築城は12世紀末から13世紀に始まったと言

える。

次に多いのが蓮弁文系等の青磁碗である。日本の歴史の中に位置付けると，南北朝の動乱期にあたり，前述の「中世の東市来」とも符合する。空堀や土坑等からも当該期の遺物が多量に出土している。何回もの城の造成と幾多の攻防があり，築城当時からの城の形もこの時期に大きく変わったと考えられる。また、この時期が最も活発に城が機能していた時期と言えよう。

その後は，線描蓮弁文型や白磁皿などの出土の時期であり，戦国時代にあたると言えよう。これら以外に，目立つのが，漳州窯系の遺物である。この漳州窯は1585年から1615年ごろまでの間と言う短い間だけ機能していたと言われている窯である。この窯産と思われる遺物が非常に多く，図化したのは1593～1607だけであるが，その何倍以上もの量が出土している。この漳州窯系の青花が山城としては，中世最後の出土遺物と言える。

・遺物その２

ここでは，特異な遺物について触れておく。1462は，最近本土でも最近散見するようになってきた徳之島産のカムィヤキである。1608～1610は，福建広東窯系の褐釉壷でその時期は，13世紀代と思われる。1498は，見込みには如意頭文，外面には線象嵌を施す高麗青磁で高麗末から朝鮮王朝初期のものである。

1292・1293は，普通茶釜として用いられ，茶室で木炭で安定した温度に保っておくため，大きな火力は必要としない。ところが，本城出土のものは鍔から下はススで真っ黒なことから，大量の湯の必要性があったと考えられる。1310・1311は，朝鮮王朝白土粉青の青磁の丸皿で，忠清南道保寧「龍水里窯」産で，時期は14世紀末であろうと，「龍水里窯」を発掘された韓国の羅善華先生からご教示いただいた。1579は，粘土紐を貼り付けて高台とし，菊花文を型押ししたもので，志野白釉輪花小皿で，日常食器ではないものと思われ，その時期は，16世紀末～17世紀初頭である。1612は，熊本県の浜の館で，対で出土したことで知られる緑釉陰刻牡丹文水注である。時期は，浜の館では15世紀末としている。1621～1627は，天目碗で，1621はガラス質の厚い釉掛，胎土等から中国産と思われる。他は，美濃産である。

1580～1584・1586・1588～1592は，景徳鎮系の青花である。特に，1589は，メンコとして用いたような加工の跡がある。また，1592の高台内は，景徳鎮特有の鉄鉋の跡が明瞭に観察されるものである。

1349・1613～1617は，最近南九州でだんだん資料が増えつつある黒褐色を呈する陶器で，中国南部のものではなかろうかと言われているものである。（文責：鶴田靜彦）

６　近世

近世の遺構は，Ｈ－18区いわゆる曲輪２の南端部とＤ－13区を中心とする曲輪３より一段低い部分の２か所から検出された。

・掘立柱建物跡について

Ｈ－８区から検出された掘立柱建物跡は４軒×１軒でその桁行は東西である。柱穴の径も50㎝前後で，柱痕跡が最大で40cmと言うような柱穴もある。ほとんどの柱穴が根石を持ち，柱の高さ調節用の土の上に根石を置き，その上に柱が建てられていたものと思われる。削平された部分を

考慮すると柱は，１m以上の埋設部分があったと想像される。291ページの柱穴間の計測値からもかなり大規模で特殊な建物であったことが考えられる。

次に向栫城におけるこの建物の立地条件をみて見ると，尾根状の最も見晴しの良い場所（標高約50m）で，伊作田の水田地帯が一望に見渡され，そして，その先には，伊作田城，東シナ海が見渡せ，振り向くと鶴丸城が見えると言う位置である。また，長辺である桁行は８mあり，東シナ海に平行しているように建てられたかのように思える。

このように，この建物の規模及び立地条件を考慮すると，その性格は，物見櫓的なものと考えられる。時期については，根石を持つ建物であること，建物の柱穴から近世の遺物の小片が若干出土したのみであることなどから，未だ，中世の凄惨な攻防の匂いの残る時期，中世末から近世初期と思われる。（文責：鶴田靜彦）

・近世の陶磁器について

D-13区を中心に，その周辺から陶磁器が出土した。これらの陶磁器は，同区で建物跡としては確認できなかったが柱穴が数多く検出されていることから，当時何らかの建物が存在し，それに伴う遺物であると考えられる。そこで出土した遺物から，この柱穴群の性格について若干の考察を述べておきたい。

出土した遺物は肥前系磁器・薩摩焼・肥前系陶器等であり，その中で目に付く特徴は次のようなことである。

肥前系磁器（1710～1720）について，1713・1714は18世紀後半～19世紀代と思われる染付で，波佐見焼のくらわんか碗であるが，その他は17世紀後半～18世紀代と思われる肥前の染付・白磁や１点であるが色絵の碗も見られ，上手の製品である。また，未掲載の陶片の中にも上手のものが多い。

薩摩焼（1721～1757）は出土した陶磁器の中でも多く，その中でも苗代川焼（1721・1728～1757）が大部分を占める。器種は碗・蓋・片口・徳利・擂鉢・甕壷用の蓋・甕・壷・把手付甕・甑・植木鉢・動物形土製品等様々なものが出土している。胎土は緻密で灰褐色系の色調を呈し，光沢の弱い褐釉や灰緑色系の灰釉が薄くかかる。成形方法は粘土紐巻き上げ後，タタキ成形を行っている。その他器形や器種の構成等から，これらの苗代川焼は堂平窯（日置市東市来町）のⅡ期（17世紀中頃～後半）の製品と考えられる。堂平窯の製品については近年の報告書刊行によりその様相が明らかにされたため，消費地での出土例は少ない。本遺跡は堂平窯と同じ日置市東市来町に所在するという地理的な条件もあり，堂平窯の製品が出土することは不思議ではないが，今回のような器種構成で大量に出土したことは，柱穴群の性格を考える上で興味深い資料である。中でも植木鉢は，藩の特注品として生産されていたものと思われ，その流通も限られた社会的身分のみであったと考えられる。その他の薩摩焼としては，竪野系の製品で「白薩摩」と呼ばれる白色陶胎の碗（1722）や皿（1726・1727），山元窯（姶良郡加治木町）の碗（1723）や皿（1725）等，17世紀後半のものと思われる資料が出土している。特に竪野系白薩摩については，渡辺芳郎氏が，当時の社会的身分や階層と結びついて流通している可能性を指摘しており，柱穴群の性格を考える上で興味深い資料である。

肥前陶器は，18世紀前半頃と思われる京焼風陶器が出土しているほか，やや時代は遡るが16世

紀末～17世紀始め頃と思われる胎土目の皿、砂目で象嵌技法による三島手の大皿も出土している。その他，備前産の餌擂鉢が数個体出土している点も興味深い。

以上のことからＤ－13区を中心とした地域から出土した陶磁器は，17世紀後半頃と思われる資料が中心であり，その様相としては，上手の肥前系陶磁器や堂平窯産の植木鉢，竪野系の白薩摩，肥前産の餌擂鉢が出土していることなどから，当時の社会的身分や階層を有するものが使用していた可能性が考えられる。従って柱穴群の性格を考察すると，建物跡には復元できなかったものの，この場所に17世紀後半を中心とした時期に地方役人クラスの屋敷等の建物が存在した可能性が考えられよう。（文責：関明恵）

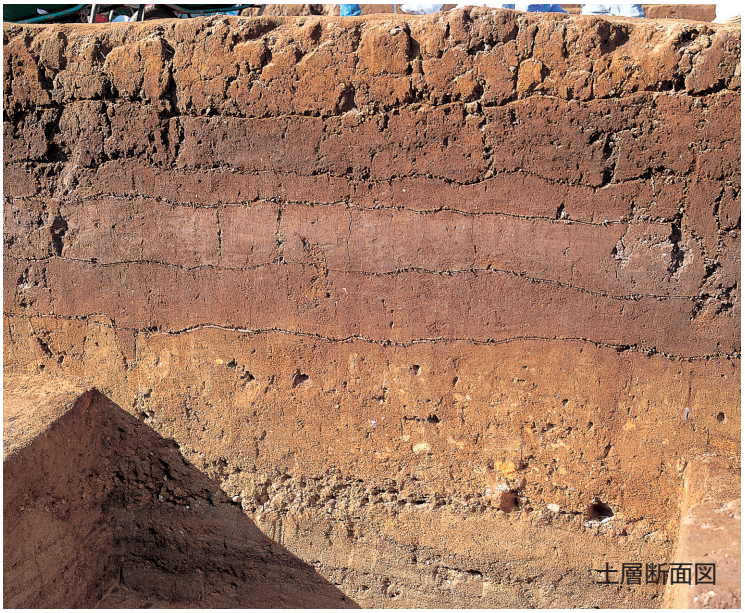
＜参考文献＞

『九日田遺跡』1993　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（２）
『一湊松山遺跡』1996　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（19）
『干迫遺跡』1997　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（22）
『垂水・宮之城島津家屋敷跡』2003 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（48）
『楠元遺跡』2003　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（57）
『上野城跡』2004　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（68）
『上ノ平遺跡』2004　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（70）
『高篠遺跡』2004　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（71）
『桐木遺跡』2004　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（75）
『大島遺跡』2005　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（80）
『桐木耳取遺跡』2005　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（91）
『中ノ原遺跡』2006　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（102）
『堂園平遺跡』2006　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（104）
『市ノ原遺跡５地点』2006　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（105）
『堂平窯跡』2006　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（106）
『安茶ヶ原遺跡』2007　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（118）
『中原遺跡』2003　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（54）
『苦辛城跡』1983　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（27）
『成岡遺跡・西ノ平遺跡・上ノ平遺跡』1983　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（28）
『鹿児島県の中世城館跡－中世城館跡調査報告書－』　1987　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（43）
『榎崎Ａ遺跡』1992　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（63）
『太宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』　2000　太宰府の文化財（49）
『草野貝塚』　1988　鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（９）
『谷山弓場城跡』　1992　鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（11）
『川上城跡』　1994　鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書（18）
『油須木城跡』　2003　郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書（４）
『平泉城跡』　1982 大口市埋蔵文化財発掘調査報告書（１）
『山門野遺跡』　1983　東町埋蔵文化財発掘調査報告書（１）
『中之城跡』　2003　阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書（４）
『金丸城跡』　2004　大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（４）
『中原遺跡』　1985　志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（９）
『一湊松山遺跡』　1981　上屋久町埋蔵文化財発掘調査報告書
『川上（市来）貝塚』　1991　市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（１）
『川上（市来）貝塚』　1993　市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（２）
『伊作田城跡』　1995　東市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（６）
『松尾城及び宗功寺跡（３）』　1997　宮之城町埋蔵文化財発掘調査報告書（７）
『上之城跡』　1980　加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（２）
『上加世田遺跡-１（第Ⅱ地点）』　1985　加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書（3）
『麦之浦貝塚』　1987　川内市土地開発公社　本川地区造成事業に伴う文化財発掘調査報告書
『柳井谷遺跡』　1986　志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（６）
『日輪城跡』　2003　大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書（28）
『浜の館』阿蘇大宮司居館跡　1977　熊本県教育委員会熊本県文化財調査報告書（21）
『歴史の道調査報告書　第1集「出水筋」』　1993　鹿児島県教育委員会
『鹿児島考古』第25号「市来貝塚特集」　1991　　鹿児島県考古学会
『鹿児島考古』第28号「特集　鹿児島県の中世山城」　1994　鹿児島県考古学会
東洋陶磁学会編　2002　東洋陶磁史―その研究の現在―
九州陶磁学会編　2000　九州陶磁の編年―九州近世陶磁学会10周年記念
日本貿易陶磁器研究会編　1998　貿易陶磁研究　No.1-No.5　六一書房
中世土器研究会編　1995　『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社
海剛美術館編　『海剛陶磁美術館　海剛美術館図録　第１冊』1990 海剛美術館
兵庫埋蔵銭調査会編　1996　日本出土銭総覧　兵庫埋蔵銭調査会
鹿児島県立埋蔵文化財センター編　2004　「研究紀要・年報」『縄文の森から２号』　桑波田武士　「石清水型削器小考」
渡辺芳郎　2000　「宋胡録と薩摩焼宋胡録―考古学資料の検討―」『メコン流域の文明化に関する考古学的研究』鹿児島大学法文学部
渡辺芳郎　2001　「考古学から見た近世薩摩焼」『鹿児島のプロフィール２』鹿児島大学
小都　隆　2005　『中世城館の考古学的研究』　渓水社
竹内 理三編　1983　『角川日本地名大辞典・46 鹿児島県』角川書店
芳 即正・五味 克夫編　1998　『日本歴史地名大系第47巻・鹿児島県の地名』平凡社
東市来町誌編さん委員会　2005　『東市来町郷土誌』

写　真　図　版

空堀遠景

図版 2


土層断面図

調査中の故 勇氏

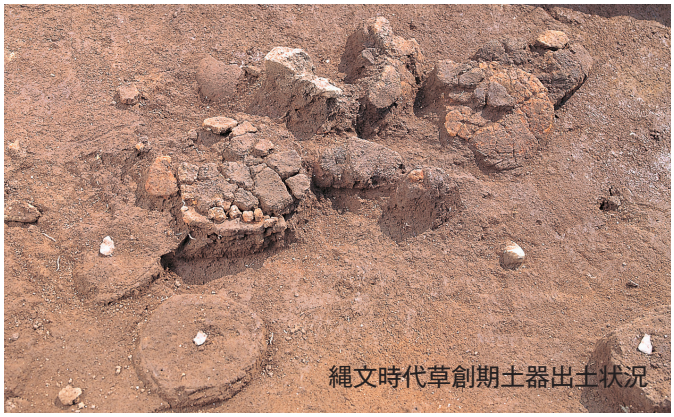
発掘風景

土層断面図・調査中の故勇氏

剥片尖頭器出土状況

旧石器時代遺物出土状況

縄文時代草創期遺物出土状況


縄文時代草創期土器出土状況

配石遺構

旧石器・縄文時代草創期遺構